



東京科学大学 医歯学系
入学案内 2025

科学の進歩と、人々の幸せと。

科学の進歩と、人々の幸せと。

その探求にこそ、私たちの進むべき道はある。

あくなき前進に不可欠なのは、

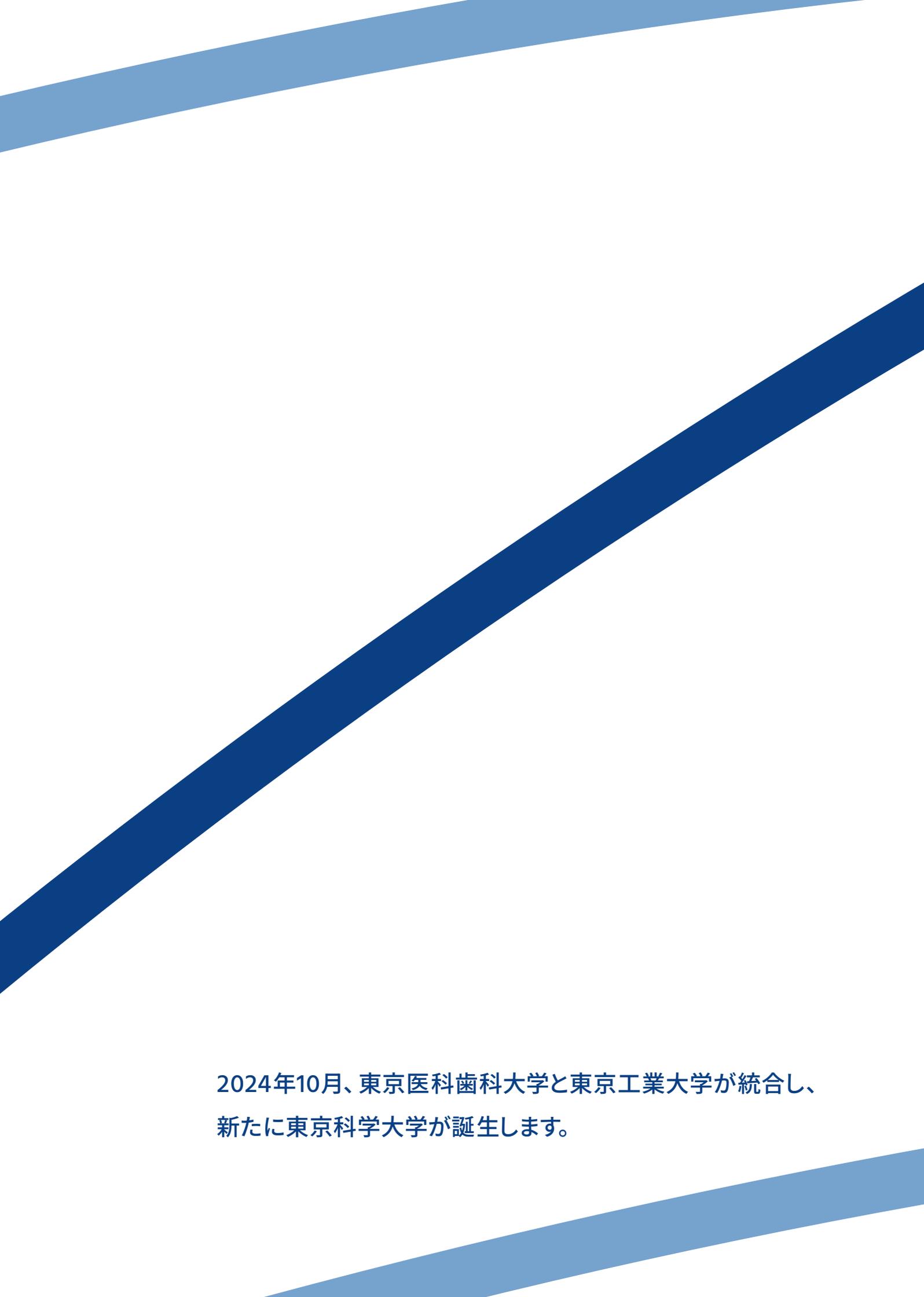
学問や研究分野、組織の垣根を超え、あらゆる知と技術とを融合させること。

一人一人の個性や想いを尊重し、豊かな人間性と創造の文化を育むこと。

より良い未来への変化を導くため、自らを意欲的に変革し続けること。

世界を切り拓く先駆者として、

社会とともに新たな価値を創造し、科学の可能性を拡張する。

The background features three thick, curved blue lines. One is a light blue line at the top, a dark blue line in the middle, and another light blue line at the bottom, all curving upwards from left to right.

2024年10月、東京医科歯科大学と東京工業大学が統合し、
新たに東京科学大学が誕生します。

Science Tokyoを目指す学生の皆さんへ

社会とともにある 大学を目指して

東京医科歯科大学 学長 田中 雄二郎

東京科学大学は、社会課題に積極的に取り組む大学でありたいと考えています。そう考える背景には、新型コロナウイルス感染症対策に正面から立ち向かった東京医科歯科大学としての経験があります。「力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る」「試行錯誤を大切に」「責めるより応援しよう」。この3つをモットーにした私たちの取り組みは、多くの反響とご支援をいただき、大学が社会とともにあることを強く再確認しました。

ダーウィンはかつて「生き残るのは環境の変化に最も対応した生物である」と言ったといわれています。次にまたパンデミックや自然災害等が起こったとき、社会のために私たちには何ができるか。今回の東京工業大学との統合は、まさにその適応に向けた挑戦の一つです。医学と理工学が手を取り一つの方向に向かえば、未来を拓く大きな力となるでしょう。そして適応を目指すだけでなく、皆さんにはぜひ「変化そのものをつくり出す側」になるという気概や熱意も抱き、新しいことに挑戦してほしいと思います。

これまで東京医科歯科大学は「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」という理念を掲げてきました。これからは目の前の人々のために力を尽くすと同時に、より広く社会にも目を向けていきます。ぜひ本校で学び、知性と優さを兼ね備えた医療の匠となって、ともに社会と人々の幸福に貢献し続けていきましょう。



Brand Action

学生も教職員も、 みんなで新大学を創る プロジェクトが始動

新しい大学を創り上げるために、みんなが関わり、みんなで作るブランディングプロジェクト「東京科学大学Brand Action! (ブランド・アクション)」がスタートしました。第1弾は、昨年開催された両大学の学園祭で、新大学の将来像について投票イベントを実施。東京科学大学からイメージされる色や形から、大学として大切にしたいことなど、総計3,000以上の投票が集まりました。これらの投票結果は、今後の大学運営に活かされていきます。本プロジェクトは、今後も定期的に活動を行っていく予定です。これまでにない新しい大学を創り上げていく取り組みに、あなたも参加してみませんか。

多様性と可能性を 創造の喜びへ

東京工業大学 学長 益一哉

東京工業大学は、これまで「科学技術による真理の探求と新たな産業の創出」をミッションに掲げ、一人一人が新たな領域へチャレンジすることで革新的な成果を上げてきました。

今回の東京医科歯科大学との統合では、「医工連携」や「工医連携」により科学技術の可能性がさらに広がります。それは、これまでにない産業を興す「新しい何か」を生み出すことにもつながっていきます。

イノベーションの基盤として大切なことは、多様性の尊重です。異なる人々、経験や知識、考え方が重なり合うことで、柔軟で新しい発想がもたらされます。ですから新大学では、意識的に研究者や学生が交流できる場を設け、新しいものが自然と生まれるような環境を増やしていきます。ここでの学びや交流は、皆さんを創造の喜びへと導いていくことでしょう。

東京科学大学が目指すのは、人々がウェルビーイングを感じられる社会の創出です。きっと皆さんも、世の中を良くしたい、人々を幸せにしたいという願いを抱えていますよね。変化の激しい今、10年後の社会や幸福を見通すことは簡単ではありませんが、それでも自分の直感や決断を信じ、意志を持って考え、行動し、挑戦し続けてください。

そして「この世界に生きていて良かった」と実感できる未来を実現していく。そんな大学を、皆さんと目指していきたいと思います。



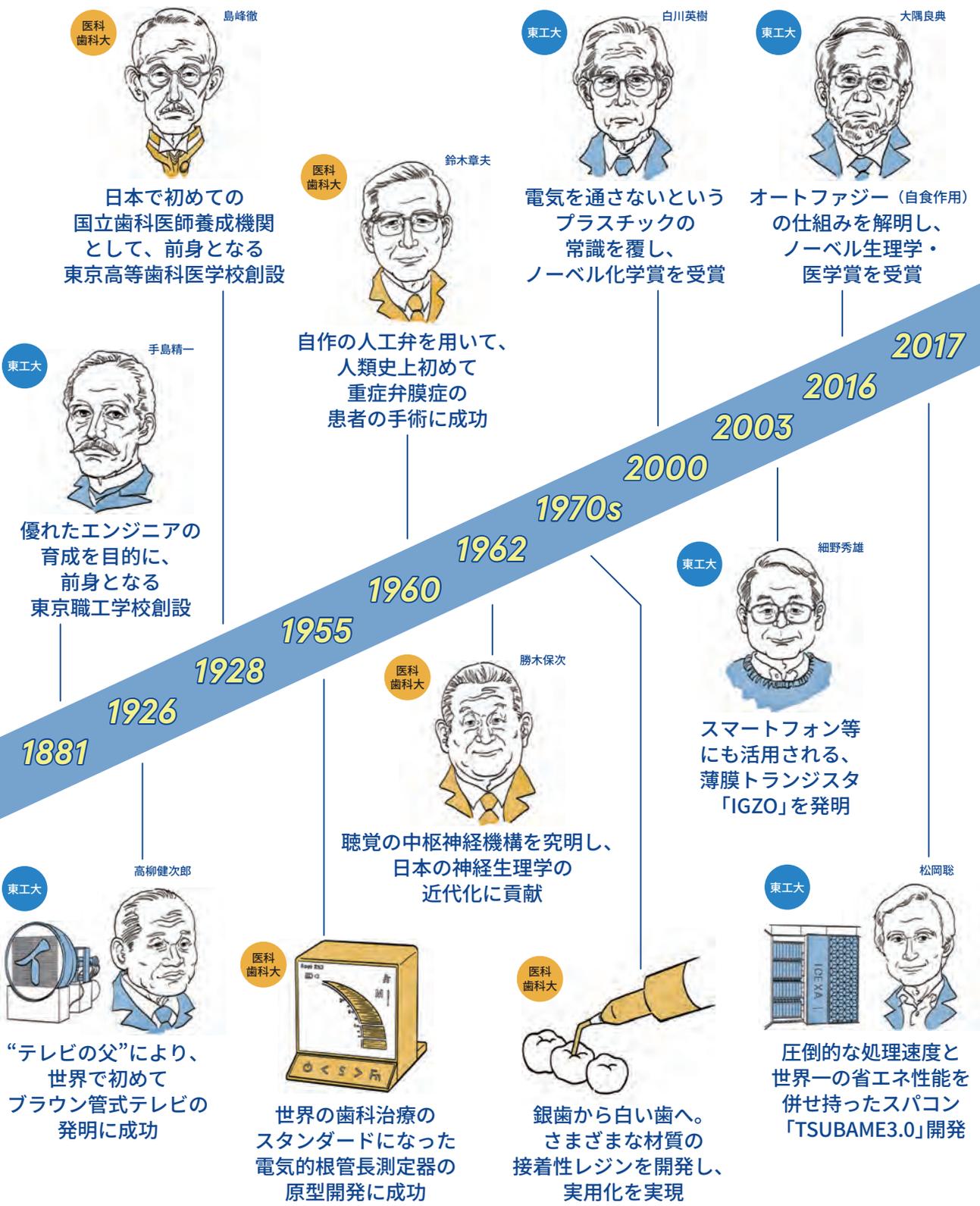
投票イベント当日は両大学の学長も参加。学生と一緒に投票を楽しみました。



参加者からは、世界トップレベルの研究や教育、国際社会への貢献に対する期待が寄せられました。

科学の融合の先にあるものとは何か 予想もつかない未来を創り出せ

これまで両大学は、世界を変えるさまざまな研究成果を残してきました。東京科学大学への入学は、こうした科学の連綿と続く営みに参加することを意味します。統合により生まれる、新たな科学の可能性をともに追求しましょう。



医科
歯科大

横田隆徳



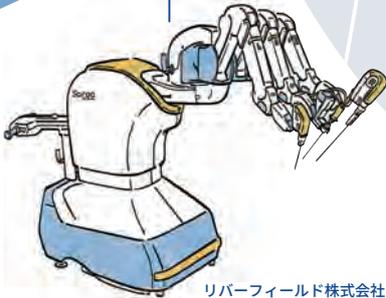
画期的創薬に
つながる、
「ヘテロ核酸医薬」の
発明

2023

2021

東工大

医科
歯科大



リバーフィールド株式会社

世界で初めて触覚を検知できる
手術支援ロボット「Saroa」の臨床応用に成功

2024

Science Tokyo誕生 まだ見ぬ新学術領域の創生へ

生成AI医歯学

生成 AI の活用により難病
に対する創薬を超加速化
し、ウェルビーイングな未
来へ。

地球環境科学

人間の活動が地球環境に及
ぼす影響を探索し、サステ
ナブルな世界へ。

量子医歯科学

量子センサーによる疾患の
超早期発見を促進し、ト
ータルヘルスケアを実現する
社会へ。

Science Tokyoの目指す姿

東京科学大学は、未来を切り拓くために4つのビジョンを掲げています。

両大学の尖った研究の推進

両大学は、理工学・医歯学の領域を中心に卓越した研究成果を残してきましたが、今後は研究者が自身の興味に根ざした研究を行える自由闊達な環境の整備に一層注力します。特に、創生医学、口腔科学、希少疾患・難病、統合エネルギー科学、新・元素戦略、デジタル社会・デバイスシステムなど、これまでの先端的な研究を引き継ぎ、さらなる発展を推進します。

部局等を超えて連携協働し 「コンバージェンスサイエンス」を展開

理工学・医歯学・情報学・人文社会科学など、異なる学問同士の融合と収れんにより、新たな科学領域を生み出すことを目指します。変化の激しい時代、世界規模の課題が山積するなか、互いに異なる専門領域を持つ大学だからこそ生まれるシナジーを生かし、「総合知」にもとづいた科学の進歩と、未知なる社会課題の解決に貢献します。

総合知にもとづき未来を切り拓く 高度専門人材の輩出

教養教育と専門教育を有機的に連携させ、基礎的な研究から社会実装まで担うことのできる人材を養成します。そのため、学部から専攻領域を超えて学びを深めることのできる医歯理工融合教育プログラムの設置、学知を社会に還元するためのアントレプレナーシップ教育、産学連携を加速させるためのエコシステムの開発に取り組めます。

イノベーションを生み出す多様性、 包摂性、公平性を生み出す文化

国籍・年齢・人種・性別・障害の有無など、あらゆる差異を超えて、すべての構成員が安心して自らの活動に取り組むことができる環境と文化を創り出します。多様な人々が集まり、さまざまな相互作用を促進することにより、これまでにない新しい価値を生み出し、すべての人々がウェルビーイングを感じられる社会の創出を目指します。

教育や入試は、どう変わる？

Science Tokyo Q & A

統合に先立ち、
受験生の皆さんからよくいただく
質問にお答えします。

Education

教育・研究について

Q1

キャンパスや学院・学部等の
編成に変更はありますか？

2025年4月入学時には、東京工業大学に設置する学院または東京医科歯科大学に設置する学部・大学院研究科の名称、キャンパス、教育組織（学位・教育課程）については変更ありません。これらの変更については、統合後に検討します。

Q2

入学後、学院・学部間での
どのような交流の機会が
予定されていますか？

2025年4月以降に入学する学士課程新入生を対象に、全員が大岡山キャンパスにて集い、学ぶ「大岡山 Day」を設定する予定です。全新入生共通の必修科目「立志プロジェクト」等をともに学ぶことにより、学院・学部の垣根を超えた相互交流を図ることを目的としています。また、全学生合同の新入生ガイダンスの実施を検討しています。

Q3

すでに両大学間の交流は
始まっているのでしょうか？

学生支援センターを中心に、今年度から学生同士の相談活動（ピアサポート活動）など、教育的な課外活動やイベントの共同実施を始めています。また、異分野融合研究を推進するため、両大学共同の交流イベント「研究マッチングフォーラム」の開催、異分野横断の研究課題に対して研究費の支援を行う「東京医科歯科大学・東京工業大学マッチングファンド」の設立・運営を行っています。

Q4

所属している学院・学部を超えて、
専門分野を学ぶことは
できますか？

それぞれに開講する授業科目を相互に履修することができる仕組みを構築します。その一環として、2025年4月に自身の専門分野とは異なる理工学系分野または医歯学系分野を体系的に学ぶことができる「医歯理工融合教育プログラム」を設置します。

Q5

統合後、期待される
医工連携には、どのように
取り組む予定ですか？

湯島キャンパスに隣接する大学病院を「リサーチホスピタル」として位置づけ、隣地に医工連携の要として「医療工学研究所」を新設します。双方が密接に連携できる体制を整備し、「明日の医療」を支える新しい医療技術の研究・開発を促進します。

Q6

四大学連合複合領域コースに
変更はありますか？

四大学連合（東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学）は、統合を機に、三大学連合の枠組みとなります。複合領域コースは、現制度の枠組み、修了要件などを実質的には変更せずに運用します。ご自身の専門分野の知識・技術を身に付けると同時に、三大学連合の協定大学や新大学の学院・学部にて、新たな専門分野を学ぶことができます。

数字で見るScience Tokyo

Q 統合後、学生数・教職員数はどう変化しますか？

学部学生数

6,242人

(国立大全国29位)

医科歯科大 1,466人

東工大 4,776人

大学院学生数

7,116人

(国立大全国4位)

医科歯科大 1,462人

東工大 5,654人

教員数

1,887人

(国立大全国8位)

医科歯科大 862人

東工大 1,025人

職員数

3,740人

(国立大全国4位)

医科歯科大 2,254人

東工大 1,486人

統合により、大学院学生数、職員数も国立大学全国4位になります。職員には、病院で働く医療系職員も含まれます。

※2023年5月1日現在

(出典) 大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報(2023)」

Campus Life

大学生活について

Q1

サークル活動は統合されますか？

すでに両大学の学生交流が進められています。サークルの統合については、所属する連盟や、出場する大会等の方針等を考慮して、各サークルが在り方を検討しています。なお、両大学の学生が、各キャンパスの課外活動施設を利用することができるよう、予約方法等を検討中です。

Q2

学園祭はどのように実施されますか？

当面は、現大学それぞれの学園祭の名称、実施時期、実施キャンパスを維持したうえで開催する予定です。ただし、模擬店などの相互出店は限定的ですが実施することを検討しています。なお、将来的な学園祭の在り方については、統合後も継続して検討する予定です。

Entrance Exam

受験・入学試験について

Q1

入学試験の方法に変更はありますか？

当面は、現大学と同等の入学者選抜試験を実施します。入学者選抜試験の方法等を変更する場合は速やかに周知します。特に学士課程の入学者選抜試験において、入学志願者の準備に大きな影響を及ぼす変更がある場合は2年程度前に周知します。

Q2

収容定員の変更はありますか？

2025年4月入学時には、収容定員の変更はありません。将来的な変更については、統合後に検討します。

Others

番外編

Q1

東京科学大学 (Institute of Science Tokyo) という名称に決定した理由は何ですか？

国際都市「東京」に本拠地を置く大学であることを示しつつ、伝統ある両大学の専門分野、自由な発想や対話から生み出される未知の領域はもとより人文科学・社会科学の視点をも含めた「科学」の発展を担い、社会とともに活力ある未来を切り拓いていくという、強い意志を名称に表現したいと考えました。そして、大学の略称は、世界に開かれた大学として「Science Tokyo」としました。

Q2

ロゴマークは何を表現していますか？



上下の2本のアーチは、Science Tokyo の存在意義である「科学の進歩」と「人々の幸せ」の探求、そして歴史ある2つの大学の歩みを表し、中央のアーチは、その2つをしっかりと結びつけています。右上に向けてダイナミックに展開していく全体の形には、知と技術を融合する探究心や社会を巻き込み共創する姿勢を表現しています。また、新大学がグローバルに進展するよう、国内外共通で英語大学名称の Institute of Science Tokyo をロゴタイプとしています。

Q どのように国際化の推進に取り組んでいますか？

留学生数
(2023年5月1日)

2,145人
(国立大全国6位)

医科歯科大 348人
東工大 1,797人

外国人教員数
(2023年5月1日)

81人
(国立大全国10位)

医科歯科大 14人
東工大 67人

国際共著論文
(2023年7月31日)

1,794本
(国立大全国5位)

医科歯科大 532本
東工大 1,262本

国際連携大学数
(2023年5月1日)

340協定

医科歯科大
大学間：13協定 部局間：104協定
東工大
大学間：109協定 部局間：114協定

統合後の大学では外国人教員数、国際共著論文や国際連携の大学数の増加による強みを生かし、さらなる国際化を目指していきます。留学プログラムについては、両大学が実施する派遣留学プログラムの合同利用を検討しています。

(出典) 大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報(2023)」、InCites Dataset + ESCI Schema: Web of Science Domestic/International Collaboration: All Time Period: [2022, 2022]、東京工業大学データブック2023-2024

医歯学系 CONTENTS

- 10 研究最前線～特色ある研究者の紹介～
- 11 多職種連携教育
- 13 教養教育
- 15 沿革
- 16 学部長メッセージ／学部・学科・専攻 INDEX
- 17 医学部
 - 医学科
 - 保健衛生学科看護学専攻
 - 保健衛生学科検査技術学専攻
- 33 歯学部
 - 歯学科
 - 口腔保健学科口腔保健衛生学専攻
 - 口腔保健学科口腔保健工学専攻
- 49 研究所
 - 生体材料工学研究所
 - 難治疾患研究所
- 51 国際交流
 - 医学/医療分野におけるグローバルリーダーを育成する学部学生海外研修奨励賞
- 56 サークル活動
- 57 学生のある一日
- 59 施設紹介
- 61 学生支援制度
- 62 進路・就職
- 63 入試情報
- 66 資料請求・イベント
- 67 国府台地区
- 69 湯島地区・駿河台地区

世界大学ランキング

世界各国の高等教育調査機関、教育研究機関、報道機関などが、大学ごとに研究者の論文発表実績や評判、教員数と学生数の割合など、様々な項目を評価して、世界におけるランキングを公表しています。世界大学ランキングの順位向上を通じて、日本の高等教育の国際的競争力強化の一翼を担うことを目指しています。



世界大学ランキング 東京医科歯科大学の総合順位

クアカアレリ・シモンズ (QS)
世界大学ランキング2024

国内 **16** 位

世界 **611-620** 位

タイムズ・ハイアー・エデュケーション (THE)
世界大学ランキング2024

国内 **10** 位

世界 **401-500** 位

※文理問わず、総合大学も含むエントリーしたすべての大学のランキング



世界大学ランキング (分野別)

分野別世界大学ランキング
クアカアレリ・シモンズ (QS)
歯学分野 2024

国内 **1** 位

世界 **4** 位

分野別世界大学ランキング
クアカアレリ・シモンズ (QS)
医学分野 2024

国内 **4** 位

世界 **128** 位タイ

出典：タイムズ・ハイアー・エデュケーション (THE) クアカアレリ・シモンズ (QS)

※以降の医歯学系ページに記載の組織名称(大学名・病院名等)は本冊子発行時点(2024年6月)となります。大学統合やそれに伴う組織改編等により、統合後は組織名称が変更されます。

※東京科学大学理工学系の入学案内はQRコードよりご確認ください。



研究最前線 ～特色ある研究者の紹介～

Researcher



内田 智士
難治疾患研究所
先端ナノ医工学分野 教授



新型コロナウイルスワクチンの先にある 次世代メッセンジャーRNA医薬品の開発

新型コロナウイルスのパンデミックに際して、メッセンジャーRNA (mRNA) ワクチンが迅速に開発され、優れた効果を示しました。これまでに世界中で何十億回も接種され、その実績を背景に、mRNAの他の医療分野への応用が世界中で検討されています。

例えば、新たなパンデミックを引き起こす可能性のあるインフルエンザウイルスや、有効なワクチンがないエイズを対象としたワクチンの開発が行われています。また、mRNAワクチンを用いてがんを攻撃する免疫を得ることも可能で、これをがんワクチンと呼びます。さらに、ワクチン以外にもmRNAを使って患者さんの体内で治療タンパク質を作ることができます。これにより、病気で傷ついた組織を再生させる再生医療や、遺伝子異常がある患者さんに正常な遺伝子の機能を補う遺伝子治療が可能となります。

私たちは、このようなmRNA医薬品の未来を切り開くための研究に取り組んでいます。感染症ワクチンの分野では、現在のmRNAワクチンに副反応が強いという問題があります。これは、mRNAを包んでいる脂でできた小さなカプセルが一因と考えられています。そこで、そのようなカプセルを用いないmRNAだけからなるワクチンを開発しました。このワクチンは、マウスやサルで副反応をほとんど引き起こさず、非常に高い効果を示しました。現在、新型コロナウイルスを対象に臨床応用

を目指しています。同時に、今後数十年で重大な問題となる多剤耐性菌(抗菌薬が効かない細菌)に対するワクチンも開発しています。

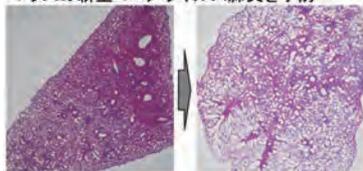
がんワクチンの分野では、独自に開発した免疫活性化技術を用いて、マウスのモデルで肺に転移したがんのサイズを小さくすることに成功しました。ワクチン以外の応用としては、アルツハイマー病、肝炎、膵臓がん、肺炎など様々な病気の治療法を開発しています。その他に成体マウスの脳で狙った遺伝子を切断するゲノム編集にも成功しましたが、今後、様々な脳や神経系の難病への応用が期待されます。

また、これらの応用を実現するためには、mRNAを分解させることなく安全に体内の標的臓器や細胞に届ける必要があります。そのためには、mRNAの体内での分解を防ぎながら、狙った場所に送り届ける機能を持つ100ナノメートル(1ミリメートルの1万分の1)程度の大きさのナノ粒子が必要です。私たちは、工学的な手法を用いたナノ粒子の開発にも取り組んでいます。

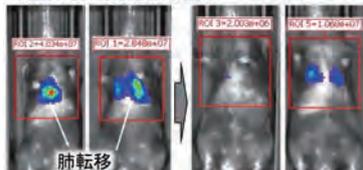
難治疾患研究所
先端ナノ医工学分野



感染症ワクチン
マウスの新型コロナウイルス肺炎を予防

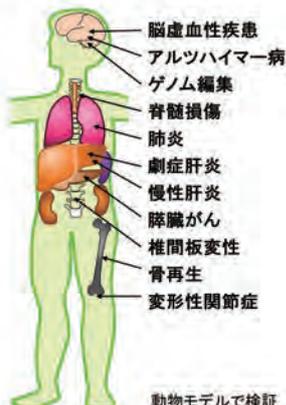


がんワクチン
マウスのがん肺転移を縮小

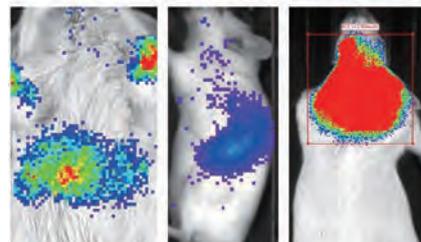
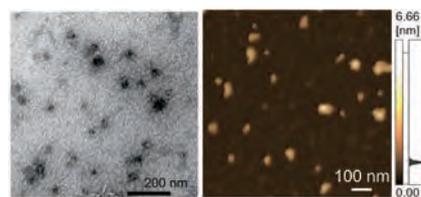


mRNA ワクチン、医薬品の開発

ワクチン以外への展開



動物モデルで検証



ナノ粒子の観察(上)、
肺、脾臓、脳へのmRNAの送達(下)

多職種 連携教育

「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」ことを理念に置く東京医科歯科大学は、国立大学で唯一の医療系総合大学（2024年6月時点）です。2024年には東京科学大学として「世を超えた地球・人類の『トータルヘルスケア』の実現」に向けてさらなる加速段階を迎えますが、AIが活躍する未来医療においても、コミュニケーションや、知識、体験、価値観を総合した多職種連携は人間にしかできないと考えられています。

教育内容

本学では、多職種での連携を学生時代に体験する機会として2012年度から「チーム医療入門」、2020年度からは「チーム医療導入」がスタートし、患者中心の医療を学ぶ双方向型授業を行ってきました。

現在、これまで全学で取り組んできた多職種連携教育を各学科専攻の科目の中で共通の取り組み（多職種連携I、II、III）とする方向性が示されています。多職種連携Iは新たに2023年度に入学した全学科専攻の学生を対象に導入されました。多職種間の融合教育の基礎として、互いを知り、それぞれの将来像を共有するとともに、患者講師の講演を通して医療系大学初学者の自覚をもつことを目標とした参加型学習セッションです。多職種連携IIは「チーム医療導入」ですすでに行っている患者講師との実習をさらに拡充し、自分が患者になったと想定し、必要な支援や医療について議論した上で、自主課題が設定され学科混合のグループで多職種連携をテーマに議論、発表会などを行います。多職種連携IIIは「チーム医療入門」での議論を通して自分の学科専攻の視点にとらわれず、患者中心の医療を行うための全人的視点を身につけることを目的としてさらに発展させた実習です。このほか医学科および歯学科6年生で行う連携実習、医学科または歯学科と口腔保健衛生学専攻での合同症例検討会など、実臨床を想定した種々の取り組みを行う中で、さまざまな学科からの視点に触れ、患者中心の医療を学ぶよい学修機会となっております。

多職種連携I

2023年度から本学学士課程入学者を対象に開講した新たな取り組みで、医療・歯科医療において活躍する保健・医療・福祉の専門職について知り、共通する職業倫理や仕事に対する姿勢、多職種連携の重要性を学び、それぞれの将来像を共有することを目的としています。卒業後十分な経験を積み臨床現場で活躍する若手教員による講演とパネルディスカッションによって、各学科専攻の特徴に加えて、医療者同士が協働することの重要性を学びます。先天性疾患を抱えている患者講師の講演では、医療系大学初学者の自覚を持つとともに、自らの知識や価値観を各学科の学生に共有し、グループワークでは各学科学生の役割や意見を尊重した説明や返答を行い、協働を実現するために、自らの役割を認識する機会となりました。円卓形式のボードを本実習に用いることで、初対面にもかかわらず、学生同士の討論が活発に行われました。



各学科専攻の教員によるパネルディスカッション



鈴木章夫記念講堂内でのグループワーク



グループワークの様子

チーム医療導入（多職種連携II）

保健衛生学科看護学専攻、検査技術学専攻、口腔保健学科口腔保健衛生学専攻：2024年度開講
医学科、歯学科、口腔保健学科口腔保健工学専攻：2025年度開講予定

2020年度から開始した「チーム医療導入」では、医療についての学習を始めたすべての学科・専攻の学生が、実際の臨床実習に参加する前の低学年のうちに患者中心の医療を学ぶワークショップを行っています。AYA世代でがんの闘病を経験した患者講師とAYA世代の医療に詳しい非常勤講師を招聘し、AYA世代の闘病をテーマとして、学生自身が患者になったことを想定したシナリオをもとに患者の視点を想像、議論した上で、実際の患者講師との質疑応答を通して、専門職として将来どのような視点を身につけたいか考える学修機会としています。医療において主役である患者の思いや不安に寄り添うことの大切さ、多職種連携の重要性に気づく絶好の学修機会となっています。コロナ禍で開始したカリキュラムはWebで行っていましたが、2023年度からは対面で実施し、患者の視点を得た上で、医療チームとして何が重要か、学科混合のグループで議論し発表会を行いました。臨床現場で求められるチーム医療を想定し、参加した教職員、学生の意見をもとに毎年改善を重ねています。



患者講師のシンポジウム(左)を聞いて考えたことを4学科の学生からなるグループで議論し、発表(右)しました。

チーム医療入門（多職種連携III）

本学の最終学年学生と、社会福祉士を目指す学生（早稲田大学、上智大学）、薬剤師を目指す学生（星薬科大学）が、学科混合のグループで話し合い、専門職連携の重要性、患者中心の医療の重要性を学ぶ実習です。資料の検索、共有が簡便にでき、他大学からも参加しやすいオンラインワークショップを行い、口腔と全身に疾患がある患者さんの仮想シナリオを用いて、それぞれが学んできたことでこの患者さんをどう治療・ケアするかについて意見交換します。参加した学生は、自分が考えていなかった視点、お互いの専門性について学ぶと同時に、より良い連携をするためにはまず自分の専門性を磨くことを改めて決意する機会にもなります。

厚生労働省は、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを終末期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。本実習においても患者の視点を得るプログラムを2016年度から導入しており、8名の患者講師を迎えて双方向型の講義とその後の議論から患者が求める医療について考える貴重な機会となっています。今後も患者講師とともに参加者からの意見をもとに、本プログラムを改善し、「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」医療者育成を目指したいと思えます。



グループ討論（左）は学科混合、チューター毎の発表会（右）では全8職種を目指す学生で議論します。

教養教育

医療人としての教養、 人間としての力を身につける

国府台地区では、〈市民社会を構成する一員としての教養を身につけ、深める〉という大学教育の原点に立ち返り、医療人に求められる教養と人間としての力を育み養うための教育を行なっています。緑豊かな国府台地区で、学部・学科の別なく全学生がともに学ぶことにより、多様な考え方に触れ、専門の領域を超えて将来に繋がるかけがえのない友人を得ることができるのも、教養教育ならではの特徴です。

1年次後期より専門科目が本格的にスタートしますが、専門科目の履修と並行して、人間への理解をいっそう深められるよう、1年次後期以降も、教養科目が継続的に開講されます。



教養教育
Webサイト

教育内容

教養教育として、必修科目と選択科目を配置しています。

人文社会系科目：文学、哲学、歴史学、法学、社会学等が開講されています。先人の優れた知見に触れるとともに、学問の様々な方法論に接する機会です。ここで身につけた知識や考え方を、2年次以降の授業科目でさらに深化させます。

自然科学系科目：数学、物理学、化学、生物学は、自然の理解に必要であると同時に、専門教育の基礎学力としても重要です。講義と実習で、知識に加えてそのための思考力や技術も身につけます。物理学、化学、生物学を高等学校で履修しなかった学生のためには、入門コースを設けています。

外国語系科目：言語はコミュニケーションを図るために必要なばかりではなく、その背景となる社会や文化を理解するためにも重要です。英語では能力別クラス編成によって、各自の今もてる力をいっそう伸ばします。第二外国語としては、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語が開講されています。

フィジカルウェルビーイング科目：「ウェルビーイング」は「幸福」「健康」ともされ、ひとびとの目指す根源的なものであり、フィジカルウェルビーイングは身体的健康とも訳されます。フィジカルウェルビーイングと運動の関連性と重要性の理解を通じて、健康ウェルビーイングのために身体機能が重要なことを学びます。

サイエンスPBL入門：ハイレベルな医療者・研究者になるためには、問題抽出、論理的思考、コミュニケーション能力が欠かせません。国府台地区ではこれらの能力の基礎トレーニングとして、サイエンスをベースとした課題解決型学習（PBL）の入門授業を実践しています。

「大岡山Day」の実施

大学統合により、医歯学系学生と理工学系学生とが、学生自身の興味・関心、時間割などの都合に応じて、それぞれに開講する授業科目を相互に履修することができる仕組みを構築します。

この一環として、2025年4月以降に入学する学士課程新入生を対象に、入学直後の4月～5月の週1回を、全員が大岡山キャンパスにて集い、学ぶ「大岡山Day」として設定する予定です。「大岡山Day」では、全新入生が共通の必修科目「立志プロジェクト」等を共に学ぶことなどにより、学院・学部の垣根を越えた相互交流を図っていただくことを目的としています。



授業科目（2025年度入学者）

- 人文社会科学概論Ⅰ・Ⅱ
- 国際地域文化入門
- 哲学
- 倫理学
- 心理学
- 宗教学
- 芸術
- 歴史学
- 民俗学
- 科学史
- 文学
- 法学
- 政治学
- 経済学
- 社会学
- 社会心理学
- 社会思想史
- 文化人類学
- Japanese Culture and Society
- グローバル教養科目
- 人文社会科学特論
- フィジカルウェルビーイング
- フィットネスマネジメント
- ドイツ語Ⅰ・Ⅱ
- フランス語Ⅰ・Ⅱ
- 中国語Ⅰ・Ⅱ
- スペイン語Ⅰ・Ⅱ
- 日本語Ⅰ・Ⅱ
- 英語Ⅰ
- 物理学入門
- 生物学入門
- 化学入門
- 数学Ⅰ・Ⅱ
- 物理学Ⅰ・Ⅱ
- 統計学
- 化学
- 化学基礎
- 生物学
- 生物学基礎
- サイエンスPBL入門
- 科学基礎実験
- 自然科学実験
- 教養選択科目
- 教養基礎セミナー
- 立志プロジェクト
- 情報科学
- 情報処理
- 教養セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ
- 教養自由セミナーⅠ・Ⅱ



英語



自然科学実験（化学実験）

沿革

1928年、日本で初めての国立の歯科医師養成機関として、本学の前身である東京高等歯科医学校創立。そして1944年には、東京医学歯学専門学校と改名し、医学科を設置。東京医科歯科大学は、その長い歴史の中で数多くの優秀な人材を輩出し、トップレベルの教育・研究機関として日本の医学・歯学の世界をリードしてきました。

- 1928年10月12日 | 東京高等歯科医学校設立（一ツ橋）
- 1930年12月 | 東京高等歯科医学校湯島（東京女子高等師範学校跡地）に移転
- 1944年4月 | 東京医学歯学専門学校となり医学科を設置
- 1946年8月 | 東京医科歯科大学（旧制）設立
| 附属図書館を設置
- 1949年6月 | 医学部、歯学部附属病院が医学部、歯学部附属病院にそれぞれ改称
- 1951年4月 | 国立学校設置法により東京医科歯科大学（新制）設立、医学部医学科、
| 歯学部歯学科を設置
| 歯科材料研究所を附置（1966.4 医用機材研究所に改称、
| 1999.4 生体材料工学研究所に改組）
| 医学部附属厚生女学部を医学部附属看護学校と改称
| （1989.4 医学部保健衛生学科看護学専攻に改組）
| 歯学部附属歯科衛生士学校を設置（2004.4 歯学部口腔保健学科に改組、
| 2011.4 歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻に改組）
| 歯学部附属歯科技工士学校を設置（2011.4 歯学部口腔保健学科
| 口腔保健工学専攻に改組）
- 1952年4月 | 大学院医学研究科、大学院歯学研究科を設置
- 1955年4月 | 大学院医学研究科、大学院歯学研究科を設置
| 医学及び歯学進学課程を設置（1955.4～1958.3 千葉大学文理学部内、
| 1958.4～1965.3 国府台分校、1965.4 教養部となる）
- 1962年4月 | 医学部附属衛生検査技師学校を設置（1972.4 医学部附属臨床検査
| 技師学校に改組、1989.4 医学部保健衛生学科検査技術学専攻に改組）
- 1973年9月 | 難治疾患研究所を設置
- 1993年4月 | 大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称、保健衛生学専攻を設置
- 1999年4月 | 大学院歯学総合研究科を設置
- 2000年4月 | 大学院医学系研究科（保健衛生学専攻）を大学院保健衛生学研究科に改組
- 2001年4月 | 大学院歯学総合研究科歯科学専攻（修士課程）を設置
- 2003年4月 | 大学院生命情報科学教育部を設置（2016.3 廃止）
| 大学院疾患生命科学教育部を設置（2012.3 廃止）
- 2004年4月 | 国立大学法人東京医科歯科大学設置
- 2013年4月 | 学生支援・保健管理機構を設置
- 2014年10月 | スポーツサイエンス機構を設置
- 2016年3月 | 統合教育機構、統合国際機構を設置
- 2017年4月 | 統合研究機構、統合診療機構、統合情報機構を設置
- 2018年4月 | 統合大学改革推進機構を設置（2020.4 統合改革機構に改組）
- 2018年5月 | 高等研究院を設置
- 2018年12月 | オープンイノベーション機構を設置（2023.3 オープンイノベーション
| センターに改組）
- 2020年4月 | 統合イノベーション推進機構（2023.3 統合イノベーション機構に改組）、
| M&Dデータ科学センターを設置
- 2020年10月 | 指定国立大学法人に指定
- 2021年10月 | 医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化し、東京医科歯科大学病院になる
- 2022年10月 | 国立大学法人東京工業大学との統合に向けた基本合意書を締結
- 2023年11月 | TMDU 感染症センターを設置



東京高等歯科医学校第一附属病院（1930年頃）



本郷通りから正門（1934年）



湯島地区全景（1952年頃）



左からM&Dタワー（2009年竣工）、B棟（1996年竣工）、
A棟（1991年竣工）、C棟（2023年竣工）、D棟（1982年竣工）



国立大学法人東京工業大学との統合に向けた
基本合意書を締結（2022年）

「三大学連合」でさらに広がる学び

様々な分野の学術拠点が集まり、最新情報をタイムリーにキャッチできる大都市・東京には、勉学はもちろん、医療人・国際人としての教養を幅広く身につける上で望ましい環境がそろっています。東京医科歯科大学・東京外国語大学・東京工業大学・一橋大学が協力して発足した四大学連合は、各大学が独立性を保ちながら密接な連携を図り、一大学ではなしえない教育プログラムを提供するものです。2024年10月1日に東京医科歯科大学と東京工業大学が統合し、東京科学大学となりますが、それをもって三大学連合の枠組みに再編されます。引き続き、豊富な知識と広い視野を有する人材を育て、広い社会に貢献していきます。



学部長メッセージ

医学

MEDICINE

医学部長
東田 修二



医療者や医学者として世界で活躍したい皆さんを歓迎します。本学には皆さんの夢を実現する環境が整っています。

医学部は、医学科と保健衛生学科(看護学専攻・検査技術学専攻)からなり、世界をリードする医師、看護師、臨床検査技師、研究者、教育者、医療行政職を育成しています。

授業では自ら問題点を見つけ出して解決する能力を養う教育方法を取り入れ、診療参加型の臨床実習を行い、課外に自由な研究活動を行うことができるプログラムも設けています。希望者は学部カリキュラムの一環として、海外の大学での臨床実習、短期研究留学、研修を行うこともでき、グローバルな視点を持った医療者や研究者を育成しています。また、患者さんの気持ちに共感できる豊かな人間性を養う教養教育も充実しています。

大学病院では最先端の医療を行なっています。例えば、2020年に発生した新型コロナウイルスによるパンデミックでは、多くの重症患者さんの救命に寄与するとともに、診断や治療に関する知見を世界に発信しました。また、さまざまな分野の研究室では活発な実験が行われ、核酸創薬や再生医療など多くの領域で世界をリードする研究業績を上げています。

長い歴史を持つ東京医科歯科大学と東京工業大学が2024年10月に統合して誕生した東京科学大学は、学部や学院の垣根を超えた自由な教育、研究や課外活動が行われ、充実した学生生活を送ることができます。私たちは皆さんの夢の実現を全力でサポートします。

歯学

DENTISTRY

歯学部長
依田 哲也



日本、世界の歯科医学・歯科医療を牽引し、社会に貢献したいという意欲と志を持った諸君を惜しみなくサポートします。

歯学部は、歯学科と口腔保健学科(口腔保健衛生学専攻、口腔保健工学専攻)から構成される、国立大学として最も長い歴史を有する総合的歯学教育機関で、2024年分野別QS世界大学ランキングの歯学分野では日本第1位、世界第4位の高い評価を獲得しています。

歯科医学のフロントランナーとして、私たちは多彩な授業・実習から成る充実したカリキュラムを擁し、経験豊かなスタッフと充実した施設で基礎から臨床に至るすべての分野を網羅した質の高い教育を提供しています。

充実したカリキュラムの一例として、日本最大規模の大学病院を中心に行われる実践的な臨床実習が挙げられます。ここでは、知識・技術のみならず、歯科医療のプロフェッショナルに必要な癒しの心やコミュニケーション力をも育む絶好の機会を皆さんに提供しています。

歯科医学研究においても優秀な教員・研究者が多数おり、研究面でもあなたの活躍を期待しています。多くの海外研修の機会も用意しており、将来世界に羽ばたくための貴重な経験を得ることができます。

優れた歯科医学・歯科医療のプロフェッショナルとして、大きく羽ばたく意欲と志を備えた皆さんを歓迎します。

学部・学科・ 専攻 INDEX

医学部

医学科	17
保健衛生学科 看護学専攻	25
保健衛生学科 検査技術学専攻	29

歯学部

歯学科	33
口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	41
口腔保健学科 口腔保健工学専攻	45

医学部

最先端の研究と医療の場から、 国際社会で活躍できる医療人を輩出する

医学科

医学とは、様々な疾患の治療と予防、健康の保持・増進について研究し、その成果を広く医療・福祉に応用するための学問です。本学科ではこれを踏まえ、動物材料や臨床材料を用いた最先端の基礎的研究を、本大学病院では最新の医療機器と最高の知識・技術を持つ医師団による医療が進められています。本学科では、日々の学びを通して基礎から臨床にわたる広い分野の知識と技術を習得することが求められます。卒業時に到達すべきレベルは、卒業時コンピテンシー (<https://www.tmd.ac.jp/artis-cms/cms-files/competency.pdf>) に示されています。卒業後は、医師あるいは医学の教育・研究に関わる様々な分野の指導者として、医学・医療の進歩に力を尽くし、国内のみならず国際社会で活躍することが大いに期待されています。



医学科
Webサイト

医学科の教育理念

疾患の治療と予防及び健康の保持・増進を研究し、その成果を広く医療・福祉に応用する医学の発展を担う指導者を育成します。

医学科の教育目標

1. 幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観をもつ人間性を培う。
2. 自ら問題を提起して解決し、医学のフロンティアを切り開く創造能力を修得する。
3. 世界的規模で働く国際人としての意識を持ち、世界に貢献できる医師・医学研究者を養成する。

教育理念・教育目標は本誌発行時点の内容です。大学統合時には変更となる可能性があります。

教育内容

高齢化が進む社会において、これからの医療はますます重要な分野となります。本学医学科は、将来のこの分野の様々な課題に対処できる指導的医療人の育成を目標とします。そのために、自律的な行動力と広い視野を獲得し、高い水準の問題解決能力を開発できるよう、新しいカリキュラムを構築しました。具体的には以下の構成で教育が予定されています。

1年次は国府台キャンパス、大岡山キャンパスで学ぶと共に、後期からは湯島キャンパスで行われる医学導入など専門科目も学びます。早期臨床体験実習等を通じて医療人としての意識を高めます。1年次後期から、生体と病気のメカニズムについても講義・実習を通じて深く学んでいきます。特に4年次にはプロジェクトセメスターと呼ばれる長期の自由選択学習が実施され、自ら興味を持った課題について半年間研究を行い、科学的な考え方、結果のまとめ方を学びます(20p参照)。また、基礎医学の研究実践プログラムも設けられ、希望者には課外の時間を利用して2年次前期より研究を開始することも可能になります。さらに、研究を継続したい学生は、一時大学院に進学し医学博士号を取得した後、復学するMD-PhDコースも用意されています(21p参照)。

その後は、臨床導入実習で基本的診察技法を習得します。全国共用試験を経て、本大学病院のみならず関連病院、診療所や在宅医療機関を含む様々な医療現場で約2年にわたっての診療参加型

臨床実習が行われます(20p参照)。この実習では医療チームの一員として学ぶために院内携帯電話や学生用電子カルテなどが用意され、臨床推論について徹底的に学びます。一方、リーダーとしてのコミュニケーション能力開発のため、チュートリアル等、少人数で討論を行う機会、プレゼンテーション技法の訓練の機会等も豊富に設けられています。

また、医療系総合大学の強みを生かして歯学科と口腔領域の診断治療などを合同で学ぶ機会、歯学科、保健衛生学科(看護学専攻・検査技術学専攻)、口腔保健学科(口腔保健衛生学専攻・口腔保健工学専攻)と多職種連携について学習する機会も1年次から卒業までそれぞれの学年に合わせた内容で用意されます。

専門科目と並行して、1年後期以降も卒業まで、教養教育、AI/データサイエンス教育、ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)などを学ぶ機会が確保されています。さらに、国際化が進む将来を見据え、英語で医学を学ぶ講義が1年次後期から3年間にわたって行われるほか、海外研修奨励制度や海外の一流提携大学で学ぶ機会も用意されています(21、22p参照)。また、全国最大規模のスキルスラボ(臨床手技習得のためのシミュレーション機器を備えた学習室)、国際的に通用する教科書をオンライン上で参照できるe-learning環境など先進的な学習環境が整えられています。



カリキュラム構成図

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
カリキュラム内容	教養教育ブロック	基礎医学ブロック	臨床医学ブロック	社会医学ブロック	臨床導入実習・共用試験 自由選択学習 (プロジェクトセメスター)	臨床実習	卒業試験	
		医学導入・早期体験実習	教養教育・リテラシー教育、語学／グローバル教育					
		社会医学、AI／データサイエンス教育、ELSI教育、行動科学、医事法						
		多職種連携教育、キャリア教育						
		自由選択科目 (研究実践プログラム、HSLP、アントレプレナー教育)						

医学部 医学科

授業科目

- 医学導入 ■ 人体構造総論
- 細胞生物学
- 生理学 ■ 組織学
- 人体解剖学
- 薬理学 ■ 生化学
- 分子遺伝学
- 神経解剖学 ■ 免疫学
- 神経科学・基礎
- 感染・基礎
- 病理学 ■ 医動物学
- 腫瘍学 ■ 法医学
- 行動科学 ■ 衛生学
- 公衆衛生学
- 臨床医学導入
- 循環器 ■ 呼吸器
- 膠原病、総合診療・地域医療
・ 東洋医学、皮膚・アレルギー
- 消化器
- 腎臓・泌尿器
- 内分泌・代謝
- 一般外科
- 血液・腫瘍
- 神経科学・臨床
- 骨・関節・脊椎
- 感染・臨床
- 頭頸部・臨床
- 生殖・発達
- 救急・麻酔・集中治療
- 自由選択学習
- 臨床導入実習
- 臨床実習Ⅰ・Ⅱ
- 研究実践プログラムⅠ～Ⅴ
- 地域医療学習プログラム
- 多職種連携Ⅰ～Ⅲ
- 匠講話
- AI・データサイエンスのための数学
- 医療とAI・ビッグデータ入門
- アカデミック・リテラシー
- 英語Ⅱ
- System-based medical terminologyⅠ～Ⅱ
- IMRAD Format Presentation in English
- FOCUS (Fit for Overseas Clerkship opportunities)
- 基礎医学実習
- 医療とAI・ビッグデータ応用
- 生物統計学
- 選択社会医学実習
- 生命倫理
- 包括医療統合教育Ⅰ・Ⅱ

将来の自分を培う魅力あるカリキュラム

医学の基礎を確かなものにするために、問題解決能力、自己学習能力を養い、医学を学ぶ面白さを実感できます。さらに、治療チームの一員としての役割を担うことで、患者さんの信頼に応え、医師としての喜びを体験できます。

医学導入

1年次後期に週1日湯島地区で履修するコースで、医療人としての基盤形成とともに、将来グローバルに活躍する医師・医学研究者としてのキャリアビジョンの創出を目的としています。医学の歴史と今後の展望について学び、「受け身型」から「能動的で問題解決型」へと学びのモードを変えるための様々なセッションに参加します。

また、多彩なフィールドで活躍する先輩医師・医学研究者の講演を聞き、実際に彼らと半日をともに過ごし活躍の様子を垣間みて、将来のキャリアビジョンを創出します。さらに、教育・診療・研究施設の見学、先輩である医学科5年生の臨床実習の見学、シミュレーターを用いた蘇生実習、看護師と半日を過ごす実習などを通して、医学専門教育に向け意識を高めます。

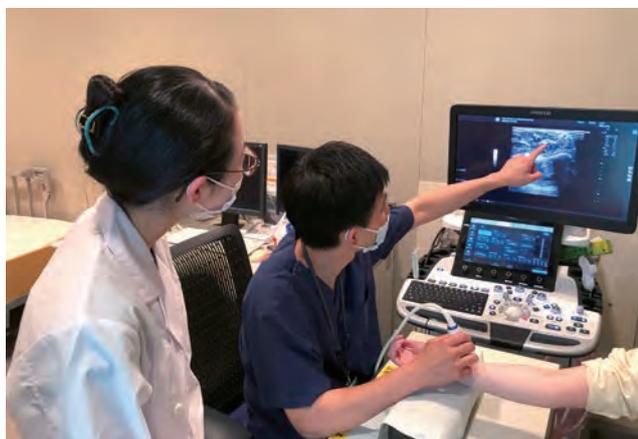
様々な角度から学び興味を広げる“医学”への入り口

初めての専門課程の講義である医学導入では様々な角度から医学に触れることができました。大学病院で患者さんや医師に付き添って見学するシャドーイング実習や、頭痛や腹痛といった症状から疑われる疾患を調べて模擬診察や学生同士の議論から鑑別診断を行う授業では、これから医学を学んでいくことを実感でき、本格的な専門科目が楽しみになりました。特に、シャドーイング実習で患者さんとお話ししたり診察やロボット手術を見学したりした後は講義室の空気が変わり、学年全

体のモチベーションの高まりを感じました。一方で、大学病院での臨床や研究だけでなく、地域医療や行政、起業など多方面で活躍する先生方のお話を聞くことで医学へのアプローチの仕方の多様性・可能性の大きさに気付くことができました。今後の専門課程の講義では、医学導入の講義で生まれたたくさんの興味をさらに広げながら学ぶとともに、自分のキャリアを柔軟に模索していきたいです。



加納 彩瑛
医学部 医学科 2年



統合型教育

診療現場や研究領域における問題解決型思考能力や、生涯学習に必須となる自己学習能力の養成を目的に、すべての臨床系の科目で統合型（ブロック型）教育を実施しています。統合型（ブロック型）教育では、関連する臨床系分野が数週間のブロックを形成し、症候から病態生理を中心に集中的に学習する環境を提供します。

各ブロックの最初にはそれまでに学んだ基礎医学の知識を賦活化するセッションを組み、基礎及び臨床医学の知識の統合を図ります。これまでのPBL (Problem-Based Learning) チュートリアルのほか、知識の確認・応用とグループ討論を促すTBL (Team-Based Learning) を導入し、症例提示型学習による自己問題提起・解決能力とチーム内でのコミュニケーション能力を養成します。関連講義には基礎医学内容も統合されており、基礎医学領域への関心が誘導されるよう配慮されています。

2020年からはオンライン授業を積極的に取り入れ、選択授業である研究実践プログラムなどと両立しやすくなっています。

自由選択学習（プロジェクトセメスター）

主な講義・試験及び基礎実習を終えた4年次に設定されている最長6か月のコースです。興味をもった分野について集中的に学ぶことにより、科学的視点を有する医師としての基盤を養成します。本学の諸講座、附属研究所のほか、学外研究機関、さらには国際交流協定校のインペリアルカレッジ（イギリス：ロンドン）、オーストラリア国立大学、ソウル大学、チュラロンコーン大学（タイ）などにおける履修の機会もあります。全学生の研究成果は、発表会の場においてプレゼンテーションが行われ、お互いに共有することになります。

ライフサイエンスの勉強や研究に没頭できる貴重な機会

プロジェクトセメスターは、興味を持った分野の研究に取り組み、サイエンスの作法や考え方を本格的に学ぶことができる非常に有意義なプログラムです。

私はAIシステム医科学分野に所属し、細胞における代謝をAIを使って解き明かす基礎研究を行っています。研究については先行研究調査のやり方や計画書の書



き方から実験の進め方・プレゼン資料などの作り方まで丁寧に指導していただき、その成果を12月の分子生物学会という学会で発表しました。それ以外にも研究室内外の論文抄読会に参加したり、大学院生と一緒に様々なライフサイエンスや数理の分野の勉強会をしたりしておりあつという間の5か月間でした。

5年生になった今も同じ研究室にお世話になっており研究と勉強を続けていますが、講義や実習がなく研究室の活動に集中できるプロジェクトセメスターが非常に貴重な機会であったと実感しています。臨床の視点に立って基礎研究を行う Clinician Scientist を目指すうえで不可欠なプログラムであると考えています。



伊東 巧
医学部 医学科 5年

診療参加型臨床実習

診療チームの一員として、患者さんの持つ複雑な臨床問題解決への主体的な参加を通して臨床知識/技術を習得し、プロフェッショナルリズムを養います。最初の1年程度で、コアとなる診療科（内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、集中治療医学など）をローテートし、基盤となる知識/技術/態度を徹底的に習得します。内科系など多くのプログラムで一定期間患者さんを担当し、回診では担当患者さんについてのプレゼンテーションを行い、方針決定の議論に主体的に参加します。外科系プログラムでは、主治医によるインフォームドコンセントや手術にも立ち会います。またソーシャルワーカーを交えての退院計画立案にも参加することにより、医療全体の流れをつかみます。コア診療科で基盤となる知識/技術/態度を習得した後、本大学病院のほか、関連病院や診療所、海外機関（協定校など）での豊富な選択プログラムリストから、深く学びたい診療科、興味のある診療科などをローテートし、臨床問題管理能力・患者管理能力を高め、卒業臨床研修にむけたレディネスを高めます。

本大学病院のほか、関連病院や診療所、海外の提携大学などで実習も行われています。

机の上で学んだ知識（点）を臨床の現場でストーリー（線）にする

本学の臨床実習では、学生は診療チームの一員として、主体的に診療に参加します。内科では患者さんを受け持ち、毎日診察を行い、自分なりに治療方針を考え、上級医の先生にフィードバックを頂きます。外科では手術の見学や術後経過などを細かくフォローアップします。もちろん最初はうまくいかないこともありますが、



診療チームの一員であるという責任感から、自ら調べ自ら考える習慣が付きまします。先生方も非常に教育熱心で、学生のことを考えてご指導くださります。4年生までは机の上で学んでいた知識（点）が、実際に臨床の現場に出ることによって、それぞれが繋がりが合い一つのストーリー（線）になる、そのような経験を毎日積めます。

臨床実習は初めて実際の診療に本格的に関わる機会であり、将来医師となる意識や責任感が強く芽生える2年間でした。貴重な経験をさせていただいた感謝の胸に、今後も医療者として研鑽を積んでいきます。



津村 勇輝
医学部 医学科 6年

国際的医療人育成のために

21世紀の最先端の医療と生命科学に対応できる医療人の育成を目指し、言語のみならず、品格、知識、態度、技能いずれにおいても、国際社会に通用する医学のリーダーを育てます。

海外研究留学

4年次のプロジェクトセメスターの期間は、海外で研究を行うことも可能です。一流の研究者の指導を受け、さらに世界中から集まって来ている研究室メンバーへのプレゼンテーションやディスカッションを行いながら、半年かけて研究プロジェクトを進めます。チリ大学・クリニックラスコンデス(チリ共和国)、ガーナ大学野口記念医学研究所(ガーナ共和国)、チュラロンコン大学(タイ王国)、ソウル大学(大韓民国)、ネバダ大学(米国)などの本学の協定大学のほか、ハーバード公衆衛生大学院、コロンビア大学、University College London、WHO Western Pacific Regional Office で研究を行った学生もいます。

コロナ禍の影響で2022年度の留学は12名、2023年度は16名と限られた人数ですが、少しずつ再開しております。毎年5名の学生が留学することができるイギリスの名門校インペリアルカレッジからの学生の受け入れも実施しており、彼らの滞在中に本学学生との活発な交流が行われます。

インペリアルカレッジロンドンへの研究留学で学んだこと

私はインペリアルカレッジロンドン(ICL)へ5ヶ月間留学いたしました。ICLは世界大学ランキングトップ10に入る名門校で、英国では「理系研究に強い大学」として知られています。

ICLの内分泌代謝分野の研究室に配属となり、糖尿病の発症に関する研究を行いました。留学前から日本でラボワークをしていたこともあり、配属初日から即戦力としてみなされ、研究手技を叩きこまれたりラボミーティ



ングで意見を聞かれたりしました。慣れるのに多少時間はかかりましたが、留学を終える頃には自分で実験計画を考えることもできるようになりました。

留学を通して、日本と異なると感じたことが二つありました。一つは主張することについてです。ラボでは立場に関わらず自分の意見を表現することが求められました。もう一つは多様性です。ラボメンバーは国籍だけでなく、大学時代の専攻やライフステージも十人十色でした。そのような人たちが互いをファーストネームで呼び合い、共に研究をしている環境が新鮮でした。

世界の最先端に行くラボで研究ができ、また様々な人に出会い、実りの多い研究留学でした。



松下 智紀
医学部 医学科 5年

MD-PhD（医学研究者早期育成）コース

優れた医学研究者を育成するための早期医学研究トレーニング特別プログラムです。このコースでは、従来のように医学科卒業後に大学院に進学するのではなく、医学科4年次あるいは5年次修了後に、医学科を一時離れ、大学院に進学します。それにより、医学科における基礎的な医学教育を発展させ、体系だった高度な医学研究を経験することを目的としています。大学院在学中に博士論文を完成した者は審査を行い、合格者には博士の学位が授与されます。大学院修了後は医学科5年次あるいは6年次に戻り、医師免許の取得を目指すことになります。

MD-PhD コースの3年間で改めて感じた研究の魅力

MD-PhD コースでは医学部の途中で休学して博士課程に進学し、研究を行うことで学位(医学博士)の取得を目指します。若いうちに集中して基礎研究に取り組むことで、研究を行うために重要な経験や思考力を得られるという大きな魅力があります。私は病理学の教室で悪性リンパ腫、肺がんの研究を行ってきました。その中で臨床検体を用いた臨床病理学的な評価だけでなく、細胞実験による腫瘍生物学的な解析を通じて、細胞内酸化ストレスと治療抵

抗性との関係性について研究を行いました。3年間の研究を通して、様々な実験や解析、多くの先生方や企業の方とのミーティングをさせて頂き、研究の楽しさを改めて実感するだけでなく、視野を広げることが出来たと思います。若いうちに研究の楽しさや奥深さを体験することは、将来研究医を目指していくうえで非常に大きなアドバンテージになると思います。是非MD-PhD コースを活用し、研究医を目指す方が増えることを期待しています。



川出 玄二
東京医科歯科大学病院
研修医
医学部医学科
2023年度卒業

海外臨床留学

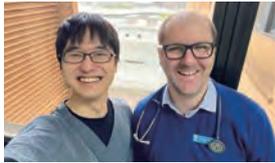
臨床実習は、本大学病院や国内の病院・診療所のほか、海外の提携大学でも行われています。長期臨床実習（最長12週間まで）では、オーストラリア国立大学（豪州）、ネバダ大学（米国）、カリフォルニア大学サンディエゴ校（米国）、ヴァンダービルト大学（米国）、公益財団法人医学教育振興財団主催 英国留学、GHLO（Global Health Learning Opportunities）加盟校に留学することが可能です。派遣のための選考は5年次に行われ、先行された学生はその後6ヶ月半にわたり、英語による病歴聴取、診察、症例プレゼンテーションと議論、記述などの実践的な技能習得のためのトレーニングに従事します。短期臨床実習（2週間）では、ソウル大学医科大学（大韓民国）、延世大学医科大学（大韓民国）、マヒドン大学シリラート病院医学部（タイ王国）、マヒドン大学ラマチボディ病院医学部（タイ王国）、チュラロンコン大学医学部（タイ王国）、チェンマイ大学医学部（タイ王国）、プリンセス・スリーサワーンカワット医科大学（タイ王国）、国立台湾大学医学部（台湾）、国防医学院医学部（台湾）に留学することが可能です。

2023年度には長期臨床留学12名、短期臨床留学55名と、半数以上の学生が臨床留学を経験しています。

次世代の医師として、医学生のうちに留学して得た学び

オーストラリア国立大学の一般内科で2ヶ月間の臨床留学を行いました。現地の医学生とともに回診などに参加したほか、患者さんの問診・診察を英語で行い上級医にプレゼンする機会もたくさん得られました。

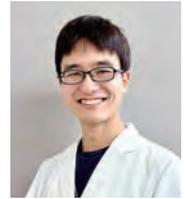
この留学の最大の収穫は、現地の医師の働き方や医療制度、病院の雰囲気を感じたことでした。例えば、医師のワークライフバランスは極めて良好で、互いの



私生活を尊重する暖かい空気に満ちていましたが、定時を超えそうな手術や検査は延期になるなど、その

分だけ患者の利益を損なっているようにも見えました。副次的な成果ですが、海外からの旅行者が日本の病院を受診することはままあり、英語での診療経験は帰国後も役立っています。

現在、研修医である私たちは、高齢化や医療費の高額化、働き方改革などに最前線で立ち向かう世代です。先入観の少ない学生のうちに海外を見、彼らの価値観を肌で感じることで手に入れた広い視野は、これからの医療の変化を受容し変革を主導していくために強力な武器になると確信しています。



鈴木 隆介
柏崎総合医療センター
研修医
医学部 医学科
2023年度卒業

韓国のソウル大学病院での短期臨床実習を終えて

ソウル大学病院の移植外科・血管外科にて、2週間臨床実習をさせていただきました。毎日複数の手術があり、特に移植手術では、ドナー、レシピエントの手術を連続で見学し、移植の実際の流れを知ることができました。様々な手術において見学だけでなく術野に入る機会にも恵まれ、間近でご指導していただきました。また、現地の学生や世界中から集まる留学生と、どのように医学を学んでいるのか話し合えた時間はとても



豊かなものでした。

日本、そして本学の医療を客観視することができ、刺激を受けつつ、自分が学んできた環境にも自信を持った濃密な2週間となりました。一方で、医学英語の知識不足などを含め、母国語のように自分の意見を伝えられないもどかしさを感じました。医師として働く中で英語を足枷にしたいと強く感じ、それをきっかけに現在も少しずつ努力を続けている最中です。

学生の段階で自らの置かれた環境と課題を把握することができたことは、キャリアプランを立てる上でも貴重な経験であったと感じています。



小谷 那月
玉川病院 研修医
医学部 医学科
2023年度卒業

世界トップ10大学でのダブルディグリー・プログラム

英国の医学部は5年制が基本ですが、サイエンス教育を強化した6年制のオプションも存在し、一部のトップ大学では6年制が必須となります。20年間に渡る交換留学の実績を背景に、2024年度からインペリアル・カレッジ・ロンドン医学部が、本学の学生をこのコース（iBSc）へ受け入れる事になりました。本プログラムは4年生以上もしくはMD-PhDプログラム在生が選択可能で、iBScの期間はインペリアル・カレッジ・ロンドンの正規学生として滞在し、本学は1年間の休学を前提とします。QS世界大学ランキングで2位、THE世界大学ランキングでも8位という、世界一流大学での学位取得を賭けた真剣な海外留学は、学生が国際的に飛躍する基盤となります。



実習風景

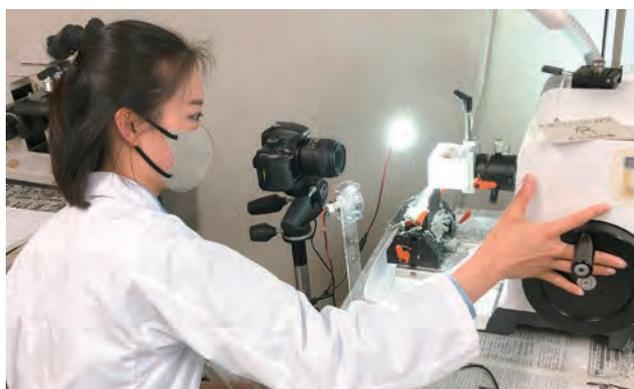
基礎医学実習

1年次から2年次にかけて、人体の構造や機能などの基礎医学について学びます。2年次には、人体解剖学実習、組織学実習、神経解剖学実習、医動物学実習のほか、3週間にわたって実習に専念する基礎医学実習の期間が設けられています。さまざまな実習において自ら手を動かし、グループで協力して成果をあげることを経験します。



研究実践プログラム・プロジェクト Semester

2年次から選択できる研究実践プログラム、4年次の必須科目であるプロジェクト Semester など、早期から研究に参加する機会があり、多くの学生が積極的に取り組んでいます。



在学生 MESSAGE

臨床実習の重みと学び

臨床実習を通じて最も感じたことは、この実習はとて多くの人のご厚意によって支えられているということでした。自身の仕事もお忙しいのに学生に指導をしたり話しかけてくださる医師の先生方、診察の練習になるなら協力するよと言ってくださる患者様、わからないことを聞くと親切に教えてくださる医療従事者の方々、彼らのご協力のおかげで病院での実習ができていますと実感しました。当大学での臨床実習は五年生の初めから六年生の間まで、約一年半ほどありますが医師になる前の貴重な機会として、一つ一つの実習に取り組むことが大事

だと思っています。

臨床実習では患者様のお話を聞いたり、先生方の診療の補助に入ることが多いですが、これまで座学でのみ学んでいた医学知識が臨床の場で活用されているのかを目の当たりにして、医学の奥深さと面白さをより実感しました。実臨床の病院はどのように機能しているのか、先生方はどのように働いているのかを知り、自身の将来に活かしていける臨床実習を行う機会を得られて、本当に光栄に思っています。



中村 智哉
医学部 医学科 6年

クリニカル・クラークシップ

4年次後半から6年次にかけ、本大学病院医系診療部門の各診療科を1〜4週間ずつ回ります。必修の診療科と選択の診療科があり、実際に患者さんを受け持ちながら学びます。実習中に生じた疑問を同級生と一緒に考え、さらに深い学びにつなげます。



卒業生 MESSAGE

医師としての第一歩を進化し続ける東京医科歯科大学で

本学の医学教育では「自ら問題提起し解決していく力」に重点が置かれ、様々な機会を学生に提供すべくカリキュラムが工夫されています。授業は自ら考える力を養成するため、アクティブラーニングが多く取り入れられています。また国際感覚を育むために、自由選択学習や臨床実習において様々な海外研修プログラムが提供されています。研究に特に興味のある学生は、早期から研究室に出入りできる制度もあります。

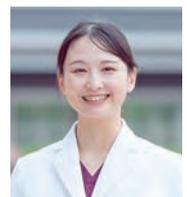
私自身、学生時代に海外研修に参加した経験は、考え方の

幅を広げ、その後の国際的な活動を後押ししてくれています。

カリキュラムは年々進化しており、さらに今年は東京工業大学と統合し、医工連携の強化が期待されます。すでに数々の共同研究プロジェクトが立ち上がっています。

このように常に進化する本学での学生生活は、個々の興味に合わせて存分に学び、医師への道の第一歩を踏み出すことのできる素晴らしい環境と考えます。

ぜひ共に学び、医学の発展への貢献を目指しましょう。



片倉 麻衣
東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
運動器外科学分野 助教
医学部 医学科
2008年度卒業

医学部

知識と技術を高め、実践と研究を通して 看護のエキスパートを養成する

保健衛生学科 看護学専攻



保健衛生学科
看護学専攻
Webサイト

看護実践能力の高い看護師の養成を目的として、体験学習を重視し、自己理解を深めながら専門職にふさわしい感性を磨き、コミュニケーション能力の向上を図ります。

臨地実習では、看護技術の到達点を確認しながら学習できる独自の教育システムを用いて、本大学病院医系診療部門などの医療施設や地域との連携をもとに、あらゆる健康レベルの人々に対応した看護を展開します。

卒業論文には3年次から取り組み、ゼミを通して研究を深めます。

また、日本初の看護系大学院大学として、臨床現場のスタッフと実践・研究・教育の様々な側面での連携を図るとともに、卒業生をはじめ看護学を発展させていきたいと思っているたくさんの人々の活躍を支援しています。

保健衛生学科の教育理念

本学科は、看護学、検査技術学の2つの専門領域における知識・技術を教授することにとどまらず、豊かな教養と高い倫理観に裏づけされた医療人としての感性を有し、学際的視野にたち、自ら問題を提起し、これを解決できる能力を備えた医療人を養成します。

看護学専攻の教育目標

高度先進化する科学技術の基礎理解力を持ち、高齢化社会における保健医療・福祉等の様々な職種と連携して、専門職としての役割を果たす人間性豊かな人材を育成する。

教育理念・教育目標は本誌発行時点の内容です。大学統合時には変更となる可能性があります。

教育内容

看護学専攻では、医療の高度化を支える自然科学・技術並びに生命倫理に関する基礎的な理解を深め、多様化する社会や文化の中で人間が生きることを支える人文科学・社会科学的な素養を併せ持つ看護実践者を養成します。

看護学の教育・研究・実践を基盤に、あらゆる健康レベルの人々に向けた保健医療福祉に関する専門知識を幅広く修め、省察できる能力を養うことで、関連職種との連携・協働を主体的に担うことのできる対人関係能力を備えた看護師の養成と、生涯学習の支援を重視しています。

1年次には、教養教育として全学共通科目(人文、社会科学、自然科学、外国語など)を履修するとともに、解剖学、微生物学などの専門基礎分野科目及び看護専門科目(基盤看護学、看護の統合と実践など)も学びます。

2年次には、1年次に引きつづき看護学に関連の深い生理学、病態学、薬理学などの専門基礎科目を講義と演習によって学ぶほか、専門共通分野の保健医療福祉制度論などもこの時期に始まります。2年次で学ぶ看護専門科目の軸は基盤看護学の講義と演習で、成人、精神、小児、在宅看護学の講義は、2～3年次にかけて

開講されます。周産、老年看護学は3年次前期に学び、保健師資格取得(選択制)に必要な公衆衛生看護学関連の科目は主に4年次で学びます。

臨地実習は1年次の基盤看護学実習Ⅰに始まり、2年次の基盤看護学実習Ⅱ、3年次後期の成人、精神、小児、周産、老年、在宅看護学実習、4年次の公衆衛生看護学Ⅰ、または成人・老年看護学実習Ⅲ及び総合看護学実習で終わります。臨地実習では援助的な対人関係を確立する能力の育成にも力を入れ、その準備として、2～3年次に自己理解を深める技法や、相談面接技法の訓練、患者会リーダーとの交流などを行います。

4年次には少人数制のゼミで卒業論文に取り組みますが、その準備として、3年次後期より看護学研究方法と理論的背景について学びます。

このほか、国際的な研究や実践を担う力を高めるため、全学的な取り組みと同時に、各学年で外国語の授業を履修できます。さらに、大学院の教育科目の先取り履修制度によって学部生のうちから大学院の単位を修得することができます。



カリキュラム構成図

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
カリキュラム内容	専門基礎分野・専門共通分野 ■解剖学 ■微生物学 ■病理学 ■薬理学 ■生理学 ■生化学 ■保健医療福祉制度論 他 ■保健統計学 ■国際保健看護学 他			
	専門領域別分野 ■基盤看護学 ■看護の統合と実践 ■基盤看護学 ■成人看護学 ■小児看護学 ■在宅看護学 ■周産看護学 ■老年看護学 ■公衆衛生看護学 ■看護の統合と実践			
	臨地実習 ■基盤看護学 ■基盤看護学 ■成人看護学 ■小児看護学 ■在宅看護学 ■周産看護学 ■老年看護学 ■公衆衛生看護学 ■看護の統合と実践 他			
	全学共通科目		卒業論文	
	外国語 (TOEFL)			
	専門発展分野 (大学院科目)			
	多職種連携 I・II ■災害看護学 ■クリティカルシンキング・クリエイティブシンキング ■看護マネジメント学 ■看護の統合と実践実習 ■成人・老年看護学実習 III ■総合看護学実習			

授業科目

専門基礎分野

- 解剖学 ■生理学 ■生化学
- 薬理学 I・II ■病理学
- 微生物学 ■栄養学 ■疫学
- 病態学 ■憲法 ■英語 II
- System-based medical terminology I
- Nurse-Patient Communication
- IMRAD Format Presentation in English
- Diagnostic Procedures in English
- アカデミック・リテラシー

専門共通分野

- AI・データサイエンスのための数学
- 医療とAI・ビッグデータ入門
- 医療とAI・ビッグデータ応用
- 国際保健看護学 I・II

- 産業保健学
- 保健医療福祉制度論
- 看護制度論 ■健康教育学演習
- 卒業論文 I・II
- 実践看護英語 I・II・III
- 国際保健福祉 A・B・C・D
- インディペンデントスタディ A・B・C

専門領域別分野

- 人間の健康と看護
- 基盤看護学 I・II
- 基盤看護学演習 I・II
- 基盤看護学実習 I・II
- フィジカルアセスメント
- 成人の健康と看護
- 成人看護学
- クリティカルケア看護学
- 成人看護学演習
- 成人・老年看護学実習 I
- 緩和ケア看護学
- 心の健康と看護 I・II

- 精神看護学演習
- 精神看護学実習
- 小児の健康と看護
- 小児看護学 I・II
- 小児看護学演習
- 小児看護学実習
- 性と生殖と健康と看護
- 周産看護学 I・II
- 周産看護学演習
- 周産看護学実習
- 高齢者の健康と看護
- 老年看護学 ■老年看護学演習
- リハビリテーション看護学
- 成人・老年看護学実習 II
- 公衆衛生看護学 I・II・III
- 公衆衛生看護学演習
- 公衆衛生看護学実習
- 在宅看護学 I・II
- 在宅看護学演習
- 在宅看護学実習
- 看護の統合と実践

- 多職種連携 I・II
- 災害看護学
- クリティカルシンキング・クリエイティブシンキング
- 看護マネジメント学
- 看護の統合と実践実習
- 成人・老年看護学実習 III
- 総合看護学実習

専門発展分野 (大学院科目)

- 看護学研究法特論
- 看護管理学特論
- 看護政策学特論
- 看護教育学特論
- 看護情報統計学特論
- 国際看護研究方法論
- 看護倫理 ■看護理論
- ヘルスサービスリサーチ看護学特論 I
- 小児・家族発達看護学特論 I
- 看護管理・高齢社会看護学特論 I
- 国際看護開発学特論 I

注：掲載の授業科目は2025年度以降入学者に適用される予定の内容です。

講義・実習風景

看護制度論

1年次には、看護の機能と役割を理解するための基礎的知識として、法令で定められる看護業務の特徴・看護教育制度・上級看護実践を規定する制度・ヘルスケアシステム全体の大きな枠組みから捉えた多様な看護実践・看護職員確保に向けた政策動向などを、WHOや厚生労働省など政策立案の最前線で活躍する看護職による講義や現行制度の課題分析などのグループワークを交えながら学びます。今後看護学を学んでいく上での基盤となる知識、考え方を身につけるとともに、将来的に看護学研究者として活躍するための医療・看護制度を俯瞰する力を養います。



基盤看護学演習

2年次通期で看護実践の基盤となる基礎看護技術を学びます。看護に共通する安全やコミュニケーション、観察などの基本的看護技術や、清潔、運動、睡眠などの日常生活援助技術、注射や採血などの治療・検査に伴う看護技術を3~4人のグループで演習します。失敗しながら試行錯誤を繰り返しますが、上手くできたときの達成感や満足感は格別です。実習着を着ると看護学生としての自覚と覚悟が生まれ、看護師になる夢に近づけます。8-9月には基盤看護学実習があり、受け持ち患者さんの看護を通して、学んだ成果を思う存分発揮できます。



成人看護学演習

3年次前期では、既習の病態生理および成人看護学の講義内容を関連づけて、成人期にあり、急性、慢性に経過する健康障害を有する人々への実践的看護技術、看護計画の展開を学びます。シミュレーション学習やグループ討議なども活用し、実際の臨床場面を想定した演習を行います。患者や医療者の体験、チーム医療を含め、段階的に知識・技術や思考能力を習得していきます。後期に続く本大学病院医系診療部門を始め、多くの現場で実習をし、看護をすることの意味を見いだしていきます。



在学生 MESSAGE

優秀な仲間と切磋琢磨しながら広い視野で看護学を学ぶ

私は、4年生になった今、看護学の奥深さを日々実感しています。看護学では、知識や技術だけでなく、“看護過程”という実践プロセスも学びます。3年次前期までに、領域別看護学や基礎看護技術、看護過程について勉強と演習を重ね、後期の実習では、実際に患者さんに対して看護過程を展開します。状況の変化に応じて実践する難しさにも直面しましたが、ケアによって患者さんに笑顔が見られた時や、コミュニケーションを通じて患者さんに寄り添うことができた時には、看護のやりがいを実感し、今後に繋がる自信を得ることができました。

本学看護学専攻の強みは、看護学を広く深く学ぶことができる点です。例えば、様々なフィールドで活躍されている先生方の講義が設けられており、看護学を活かした多様な働き方を知ることができます。また、海外研修制度など、学生の興味やモチベーションを高めるカリキュラムも充実しています。優秀な仲間と切磋琢磨しながら、広い視野で看護学を学びたい方にとっては、とても良い環境であると思います。



高須 美帆
医学部 保健衛生学科
看護学専攻4年

臨地実習

臨地実習は全学年に配置されていますが、3年次の9月から約半年間の臨地実習期間に入ります。病院や高齢者施設だけでなく、対象者のご自宅にも訪問して、座学で学んだ医学的知識や看護学の理論や技術を、日々の看護実践の中で展開します。そして、そこでの出会いが、看護師としての責任の重さを痛感させると同時に、更なる学習意欲を高めることに繋がっていきます。



公衆衛生看護学実習

保健師コースを選択した場合、4年次には公衆衛生看護学実習に出かけます。活躍の場はコミュニティです。公衆衛生看護学実習で学んだ、病気の人だけでなく、問題だけではない、疾病の予防やヘルスプロモーションといった、幅広い保健師の活動について自分たちが学んだことを発表し、意見を交換します。地域社会の中で揉まれることで、人間として一回りも二回りも成長させてくれます。



実践看護英語

異文化を理解し国際的に活躍できる人材を育成する目的で、英語自体を学ぶというよりも、異文化や看護について英語で学ぶ科目です。主にネイティブの英語教員が担当し、様々な文化についての記事を読み、留学生やクラスメートと英語でのディスカッションやプレゼンテーションを行います。2～4年次で3回まで受講できるよう設定しています。



卒業論文ゼミ

3年次から卒業論文に取り組む準備として研究法や文献検索の学習を始め、4年次の4月から本格的なゼミを開始します。興味のある分野を選択し、学生ごとに異なるテーマで看護の研究に取り組み、12月にはその成果を卒論発表会で報告します。大学院生とも時間を共にし、ディスカッションを通して研究者の卵となります。



卒業生 MESSAGE

卒業後も学び続けられる環境で、充実感をもって仕事に取り組む

東京医科歯科大学病院では、学生から新人教育までを一貫したものと考え、サポートする体制が構築されています。学生と看護師スタッフとの交流会を通じて現場の生の声を聞くことができ、人事交流の目的で看護師スタッフが学生に実技指導を行うこともあります。私が学生の時にはなかったアーツルームという実

習場所もあり、学びやすい環境が整っています。

働き始めてからも研修体制がしっかりしており、学びながら働くことができる病院です。

日々患者さんが元気に退院していく姿や、スタッフが成長していく姿をみて充実感を覚えながら働いています。



野秋 蘭子
東京医科歯科大学病院
看護部 副看護部長
医学部 保健衛生学科
看護学専攻
1994年度卒業

医学部

知識・技術・実践から学問を極め これからの保健医療に貢献する

保健衛生学科 検査技術学専攻



保健衛生学科
検査技術学専攻
Webサイト

本専攻は国立大学検査系教育機関のパイオニアとして、検査技術学の教育・研究を通して、医学保健医療についての豊かな教養と幅広い専門知識を持つ医療人を育成することを目的としています。専門的・学術的な視点に立った教育を行い、これからの保健医療に対する社会の要請に応えられる人材を養成しています。本専攻の特徴は、先端医療技術の進展に対応できる学際的視野と研究能力を修得し、医学・保健医療における検査技術の発展に寄与し、新たな世代の指導にあたる研究者・教育者を養成する点にあります。全国の国立大学法人の先陣として1989年に発足し、学部と大学院による一貫した教育体制を整えて参りました。以来、本学を巣立った卒業生が、研究・教育機関の指導者・研究者として、あるいは病院の臨床検査技師のリーダーとして活躍しており、その将来を期待されています。

保健衛生学科の教育理念

本学科は、看護学、検査技術学の2つの専門領域における知識・技術を教授することにとどまらず、豊かな教養と高い倫理観に裏づけされた医療人としての感性を有し、学際的視野にたち、自ら問題を提起し、これを解決できる能力を備えた医療人を養成します。

検査技術学専攻の教育目標

先端医療技術の進展に対応しうる学際的視野と研究能力を有する資質の高い人材および医学、保健医療における検査技術の発展とその教育・指導に従事する人材を育成する。

教育理念・教育目標は本誌発行時点の内容です。大学統合時には変更となる可能性があります。

教育内容

- 1) 専門的かつ学術的な視点から教育を行い、臨床検査学の基礎から最先端に至る知識と技術を修得する。
- 2) 医療や医学研究に携わる者としての基本的な教養、倫理観、責任ある態度を身につける。
- 3) 新しい臨床検査技術の開発や関連分野における独創的研究の基礎となる、科学的な思考法を身につける。

1年次前期に教養教育を受講します。1年次後期より専門科目を学び始めます。医療人としての高いモチベーションを持って勉学に励んでもらえるように、1年次の病院見学や3年次の臨地実習により実際の検査の現場を体験し、さらに他専攻の学生とともに多職種連携教育プログラムを受講します。2年次の講義は基礎医学、3年次の講義は臨床医学を主体に、学生が無理なく理解できるようカリキュラムに配慮しています。形態・病態制御学系、物質・代謝学系、機能調節・制御学系、病因・病態学系に大別された主要科目は、講義と実習を組み合わせた実践的なカリキュラムとしてあります。さらに、検査管理・社会医学系、総合分野、外国語の科目を加えて、広く臨床検査学について学びます。また、多様化する社会のニーズに対応した教育内容の充実にも力を入れており、必修科目以外にも1~4年次に多彩な選択科目、自由科目を開講している点が本学の特徴です。大学院医歯学総合研究科、難治疾患研究所、生体材料工学研究所と連携した講義、および全学

共通科目(人工知能(AI)関連の科目、英語、多職種連携等)や全学共通自由科目(臨床疫学プログラム、三大学連合複合領域コース)が組まれています。3年次には臨地実習に続いて卒業研究がスタートします。専攻内外の様々な分野で研究を実施し、研究発表や研究論文の作成を行い、各種の研究分野への学問的探究心を養います。4年次には総合講義で3年次までに学んだ臨床検査の知識を整理し、臨床検査学に関する最新の知識を臨床現場の専門家から学び、最後の仕上げとして卒業試験に臨みます。グローバル社会の実現に向けた全学の取り組みの一環として、本専攻でも英語教育や海外留学の支援に力を入れています。海外大学との連携・短期研修も積極的に行っており、アメリカワシントン大学、フィンランドセイナヨキ応用科学大学、ラオス保健科学大学、ネパールトリブバン大学、タイチュラロンコーン大学、台北医学大学、ガーナ大学と交流があります。新型ウィルスの流行の終息後は、対面式の講義、実習等と非同期型の講義を組み合わせることにより、ポストコロナ社会における効果的な教育指導の実現を目指しています。

○卒業時に取得できる学位・資格

学位：学士(保健学)

資格：臨床検査技師国家試験受験資格



カリキュラム構成図

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	
カリキュラム内容	専門教育・基礎 (講義・実習)		臨地実習	卒業研究	総合講義
	全学共通科目 (教養教育)	専門教育・臨床 (講義・実習)			
		TOEFL			
	選択科目・自由科目				

医学部保健衛生学科検査技術学専攻

授業科目

必修科目

- 人体構造学講義
- 人体構造学実習
- 病理検査学講義Ⅰ・Ⅱ
- 病理検査学実習
- 血液検査学講義
- 血液検査学実習
- 生化学講義Ⅰ・Ⅱ
- 生化学実習 ■ 薬理学
- 分析化学検査学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 医用システム情報学講義Ⅰ・Ⅱ
- 医用システム情報学実習Ⅰ・Ⅱ
- 生理学講義 ■ 生理学実習
- 臨床生理検査学講義Ⅰ・Ⅱ
- 臨床生理検査学実習Ⅰ・Ⅱ
- 病原体検査学講義Ⅰ・Ⅱ
- 病原体検査学実習Ⅰ・Ⅱ
- 免疫検査学講義
- 免疫検査学実習
- 遺伝子・染色体検査学講義
- 遺伝子検査学実習
- 臨床検査総合管理学
- 医学情報処理演習Ⅰ・Ⅱ
- 公衆衛生学講義
- 公衆衛生学実習
- 医療概論・関係法規
- 臨床病態学Ⅰ・Ⅱ
- 総合講義 ■ 臨地実習
- 卒業研究(Ⅰ)(Ⅱ)
- 多職種連携Ⅰ・Ⅱ
- Global CommunicationⅡ (全学共通)
- AI・データサイエンスのための数学(全学共通)

- 医療とAI・ビックデータ入門 (全学共通)
- アカデミック・リテラシー(全学共通)
- System-based Medical Terminology(全学共通)
- Diagnostic Procedures in English(全学共通)

選択科目

- 遺伝学 ■ 生体医工学
- 分子生物学 ■ 心臓生理学
- アドバンスド生理機能検査学
- AI実践演習 ■ 心電図判読
- 生命理工学概論
- 医療とAI・ビックデータ応用(全学共通)

- Learning Medical English
- English for Health Care SciencesⅠ・Ⅱ

自由科目

- 短期海外研修(A)・(B)・(C)・(D)
- IMRAD Format Presentation in English(全学共通)

講義・実習風景

分析化学検査学

分析学を中心に臨床化学検査の概要を学びます。尿中成分や血中成分の定性・定量検査の原理・特徴・方法を学びます。また、他の検体の成分分析や化学検査についても学びます。また、放射性同位元素を用いた検査法について学びます。



生理学、臨床生理検査学、臨床病態学

人体の機能について学び、様々な機器を駆使して実際に患者に接して行う検査について学びます。肺の機能を調べる方法、エコーを用いて肝臓、胆嚢、腎臓、膵臓、脾臓、甲状腺、乳腺などを検査する方法、心電図、エコーなどを用いて心臓や血管の形態や機能を検査する方法、脳波や筋電図を利用して神経や筋肉の機能を診断する方法を学びます。また、各診療科より講師を招いて、生体における疾患および病態、臨床検査にて異常所見を呈する原因について学びます。



病原体検査学、免疫検査学

微生物学や感染症の診断・治療に用いられる微生物学的検査法を学びます。感染症の原因微生物を検体から検出・同定し、薬剤感受性試験を行い、診断治療に役立てる方法を学びます。また、免疫機能の異常による病変、その検査の原理・特徴・方法、輸血検査について学びます。



在学生 MESSAGE

恵まれた環境で検査技術学を学び、自己を高める

本学の検査技術学専攻では、臨床検査技師に必要な専門的な知識だけでなく、最新の医療やこれからの医療を学ぶことができ、私たちがどのように今後の医療に貢献していくのかを考えるきっかけも提供してくれます。1年次には教養科目を他学科の学生と一緒に学ぶ機会があり、2年次からは専門科目を本格的に学び始めます。講義では、本学の先生に加えて他大学の先生や病院、研究所で働く先生にご教授いただき、先生方の専門としている内容を詳しく、幅広い知識を身に付けることができます。

また、本専攻は1学年35人程度と少人数であるため、班に分かれた実習でも班員で協力しながら1人1人が手を動かし、手技を学びます。学生同士で分からない部分を教えあったり、情報を共有したりすることができ、先生方との距離も近く、質問しやすい環境です。

最先端の医療を学ぶことのできる本学で、医療従事者を目指す仲間たちと共に充実した学生生活を過ごしてみませんか。



青木 智花

医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻 4年

病理検査学

主な疾病・病変による臓器の変化、その成因を理解し、診断のための病理学的検査法を学びます。病理診断、細胞診断のための標本を作成し、染色し、顕微鏡で観察します。



人体構造学

正常な人体と、それを構成する細胞から器官までの基本的な形態と構造を学びます。模型や実物の臓器・骨などを観察、スケッチしながら学びます。



血液検査学

血液成分の産生機構・形態・機能および各種血液疾患と血液検査について学びます。採血実習ではお互いに被験者になって基本的な手技を修得します。



医用システム情報学

検査診断機器の動作原理や性能が理解できるように、電気・電子回路、通信、情報科学などの基礎を学びます。機器の使用、安全管理に関する技術を修得します。検査や研究のデータ処理や統計検定について学びます。



遺伝子・染色体検査学、生化学

遺伝子の構造や疾患との関連性、遺伝子解析、その検査法を学びます。ヒトの遺伝子情報の倫理的な扱い、組み替え遺伝子実験について学びます。また、組織、個体レベルにおける生体高分子の構造、反応、機能について学びます。



臨床検査総合管理学

検査の精度管理と品質保証、臨床判断基準、検査室の安全管理について学びます。

公衆衛生学

疾病予防・健康増進の手法、環境や生活習慣等の影響、保健・医療・福祉の制度について学びます。

医療概論・関係法規

医学・医療を取り巻く情勢を概観し、臨床検査や医療に関する法規を学びます。

薬理学

薬物が生体に及ぼす作用、生体による薬物の吸収・代謝・排泄について学びます。

卒業生 MESSAGE

臨床検査の発展を願って

臨床検査技師には様々な活躍の場があります。血液検査、生理機能検査、微生物検査、病理検査や遺伝子検査など分野も幅広く業務内容もそれぞれ異なります。治療や診断をするうえで検査結果とはその根拠となるものであり、検査の品質を保証する臨床検査技師は重要で欠かせない存在です。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 関連の報道でワクチン接種やPCR検査の話題から臨床検査技師という職業を知った方もいらっしゃるかもしれません。今後も医学の進歩や社会情勢の変化により更なる業務の拡大が期待されます。

本学では臨床検査の基礎的な知識や技術を習得するだけでなく研究や国際交流にも力を入れています。私もタイやネパールでの研修に参加し海外の医療に触れることができました。また比較的小規模な学科のため学生同士、先生方も近い距離で過ごすことができるのも魅力の一つです。他学科の学生との交流は同じ医療系ながら他職種の視点を知る良い機会になると思います。在学当時を振り返り本当に恵まれた環境の中で貴重な経験を得ることができました。受験生の皆様には様々な選択肢があると思いますが、ぜひ臨床検査に興味を持っていただけると嬉しいです。



佐藤 和佳菜
東京大学医科学研究所
附属病院 検査部
医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻
2017年度卒業

歯学部

伝統に裏打ちされた世界に誇る教育環境 世界の歯科医療をリードする人材を育てる

歯学科



歯学科
Webサイト

本学科は2018年に創立90周年をむかえた日本初の国立歯学教育機関としての伝統を誇りとし、常にさらなる発展を目指すことで、2024年QS*世界大学ランキング歯学分野において、国内第1位、世界第4位の高評価を得ています。本学科では6年間の教育を通じて、国内はもとより、国際的にも活躍できる指導者の歯科医師、歯科研究者の育成を目指します。そのために、歯科医師養成機関のフロントランナーにふさわしく、経験豊かな教育スタッフ、充実した施設、多彩な教育コンテンツを用意し、歯学の基礎から臨床に至るまでの質の高い教育を提供しています。一方、歯科医学・医療においても国際化は進展しています。本学では世界に広がる協定校とのネットワークを生かし、海外研修など国際的感覚を身につける教育にも積極的に努めています。

*英国の世界大学評価機関のクアクアレリ・シモンズ(QS)による

歯学科の教育理念

豊かな人間性を有し、使命感をもって全人的な歯科医療を実践し、国民の健康維持・増進に寄与するとともに、国際的視野から歯科医学・歯科医療の向上に貢献できる指導者を育成します。

教育理念・教育目標は本誌発行時点の内容です。
大学統合時には変更となる可能性があります。

歯学科の教育目標

1. 幅広い教養を身につけ、歯科医師としての豊かな人間性を培う。
2. 基本的な科学の原理と概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
3. 科学的探究心をもち、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける。
4. 全身を理解した上で、口腔領域の疾患の予防、診断、治療に関する知識と基本的技術を修得する。
5. 社会における歯学・歯科医療の役割とその重要性を理解する。

教育内容

今、歯科医療は変化しつつあります。口腔内の環境が全身の疾患と関連しており、様々な疾患の予防、治療には口腔の衛生環境、機能を健全に保つことが大切であることがわかってきました。これからの歯科医師には、最先端の歯科医療を行う技術、知識の習得が求められるのはもちろんのこと、社会の高齢化、医療の複雑化が要求する多職種間の連携による包括的医療へ、口腔のスペシャリストとして参加できる知識、能力が要求されています。

本学歯学科は、将来、歯科医学の臨床、研究において指導的医療人となる歯科医師、また、高度な社会的要請に対応できる歯科医師を養成するため、教育に対する様々な工夫を行っています。また、2023年度1年生からは新カリキュラムが導入されています(34ページ参照)。ここでは3年次以降のカリキュラムは今後の予定として紹介します。

1年次前期は国府台地区で全学共通科目を履修し自己の教養を深めます。国府台地区は、医療系総合大学(2024年6月現在)である特徴を生かし、学部学科を超えた友人を作る場でもあります。1年次後期からは湯島地区で教養教育、多職種連携教育、医歯学基礎教育、歯科臨床教育が行われます。

1年次後期の「歯学入門」では、歯科医学と歯科医療の現状を認識し、医療人としての基本的態度を学びます。また、3年次までに解剖学、生理学、生化学、病理学など、人体の構造、機能、病態の基礎について学習します。多職種連携教育は、医療系総合大学である本学ならではの特色であり、医学科など他学科の学生と共に、「互いに教え、教えられる」形でチーム医療について学びます(11、12ページ参照)。4年次からはいよいよ歯科臨床についての講義、演習あるいは実習が始まります。

また、施設での体験学習を通して「人間観」を獲得し、さらに自己理解を深めることを目標とした「行動科学基礎」、口腔領域における疾病のケースシナリオを用いて、解剖学、生理学などの基礎医学の知識を疾病の病態解釈と理解に統合する「病態科学演習」、口腔

に関する一つのテーマに沿って様々な側面からの知識の整理を行い、より深い理解を行う「課題統合セミナー」、将来の歯科医師としての自覚を高めるために、実際の歯科臨床の現場を体験し、e-learningや動画・模型を用いたシミュレーション教育によって歯科臨床を体験する「歯科医療基礎」、学年を越えた学生と一緒に興味を抱く医歯学領域のテーマを自ら選び、理解を深める「学年混合セミナー」など、自主的学習態度、論理的思考能力を養い、科学的に問題解決の方法を修得するカリキュラムが組まれています。

さらに、本学では海外の多くの大学との学術交流を通じて国際交流が活発に進められており、本学科も学生を積極的に海外研修に派遣し、国際性を養う制度が充実しています。

また、研究者や研究マインドを持った歯科医師を育てるため、1年次より「研究入門」を開講し、3年次後期に長期(2~3ヶ月間)の研究活動を行う「研究実習」につながる学修を行います。「研究実習」を外国の研究室も含めた学外研究機関で行うことも可能です。

そして4年次(予定)には、臨床実習前の全国統一試験(共用試験)を受験します。この試験は、それまでに習った知識の総合的理解力を評価するコンピュータを用いた客観試験(Computer Based Testing: CBT)と、診療に参加する学生に必要な基本的診療技能・態度を評価する客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)で構成されています。

これらの試験に合格すると、5年次から6年次に本学歯学部開設以来の伝統として約1年6ヶ月行われる、診療参加型の「包括臨床実習」を履修します。学生には日本で最大の1日来院外来患者数を誇る本大学病院歯系診療部門から学生用患者が配当されます。学生は原則として患者の医療面接から、診断、処置、予後観察、メインテナンスに至る包括的全人的な治療の実践を経験します。患者治療を直接行う経験を通じて倫理観を醸成し、包括的歯科医療の理論と実際を実践体得し歯科医師としての自覚を高めていきます。



カリキュラム構成図

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
カリキュラム内容	教養教育 多職種連携!	教養教育			臨床実習前の共用試験	教養教育	臨床実習後の共用試験	
		研究者教育				歯科臨床教育 (診療参加型臨床実習)		
		医歯学基礎教育						
		歯科臨床教育						
		多職種連携教育・教え合う教育						多職種連携教育・教え合う教育
		国際性教育						

※ 2023年度入学者より、学内のカリキュラム再編に伴い、新たなカリキュラムを導入しています

新カリキュラムについて

2023年度新カリキュラムでは、科目配置・内容を見直し、歯学科の教育目標の達成をさらに高い次元で行うことを目指しており、以下のような特徴が備えられています。

- 多様な学びのスタイル(登校・遠隔授業)を取り込んだカリキュラム構成
- 早期から歯学専門教育を学ぶことが可能な1年後期からの専門科目の開始
- 研究活動への参加を1年から開始し、長期の研究活動を可能とする長期研究室配属プログラムの提供(研究実習の拡充)
- 幅広い教養を修得し豊かな人間性を培うために、低学年から高学年まで通じて学ぶ一般科目の配置
- 医療系総合大学の特徴を活かした、他学科学生(医・看護・検査・口腔保健衛生・口腔保健工学)との合同授業の拡充 など。



歯学科と口腔保健衛生学専攻との合同演習

歯学科は入学時から良き歯科医師になるための 様々なプログラムを行っています

早期臨床体験実習

歯科医療に携わるといふ自覚を早期に持つてもらうために、歯科医療に関連する課題解決演習を行います。少人数のグループで本大学病院歯系診療部門の診療科に配属され、臨床見学や指導医の説明を通じて歯科医療の実際を体感します。そこで疑問に思ったこと、興味を持ったことなど自ら課題を見つけ、調査・実験・討論等を通じてその課題を解決します。これらの過程と成果をクラス全員の前で発表し、質疑応答を行うことで、プレゼンテーションの基礎も身につけます。

(本授業は対面授業と遠隔授業の併用で行います)



行動科学基礎



行動科学は人間の行動を科学的に研究し、医学のみならず心理学、社会学、人類学、経済学等の文理融合から得られる知見を活用して法則性を明らかにする学問です。この学問はその有用性により、多岐にわたる領域で活用されています。

本授業では、歯学科の学生たちが、歯科医療や歯学研究における専門家として守るべき規範を深く理解すると同時に、医療従事者の基本であるプロフェッショナリズムの核となる歯学生の人格の成長を主題としています。

授業では、医療関係者が習得すべき行動科学の関連領域に焦点を当て、医の倫理、医療安全、チーム医療、プロフェッショナリズムといった基礎的な知識、技能、態度の修得を目指します。座学だけでなく、問題提起を通じたプレゼンテーションやディスカッションを通して、自主的な思考を促します。

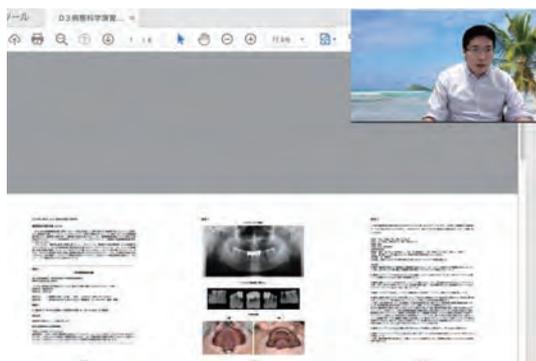
病態科学演習

問題発見・解決型思考力の向上を目指して、3年次に行われます。

臨床症例の病態を症状や検査データを元に推論し、2年次に学習した基礎医学の知識を用いて論理的に説明できるスキルを身につけるトレーニングを行います。

自学自習を目的に、少人数の学生がチューターの助言を得ながら個々の問題解決に必要な事項を学ぶTBL(Team-based learning)のチュートリアルです。

2020年度からは遠隔授業(左の写真)を受けながらグループ内でweb会議システムを活用して課題に取り組む授業形態になっていますが、状況が整えば感染対策を徹底した上で2019年度以前のような対面でのグループ学習(右の写真)も取り入れたハイブリッド方式の授業も実施できる予定です。



学年混合セミナー

専門科目を2・3・4年生が共に学び、教え合い、互いに成長するための機会として、学年混合セミナーが行われます。

科目の目標は、1) 患者の多様性を尊重し、英語等異なる言語に対応するための基本を習得する。2) 地域医療の中で、我が国と異なる文化や価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮できる。3) 日本の医療の特徴、国際社会への貢献、協力の重要性を理解している。4) 世界の保健・医療問題の概要を理解している。であり、これらの能力を修得するために、本授業で扱うテーマは、日本だけではなく、世界各国の医療制度や課題を扱い、それらを個人、グループで探求し、学生の自由な観点での学びを促す授業です。

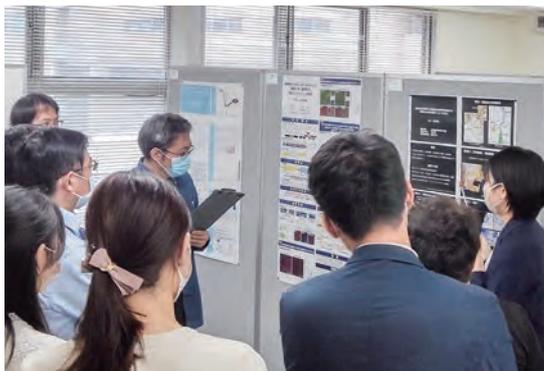
研究実習

歯学科教育目標である

- ・基本的な科学の原理と概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
- ・科学的探究心をもち、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける。

に基づいた科目です。1～3年次に受ける歯科医師として必要な基礎歯学教育の集大成として、研究についての「いろは」を学ぶ研究入門です。学生ごとに興味ある研究テーマを選択し、学内外の研究室で最長で約3ヶ月実際に研究を行い、その成果を発表します。学外コースでは、国内だけでなく、海外の研究室で行うことも可能です。休暇中の実習期間延長も可能で、より充実した実習の成果報告を発表会で行えます。2020～2022年度の発表会はオンラインで開催されましたが、2023年度からは対面開催となっています。

なお、2023年度入学者より導入予定の新たなカリキュラムでは、本実習は現在の4年次前期から3年次後期に時期を繰り上げて実施する予定です。



包括臨床実習

5年次の秋から6年次（現行）には本学歯学部開設以来の伝統として、診療参加型の「包括臨床実習」が約1年6ヶ月行われます。

本大学病院歯系診療部門の学生専用の診療室で、あらかじめ学生の治療の同意を得た患者さんを担当し、ベテランの教員の指導のもとで、初診時の医療面接から、検査、診断、処置、予後観察、メンテナンスに至る包括的全人的な診療を実践します。

また、様々な専門診療外来、病棟での実習も併せて行います。



日々の学び、歯科医師としての第1歩を

包括臨床実習では学生1人につき10～20名の患者さんを担当します。治療計画を立てることからスタートし、実際に治療をしていきます。毎回の診療には各分野の指導医と事前に治療について相談を行い、十分な準備をして診療に臨みます。全身疾患への配慮など模型実習では学べなかったこともたくさんあります。また技術のみならず患者さんとの信頼関係をどのように築き、寄り添っていけるかなど、歯科医師としての基本も学ぶことができます。学生

のうちから多くの症例について触れることができる臨床実習は、本学の魅力であり、これからの歯科医師人生に大きく寄与するものだと思います。

日々の診療や指導医から学ぶことは多く、尽きることはありません。自分の知識や技術不足を痛感することもあります。患者さんの笑顔や信頼を得られた時には大きなやりがいを感じます。互いに助け合い、励まし合える同期と共に充実した日々を送っています。



坂本 夏海
歯学部 歯学科 6年

研究実習による国際交流

歯学科の研究実習は、実習期間が最長で約3ヶ月となります。実習前に配属先を決定しますが、配属先は学内では歯学科の研究室に加え、基礎系研究室を中心に全学的に受け入れをお願いしています。

学外コースでは、国内他研究機関への配属、および海外の研究機関研究室への配属があります。国内国外にかかわらず、原則は学生自身が配属先を探すことになっていますが、教員による配属先の紹介などの支援もあります。2013年度から2019年度までは毎年海外への派遣がありました。2020、2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大のために派遣ができませんでしたが、2022年度より派遣が再開され、2023年度は5名の学生が派遣されました。これまでに、英国、カナダ、韓国、ドイツ、米国、タイの大学への配属実績があります。

研究実習中の実習成果は、授業の一環としての発表会のみならず、国内学会や国際学会での学部生セッション、全国歯学部学生による研究発表大会(SCRIP)、タイ国チュラロンコーン大学歯学部および米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校のResearch Day、国際歯科研究学会(JADR)日本部会 Joseph Lister Award 選考会などで発表する機会があります。

歯学部では、研究実習での成果を日本語のみならず、英語で発表する機会を提供していきます。



King's College London での充実した研究実習

私はKing's College LondonのCentre for Craniofacial & Regenerative Biologyという分野に属するProf. Karen Liuの研究室で2ヶ月半、「胎生8.5日のマウスの頭部神経堤細胞における、TJP2タンパク質発現の局在について」というテーマで、指導員であるPhD. William Barrellの力を



借りしながら研究をさせていただきました。研究というものが初めてであること、英語に苦手意識をもっていたことから、最初は不安でいっぱいでしたが、labのメンバー全員が優しく受け入れてくださり、充実した研究実習生活を送ることができました。私がいた27階のフロアでは、週に一回ほど全員の前でプレゼン発表したり、ときにはテールルームというところでパーティーをしたりと研究室を超えた繋がりを持つことができました。休日は、labで知り合った方にロンドンを案内していただいたり、Dr. Richard Foxtonのご好意によりKing'sの病院で最新の機械を体験させていただいたり、ひとつひとつが貴重な機会でした。勇気を出して行って、本当に良かったと思います。



青山 みゆき
歯学部 歯学科 5年

ロンドンで歯科医師としての未来と向き合った3ヶ月

私は4年生の6月から8月の約3カ月間、King's College London, Centre for Craniofacial & Regenerative BiologyのDr. Maisa Seppalaの指導のもと、大臼歯の発生過程においてGAS1の欠損がWntの発現に与える影響をテーマにした研究実習を行いました。研究に携わるのは初めてでしたが、Maisa先生をはじめとする研究室の方々に、



プレパラートの作製方法や観察・比較のポイントについて丁寧に指導いただき、充実した研究生活を送ることができました。また、世界中から人々が集まる都市ロンドンにあるKing's College Londonには、さまざまな国から学生・研究者が集まります。そのような研究室で定期的に行われるセミナーやミーティングへ参加する機会をいただけたことは、海外の大学院で学ぶことの意義や難しさを実感する貴重な経験となりました。帰国後は歯科医師また研究者としての目標をより明確なものにすべく、本学の発生学分野の研究室に自主的に通わせていただき、理解を深めています。このような機会を与えてくださり、支えてくださった皆さまに心から感謝しています。



藤田 東幸
歯学部 歯学科 5年

姉妹校との双方向の学生交流

歯学部は、大学間も含めて世界26か国・地域の56大学の歯学部と学術交流協定を締結しており、学生交流活動も活発です。特に、英国キングス・カレッジ・ロンドン、タイのチュラロンコーン大学やシーナカリンウィロート大学、インドネシアのインドネシア大学、ベトナムのホーチミン医科薬科大学、スウェーデンのヨーテボリ大学などは、毎年、双方向の学生交流を行っています。歯科学学生は、研究実習以外にも春・夏季休業中に、国際研修プログラムに参加する機会があります。

派遣プログラムでは、本学学生を約1~2週間海外に派遣し、病院・診療所の見学、大学での講義・実習への参加、地域の保健医療活動の見学などの研修プログラムを、現地の教員の協力を得て実施しています。土日には、現地の学生と交流する機会もあり、一緒に食事や観光をして仲良くなり、友達となってネットワークを広げています。

受入プログラムでは、交流相手大学の海外学生を受け入れ、本学の教員の指導のもと、基礎・臨床分野での研究体験、病院見学、講義・実習への参加、医療関連企業等の見学など、実践的な内容の歯科研修プログラムを提供しています。また、派遣プログラムに参加した学生が中心になって、海外学生の日本での生活のサポートや、日本文化体験などを積極的に行っています。2020~2022年度は実際の派遣や受入ができず、オンラインでの交流を実施しました。2023年度からは実際の交流が再開され、活発な国際交流を行っています。2023年度は12校からの学生受入を行いました。



ヨーテボリ大学への短期派遣プログラムで得た貴重な経験

2024年5月に、スウェーデンのヨーテボリ大学にて2週間の短期研修プログラムを行いました。ヨーテボリ



大学は歯周病学や予防歯科学の分野で世界トップレベルの研究成果を誇る大学であり、講義や実習への参加を通して日本との教育環境や医療システムの相違点など多くの学びを得ること

ができました。また、スウェーデンにはFikaと呼ばれるコーヒーブレイクの時間があり、休み時間に現地の学生や先生方とコーヒーを飲みながら雑談することでより親睦を深めました。放課後や休日には現地の学生に観光名所を案内してもらったり、一緒に外食をしたりしてスウェーデンの文化を知ることでもできました。

今回の留学プログラムはよりよい歯科治療を目指し日々研鑽に励んでいる仲間がいるのを体感できたことで今後のモチベーションにつながりましたし、キャリアを考える上で貴重な経験となりました。世界的な権威であるヨーテボリ大学で学ぶ機会をくださり、支えてくださった方々に感謝します。



由木 孝尚
歯学部 歯学科 6年

新たな視点と出会いをくれた海外研修

2024年3月にインドネシア大学への短期研修に参加しました。病院や研究室等の見学をさせていただき、インドネシア大学歯学部でどのような研究、教育、臨床が実施されているかを体感することができました。特に、自分と同じように歯科医師を目指す学生が臨床の場で



治療を行う姿には刺激を受け、自分の秋からの包括臨床実習に対する意欲が非常に高まりました。

また、現地の方々はとても温かく迎えてくださり、初めての土地でも安心して過ごすことができジャカルタでの生活を本当に楽しいものにしてくれました。さらに、彼らとの交流をきっかけに、自分の興味や将来の進路について今までとは異なる新たな視点で考えることもできました。このように、学生の間と同じ道を目指す仲間と沢山出会えることはこの上なく素晴らしい経験だと感じます。この出会いに感謝するとともに、研修を通じて得られたことをこれからの学びや活動に還元していきたいと思っています。



生越 佳奈子
歯学部 歯学科 5年

講義・実習風景

人体の構造と機能

歯科医師は人の「病態」を「正常」にもどすために治療を行います。「病態」がわかるためには「正常」がわからなければいけません。人体の構造と機能では、「構造」と「働き」についての「正常」な状態を学びます。

人体の構造について学ぶのが解剖学です。解剖学実習では、歯科医師と関わりの深い頭頸部だけでなく、全身の構造について学びます。また、歯学部独自の科目として、「歯の解剖学」があり、直接の治療の対象となる乳歯、永久歯の形態、構造を学びます。写真は人体の構造を顕微鏡で観察する実習（組織学実習）です。人体の働きについて学ぶのが生理学です。生理学実習では、講義で学んだ神経の基本的な働きや、反射、咀嚼運動、味覚などについて、動物や人を対象に実験を行い、実際に自分の目でそのメカニズムを確かめます。また、自ら実験を行うということは将来研究者を育成するという目的も持っています。



咬合回復

歯周病などが原因で歯をなくした患者さんには、入れ歯やブリッジ、インプラント等の方法でなくなった歯を補って口腔機能と形態の回復を行います。このような学問を補綴（ほてつ）学と呼んでいます。補い綴るための学問です。写真は全ての歯をなくした患者さんにいれる入れ歯（全部床義歯）を作成する実習の様子です。

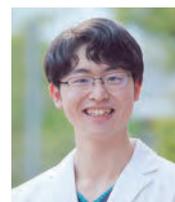


在学生 MESSAGE

幅広い基礎医学の学びと将来につながる臨床の経験

歯学科では1年生で他学科の学生とともに教養を学び、2年生からは専門教育が始まります。専門教育は解剖学、組織学、生理学等を講義や実習を通して学ぶことから始まります。口腔領域に限らず内科、外科等の領域も学ぶことで、全身を包括的に思考できる医学知識も会得します。その後は臨床歯学が始まり、人工歯や実際の歯を用いて歯科臨床の治療法や技術を学びます。5年生の後期からは学生クリニックでの包括臨床実習です。実際に患者さんとコミュニケーションを取りながら検査、診断、治療等の

一連の流れを学生主体で行っていきます。模型の実習だけでは分からなかった治療の難しさに気づかされ、日々大いに学びのある実習です。学生のうちに歯科医業を経験できるのは大変貴重であり、本学で歯学を学ぶ最大のメリットだと思います。不安な点に関しては事前に指導教員と相談を行ったり、スキルスラボで実際の治療に即して模型で練習したりなど安心して臨床に臨める環境も整っています。



橋本 賢斗
歯学部 歯学科 6年

歯科生体材料

歯科医療では金属、プラスチック、セラミック等、様々な材料が使われています。歯科材料が水分を吸って性質が変わったり、何かが唾液中に溶け出してアレルギーなどの原因になってはいけません。また硬い材料でないとうすぐに壊れてしまいますが、あまりに硬いといういろいろな形に加工することができません。この実習では歯科医療で使用される様々な材料の物理化学的特性や、生体への影響、加工方法について学びます。

写真はオンデマンド動画教材の一コマです。



鋳造する時は、右手でハンドルをしっかり持ち、1 cmほどハンドルを手前に引くとストッパーが落ちる。左手はブローパイプの炎が常にメタルにあたるように保持！

咬合育成・発達

子どもから大人への成長発育にともなって頭蓋、顎顔面は形態が変化します。また、歯は無歯顎から乳歯列が完成してしばらく安定した後、乳歯から永久歯に生え変わります。この時期にはむし歯や歯肉炎とともに歯の外傷や様々な原因で不正咬合（歯並び・咬み合わせの異常）が生じます。不正咬合は、審美的な問題だけでなく、機能的な問題も引き起こします。小児歯科学や歯科矯正学ではその予防、診断、治療に必要な知識と技術を学びます。写真は歯科矯正学の実習の様子です。



歯と根尖歯周組織の疾患

歯科医師にとってう蝕（虫歯）の治療はもっとも重要な仕事です。う蝕が小さなうちは削ってプラスチックや金属で埋めて修復します（保存修復学）。この場合、う蝕になっている部分だけを正確に削り取る技術が必要です。う蝕が大きくなると、歯の神経が炎症を起こしたり細菌感染がおこって痛みが生じます。この場合は神経の治療が必要になります（歯内療法学）。神経の治療は骨に埋まった歯根の先端部まで行わなければならないので直接目で確かめることができないので技術が要求されます。このようなう蝕の治療も神経の治療も全て患者さんの口腔内で行われます。そのため、患者さんを模したマネキンを使って、実際の口腔内とほぼ同じ環境で治療のトレーニングを行います。



卒業生 MESSAGE

豊富な知識や貴重な経験が得られる環境で勉強できます！

私は高齢者歯科学分野に所属し、本大学病院歯系診療部門では義歯科という、被せ物や入れ歯を必要とされる患者さんの治療を主に行う外来で診療を行っています。口腔の機能は審美や発音、咀嚼、嚥下などを担い、本大学病院歯系診療部門での歯科治療は、これらの機能を回復し、最終的に、患者さんが健康で質の高い生活を営んでいくことができるように、さまざまな外来の先生方と協力して治療を進めています。

また、近年は高齢者のフレイル（身体や認知機能の衰え・

低下）が問題となっていますが、そのフレイルも口腔の機能が大きいに関連していることが研究で報告されています。フレイル以外にも口腔と全身の関連性は多くの研究で指摘されていて、本学では歯学部内での他分野と連携した研究、さらに医学部とも連携した研究が広く行われています。本学は、口腔から全身の健康を実現するための多くの知識を得ることができ、そして得られた知識を臨床や研究に大いに生かすことができる場であると思います。



駒ヶ嶺 友梨子
東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
高齢者歯科学分野
准教授
歯学部 歯学科
2006年度卒業

歯学部

口腔保健学科 口腔保健衛生学 専攻



口腔保健学科
口腔保健
衛生学専攻
Webサイト

口腔保健を深く学び、科学的探究心に 優れ、多職種と連携して、人々の健やかな 人生の実現をサポートできる人材の育成

本専攻は、保健医療、福祉各分野と密接な連携を図るとともに、口腔保健分野に関する総合的な科学研究を行い、その成果を広く社会に還元してゆく学際的特徴を持っています。本専攻が目指しているのは、高度な専門知識と技術の習得だけではなく、多職種と連携し、ライフステージに応じた口腔の健康づくりを通じて、人々の健康で幸せな生活をサポートすることができる人材の育成です。豊かな人間性と科学的な思考力、高い倫理観を持って知識と技術を活かし、医療を中心とした様々な場で口腔保健活動が展開できる能力を持つ歯科衛生士の教育と、口腔保健分野の未来を担う研究者の育成を行います。

口腔保健学科の教育理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成します。

口腔保健衛生学専攻の教育目標

1. 生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
2. 基本的人権を尊重し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。
3. 社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
4. 心身の様々な状態を理解し、口腔保健に関する知識および技術を修得する。
5. 科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
6. 保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
7. 口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。

教育理念・教育目標は本誌発行時点の内容です。大学統合時には変更となる可能性があります。

教育内容

本専攻では、4年間で歯科衛生学を中心に保健・医療・福祉の分野にわたる総合的な学習を行います。

1年次は主に教養科目(人文・社会科学、自然科学、外国語、保健体育など)を他学科の学生とともに学ぶほか、専門基礎科目や臨床体験実習、卒業研究、多職種連携などの科目を履修します。卒業研究では、それぞれの興味や疑問を原点として研究についての基本、文献の検索等のやり方等準備を始めます。

2年次から3年次には、歯科衛生学・口腔保健衛生学の専門基礎科目及び専門科目の講義、また口腔疾患予防や健康教育、臨床口腔保健衛生に関する理論と実際を理解するための講義と基礎実習を行います。社会福祉関連科目も履修するほか、対人職には欠かせないコミュニケーション能力を身につけるための演習も

あります。

臨床実習は、3年次後期から本格的に開始されます。歯科衛生に関する基礎系・臨床系科目で学んだ知識と技術を活かして、実践力を高めます。また、幼稚園や小学校などで健康教育実習を行います。

4年次には、3年次までに履修した内容をさらに展開して、総合病院、地域、障害者施設、高齢者施設などにおける臨地実習を行い、実社会で活躍するために必要な問題解決能力を培います。また、卒業研究などを通して、科学的思考法と解決法を身につけます。

卒業時には、歯科衛生士国家試験受験資格を取得できます。



カリキュラム構成図

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	
カリキュラム内容	全学共通科目 (国府台:1年前期) ■英語、外国語 ■人文社会科学 ■情報科学・統計学 医療とAI、ビッグデータ関連科目 他 ■自由選択科目	全学共通科目			
		専門基礎分野 ■科学英語Ⅰ(必修)、Ⅱ※ ■人体の構造と機能及び疾病 ■歯・口腔の構造と機能 ■保健医療サービス ■臨床医学 ■口腔内科学 ■多職種連携	OSCE・前期末試験	歯科衛生臨床実習	
	専門基礎分野 (湯島:1年後期 月・火・金曜日) ■人体の構造と機能及び疾病 ■歯・口腔の構造と機能 ■栄養と代謝 ■社会保障 ■メディア情報学基礎 ■公衆衛生学 ■卒業研究	専門分野 ■口腔疾患予防学 ■臨床歯科医学 ■生体材料学 ■口腔内科学 ■臨床体験実習 ■歯科診療補助論 ■高齢者歯科学 ■障害者歯科学 ■健康教育の基礎 ■健康教育の企画と実践 ■食生活教育 ■チーム医療の実践 ■口腔機能管理実習 ■臨床口腔保健応用学	【合同授業・演習・実習】 医学科・歯学科・保健衛生学科(看護学専攻・検査技術学専攻) 口腔保健工学専攻		
		総合・展開分野 (○:選択必修科目1単位) ■歯科衛生過程 ■コミュニケーション論 ■社会調査・研究の基礎 ■生命倫理 ■歯科衛生学演習 ■口腔保健衛生エクスターンシップ※ ■国際保健と国際協力(○) ■先端歯科医療学(○) ■在宅訪問・災害口腔保健医療(○) ■地域口腔保健論(○) ■保健行動科学※ ■口腔保健マネジメント論※ ■歯科衛生臨床・臨地応用論※	卒業研究		卒業研究発表会
	専門分野 ■多職種連携 ■歯科衛生学総論 ■臨床体験実習	社会福祉系科目(必修科目) ■高齢者福祉 ■児童・家庭福祉 ■地域福祉 ■障害児・者福祉 ■社会福祉実習			

※ 自由選択科目

授業科目

専門基礎分野

- 人体の構造と機能及び疾病
- 社会保障 ■公衆衛生学
- 科学英語
- 歯・口腔の構造と機能
- 保健医療サービス

専門分野

- 多職種連携
- 歯科衛生学総論
- メディア情報学
- 臨床体験実習
- 口腔疾患予防学
- 臨床歯科医学
- 食生活教育 ■生体材料学

- 口腔内科学 ■臨床医学
- チーム医療の基礎・実践
- 口腔機能管理実習
- 高齢者歯科学 ■障害者歯科学
- 歯科診療補助論
- 歯科診療補助実習
- 健康教育の基礎
- 健康教育の企画と実践
- 歯科衛生臨床実習(育成系・維持系・回復系診療科、総合診療科、中央診療施設)
- 歯科衛生臨地実習(保育園・幼稚園・小学校・中学校・保健センター・障害者センター・高齢者センター・総合病院・企業

- 内診療所・歯科関連企業)
- 臨床口腔保健応用学

統合分野

- 歯科衛生過程
- 社会調査の基礎 ■卒業研究
- 相談援助の基盤と専門職
- 口腔保健と国際協力
- 歯科衛生学演習

口腔保健衛生選択自由科目

- 先端歯科医療学
- 歯科衛生臨床・臨地応用論
- 歯科衛生研究
- 口腔保健衛生エクスターンシップ

- 口腔保健マネジメント論
- 保健行動科学
- 地域口腔保健論
- 在宅訪問・災害口腔保健医療

社会福祉選択必修科目

- 児童・家庭福祉
- 障害児・者福祉
- 地域福祉 ■高齢者福祉
- 相談援助演習

歯学部 口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻

講義・実習風景

基礎歯学系授業

1、2年次には、基礎系歯科医学の講義と実習を通して、人体、特に歯と口腔の解剖学的構造とその生理学的機能及び代謝のしくみについて学ぶとともに、病理学的変化とその成り立ち、微生物の病原性と生体の防御反応、薬剤の作用と疾病からの回復過程について学びます。



多職種連携教育

全学科共通のプログラムを、PBL形式で1年次から4年次まで実施しています。自らの知識や価値観を、他学科の学生に共有し、医療・歯科医療において活躍する保健・医療・福祉の専門職についての理解を深め、共通する職業倫理や仕事に対する姿勢、多職種連携の重要性を学び、それぞれの将来像を共有することを目指しています。

健康教育の企画と実践

健康づくりに欠かせない知識や技能を身につけ、対象とする方々が行動できるようサポートするための健康教育の実践力を養います。園児、小・中学生や高齢者が対象の健康教育を企画立案し、教材を作成して実践・評価します。



在学生 MESSAGE

様々な場で広く活躍する歯科衛生士を目指す

本専攻は1学年20人程度と少人数であり、先生方からの手厚いご指導・ご支援を受けることができます。

座学に加え、本学病院での臨床実習や学外での臨地実習も行います。臨地実習では、病院だけではなく、歯科クリニックや訪問歯科診療の場、保健所などの行政の場へも行く機会があります。これらを通して、専門知識や技術を学ぶことができます。加えて、幼稚園や小学校を訪問しての健康教育などから、企画・実践力を養うこともできます。また、歯学だけでなく、医学・福祉系科目についても学習する機会があり、他学科・専攻との

合同実習と併せて、多職種への理解と連携の重要性を知り、多角的な視点から口腔の健康に関する学びを深めていくことができます。長期休みを利用した海外派遣のプログラムも用意されており、世界の歯科・口腔保健について広く学ぶこともできます。

このように本学では、単に知識や技術を身につけるだけでなく、将来チーム医療の中で力を発揮し、日本だけでなく世界で活躍する歯科衛生士を目指すことができます。



調子 綾
歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻
4年

口腔疾患予防学実習

2年次は模型実習、マネキン実習で、口腔疾患予防に必要な基礎的なスキルを身につけます。さらに、学生同士の相互実習を行い、患者対応の基礎訓練を行います。情報収集し、整理・統合した上で、介入計画を立てて実践する流れを身につけます。

3年次後期から4年通年の本大学病院歯系診療部門における臨床実習を通して、実践力を養成します。



臨床実習

本大学歯系診療部門では、歯科衛生士及び歯科医師の指導を受けて、患者さんへの指導や歯科予防処置などを行います。口腔内の観察、検査、医療面接などから、必要な情報を収集して患者さんにとって必要な介入ができるように計画し、実践・評価します。歯磨きのことばかりではなく、生活習慣や食生活、禁煙に関する指導など幅広い内容を取り上げます。情報交換のため、ケースに関するプレゼンテーションを行い、互いに意見交換して、その精度を高めていきます。



社会福祉関連演習

医療現場でも、福祉の専門的な知識や技術を持って障害のあることや環境上の理由によって、日常生活に課題を抱えている人々からの福祉に関する相談を受けて、助言や指導、必要な時はその人の関係者（家族・医師など）との連絡や調整などの援助を行うことがあります。2年次から行われる社会福祉関連演習では高度化・多様化した福祉医療ニーズに対応でき、生活を支えるための高い実践力を養います。



卒業生 MESSAGE

自主性を高め、多分野で活躍する歯科衛生士に

私は本学大学院修士課程を卒業後、当病院のオーラルヘルスセンターにて働いています。当外来では手術を受ける患者さんの口腔健康管理や、人生の最期を病院で過ごす患者さんの口腔ケアなどを行っています。

総合病院で働く歯科衛生士は、他職種との連携が欠かせず、それには歯科的な知識だけでなく多角的な視点や知識が必要になります。本専攻では、医学・歯学のみならず、福祉や法律など、海外研修での国際医療を含め幅広い分野を学ぶ環境が整えられています。また医学科と歯学科との連携教育もあり、実践的なカリキュラムも充実し

ています。

実習では、問題解決能力を高めるために、自ら患者さんとの関わり方を考えマネジメントしていきます。患者さんのために何ができるかを主体的に考えるスキルは、歯科衛生士として歯科診療所や病院以外にも、教育や研究、行政など様々な分野で将来活かしていくことが可能です。

日本で最も高度な医療を学ぶことが出来る本専攻で、口腔の健康を通して社会のために貢献できる歯科衛生士を目指しませんか。



宮島 沙紀
東京医科歯科大学病院
歯科衛生士
歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻
2018年度卒業

歯学部

口腔保健学科 口腔保健工学専攻



口腔保健学科
口腔保健
工学専攻
Webサイト

造形と製作加工の技術を 匠の技として発展させ、人々の健康に 寄与する技術者、研究者、教育者を育てる

口腔保健工学専攻は、口腔の健康の維持・増進・回復を図り、人々が快適な社会生活を営めるように医療専門分野はもとより工学分野とも相互に密接な連携を図りつつ総合的かつ科学的な研究を行いその成果を広く社会に還元する極めて学際的なコースです。4年制歯科技工士教育機関として世界のトップリーダーに相応しい、口腔から全身の健康に関する高度な専門的技術を有する歯科医学・歯科医療の一翼を担う歯科医療技術者を目指します。卒業後には、口腔保健工学を発展させていくことのできる技術者、研究者、教育者として、国内はもとより国際社会においても活躍することが期待されています。

口腔保健学科の教育理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成します。

教育理念・教育目標は本誌発行時点の内容です。
大学統合時には変更となる可能性があります。

口腔保健工学専攻の教育目標

1. 生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
2. 深い人間理解と医療人としての高い倫理観、豊かな感性を身につける。
3. 社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
4. QOLの向上に関わるものづくりの専門家として、自らの高度な知識と技術を社会に還元する意欲を養う。
5. 科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
6. 保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
7. 口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。

教育内容

本専攻は幅広い教養と豊かな感性、問題発見・解決能力、ならびに国際性を涵養することを目標にカリキュラムを編成しています。2023年度からは、自学自習時間を確保し、三大学連合科目などの幅広い教育を受けられるようになり、デジタル科目の基礎、最新の歯科技工技術や多職種連携教育が行われます。

入学してすぐに「多職種連携Ⅰ」を歯学部医学部の新入生全員が受講し、多職種がチームとなって課題に取り組みます。1年次前期は主に教養教育として全学共通科目を履修します。1年次後期からは「メディア情報学基礎・応用」などの基礎分野、「早期臨床体験実習」、「人体の構造と機能」、「歯の解剖学」、「感染予防」、「う蝕と歯周病」などの専門基礎分野の科目を履修します。「口腔保健と専門職」では小グループ学習を行い、医療介護の専門職とチームの一員として歯科技工士の在り方を考えます。

2年次以降は湯島地区で基礎分野、専門基礎分野、専門分野などの科目を学びます。「口腔と全身の基礎医学」では口腔と全身の生理現象と疾病の原因および薬物治療の基礎を学びます。「口腔保健理工学」では歯科技工で用いる材料器械の原理や扱い方について学び、さまざまな材料の物性測定を行います。「ヘルスプロモーション」では口腔保健の専門家としての役割とヘルスプロモーションの活動、口腔健康管理について学びます。「全部床義歯補綴学・実習」、「デジタル全部床義歯実習」、「部分床義歯補綴学・実習」、「歯冠修復学・実習」では歯科補綴装置の製作方法を最新のデジタル技術も含めて学

び、製作します。「グローバル口腔保健工学」では英語で課題発表を行います。

3年次より専門的な科目が多くなります。「審美修復学実習」や「デジタル歯冠修復学実習」、「デジタルデンティストリー応用」、「インプラント歯科補綴学実習」では一人1台のCADソフトを用いてデジタル技術や審美歯科補綴の技術を学び、製作します。「顎顔面補綴学」では顎口腔、顔面の欠損に用いる装置の構造と製作法を学びます。「医療倫理」や「多職種連携Ⅱ」では医療従事者としての倫理や多職種でのアプローチについて考えます。「グローバル口腔保健工学実習」では英語のプレゼンテーションの作成や練習を行い、台湾での研修での発表や歯の彫刻コンペティション（カービングコンテスト）に参加し、国際交流を行います。台湾の大学病院歯科や歯科技工所見学も行い、日本の歯科医療を理解するとともに国際社会における歯科医療を知り、国際社会において貢献できる力を養います。後期から始まる「研究実習Ⅰ」では研究の基礎を学ぶとともに、自らが解決したい問題点を見つけ出し、研究計画を立案します。

4年次は今まで学んだことをもとに本学大学病院の患者さんの補綴装置を製作する「再建工学包括臨床実習」を行います。通常の補綴装置から顎補綴装置まで学ぶ機会があり、充実した体験ができます。「多職種連携Ⅲ」では全科専攻学生が参加し、多職種が集まり一人の患者さんの治療プランを考える実習を行います。「研究実習Ⅱ・Ⅲ」では教員の指導の下、研究成果を発表し、卒業論文にまとめます。



カリキュラム構成図

学年	1年生	2年生	3年生	4年生
カリキュラム内容	三大学科目・自学習等			
	教養教育			
	基盤教養 【全学共通科目】	【専門分野】		
				(臨床実習)
		【専門基礎分野】		
		【基礎分野】		
		【統合分野】(多職種連携、研究実習)		
	自由科目			

授業科目

全学共通科目

- 人文社会科学Ⅰ・Ⅱ
- 国際地域文化入門
- 人文科学・社会科学(選択)
- フィジカルウェルビーイング(選択)
- 外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語)(選択)
- 英語Ⅰ ■ 統計学 ■ 化学基礎
- 生物学基礎
- 科学基礎実験
- 教養基礎セミナー、セミナーⅠ・Ⅱ、自由セミナーⅠ
- 立志プロジェクト
- 情報科学
- 全学科共通自由科目

基礎分野

- 口腔保健と専門職
- 科学英語Ⅰ・Ⅱ ■ 英語Ⅱ
- ヘルスプロモーション

- メディア情報学基礎・応用
- コミュニケーション学
- 造形美術概論実習
- グローバル口腔保健工学
- グローバル口腔保健工学実習
- AI・データサイエンスのための数学
- 医療とAI・ビッグデータ入門・応用
- アカデミック・リテラシー

専門基礎分野

- 歯科技工士と法律
- 感染予防
- 口腔保健工学管理学
- 早期臨床体験実習
- 周術期手術支援工学
- う蝕と歯周病 ■ 高齢者歯科学
- 人体の構造と機能
- 歯の解剖学
- 口腔と全身の基礎医学
- 硬組織薬理学
- 画像解析学

- 歯の形態実習
- 臨床咬合学
- 口腔保健理工学・実習
- デジタルデンティストリー基礎・応用

専門分野

- 全部床義歯補綴学
- 全部床義歯実習
- デジタル全部床義歯実習
- 部分床義歯補綴学・実習
- デジタル金属床義歯実習
- 顎顔面補綴学
- 顎補綴学実習
- 顔面補綴学実習
- 臨床義歯管理工学
- スポーツ歯科学
- 顎関節症とオーラルアプライアンス
- 睡眠とオーラルアプライアンス
- 歯冠修復学・実習

- 審美修復学実習
- デジタル歯冠修復学実習
- デジタルデンティストリー実習
- インプラント歯科補綴学実習
- 矯正歯科学
- 小児歯科学・実習
- 再建工学包括臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 統合実習基礎・応用

統合分野

- 医療倫理
- 研究体験実習
- 研究実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 多職種連携Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 口腔保健工学エクスターナシップ
- 口腔保健工学企業研修

講義・実習風景

口腔保健理工学実習

口腔保健理工学実習では、歯科において用いられるさまざまな材料の歯科理工学的性質を理解し、それらの性質を測定し、適切に扱える力を身につけます。



歯の形態実習

歯の形態実習では、補綴装置製作の基本となる天然歯の概形を、歯のデッサンを行って歯の形態的特徴を理解し、ワックスで的確に彫刻再現できる技術力を養います。



全部床義歯・部分床義歯・臨床咬合学・顎補綴・顔面補綴学実習

歯科技工士として必要な補綴装置の製作技術と知識を修得します。全部床義歯実習では、すべての歯が欠損した患者に対して損なわれた形態と機能を回復するために用いる全部床義歯の製作を行います。部分床義歯補綴学実習では、部分床義歯の構成要素が備えるべき条件や使用する材料の性質を理解し、部分的に歯が欠損した患者に対するレジン床や金属床の部分床義歯の製作を行います。デジタル技術を用いた全部床義歯や金属床義歯の設計も行います。

また、咬合器やフェイスボウなどの使用についての知識を修得し、臨床咬合学では半調節性咬合器の模型装着実習を行います。顎補綴学実習では、外傷や先天性疾患、腫瘍などにより生じた欠損に対する顎補綴装置の製法と必要な知識を学び、上顎欠損に対する顎義歯の製作を行います。顔面補綴学実習では、顔面欠損に対する装置の構造と製法について学び、義眼と眼窩エピテーゼ、指エピテーゼの製作を行います。



在学生 MESSAGE

アットホームな雰囲気レベルの高い教育を

本専攻では、恵まれた環境と各分野のプロフェッショナルの先生方の指導により、ハイレベルで且つ幅広い知識を身に付けることができます。歯科技工士を養成する大学は日本でも数が非常に少なく、本専攻は非常に貴重な環境と言えます。人の手を中心となった従来の技工はもちろんです。3年生からはCAD/CAMや3Dプリンター等の最新技術を利用した実習を受けることができます。また、1年次では他学科との関わりが多く、チーム医

療についての見聞を広げることができます。さらに、毎年行われる海外の大学との交流プログラムや、3年次に行われる海外研修など、国際交流も盛んです。

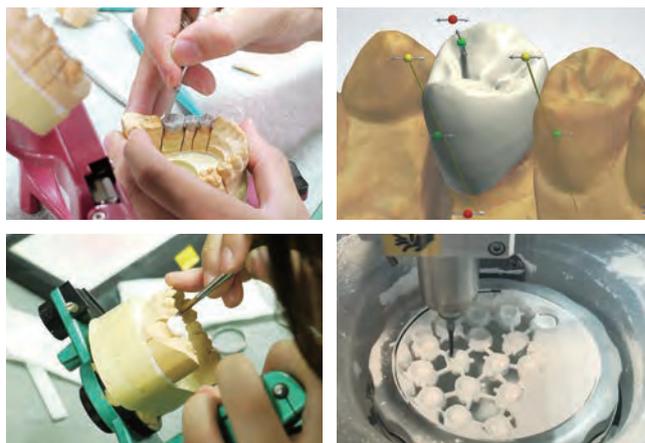
1学年10人程度と少なく、その分1人1人が先生の手厚いご指導を受けることができます。また少人数のため、先生方との距離が近く、学生同士も非常に仲がよく、アットホームな雰囲気も本専攻の特徴です。最高の友達と先生方に出会うことができます。



高橋 颯
歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻4年

歯冠修復学・審美修復学・デジタル歯冠修復学実習・デジタルデンティストリー実習

歯冠修復学実習では、インレーやクラウン、コア、ブリッジと呼ばれる金属製やプラスチック製の補綴装置の製作法と必要な知識を学びます。デジタル歯冠修復学実習では1人1台の歯科用CAD/CAMシステムを用いて補綴装置を設計し、CAMソフトを用いて削り出し加工を行い、装置を製作します。審美修復学実習では、天然の歯と同じような色を持つ材料を用いてセラミック冠などを製作し、陶材を用いて色の表現法などを学びます。デジタルデンティストリー実習では歯学科6年生に対して本専攻4年生がCAD/CAM冠の製作方法の実習を行います。その他にも光学スキャナーを用いた顔面スキャンや口腔内スキャナーを用いた模型のスキャン実習、放射線画像データの3D構築、CADソフトでデータを作成し3Dプリンターで造形する実習なども行います。



グローバル口腔保健工学・実習

日本の歯科医療や日本について、本学口腔保健工学専攻の紹介をテーマとし、3つのグループに分かれて内容を検討し、英語でプレゼンテーションを作成します。ネイティブ教員から英語でプレゼンテーションの構成や作成法、発音練習、発表の指導を受けます。台湾の台北医学大学に研修に行き、大学、附属病院、歯科技工所の見学、カービングコンテストの実施、両校の学生が準備してきたプレゼンテーションや質疑応答を英語で行います。研修の内容をまとめて3年生が2年生に対して発表し、2学年で双方のプレゼンテーション発表会を実施します。



国際交流

同じ4年制歯科技工士養成大学である台北医学大学と、3年次の10月にグローバル口腔保健工学実習の台湾研修で訪問して交流し、3月に台湾からの学生を受け入れて交流しています。英語でのプレゼンテーション、講義や演習を一緒に行い、カービングコンテストに参加して技を競い合います。日本の歯科医療を理解するとともに国際社会における歯科医療を知り、国際的な視野を広げるとともに、学習のモチベーション向上につながっています。



卒業生 MESSAGE

「歯科技工士」という資格を活かして、自分らしく働く

歯科技工所で働く歯科技工士になりたくて、東京医科歯科大学に入学しました。

口腔保健工学専攻では、歯科に関する講義や技工実習はもちろん、コンピュータデザインや3Dプリンターを用いた最先端のデジタル実習、顔面や手指など歯科を超えた領域の補綴装置製作や、歯科企業への訪問研修、台湾での海外研修など、自分が考えていた歯科技工を超えて幅広く学ぶことができました。その中で、歯科技工に携わるたくさんのお仕事を目にし、自分の将来についても様々な選択肢からより自分に合った働き方を選ぶことができ

ると気づきました。私は歯科技工士の道へは進まず、現在は歯科メーカーに勤務しています。歯科医師や歯科技工士のお客様と関わりながら日々学び、得た知識でお客様の力になれるこの仕事にやりがいを感じています。

歯科技工業界は現在、デジタル技術の進歩や歯科技工士の高齢化・人手不足などにより、日々状況が変わりゆく業界です。しかし、本専攻で学んだ幅広い知識と経験は、どの道に進んでも大きな財産となります。

「歯科技工士」という資格を活かして自分らしく働く、そんな将来を目指してみませんか。



竹内 七海
株式会社ジーシー
東京支店

歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻
2020年度卒業

医学 / 医療分野における グローバルリーダーを育成する

成熟した国家である日本が、主要先進国として、生命科学研究・国際保健 / 医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引していくため、その中心的役割を担い、グローバルな舞台上でリーダーとして活躍し、変革を生み出すことのできる人材を育成します。

(受講方法の多様化を図るため、一部または全部をオンラインにて行う場合があります。)



□ ゴール設定

Global Communication Workshop

グローバルなキャリア実現にむけてのゴールセッティング

新入生を対象として毎年春に開催している、国際保健問題事例を用いた英語模擬交渉ワークショップです。

本ワークショップを通じて、将来グローバルに活躍する際に求められる資質を認識し、将来を見据えたゴール設定を行っていただくのが最大の目的です。

各交渉テーブルを、協力くださる外国人大学院留学生も含めた数名が囲み、それぞれ異なる役割を担い、英語で交渉にあたります。

本ワークショップは自由参加ですが、本学が提供する海外留学およびHSLP応募の際には本ワークショップ参加歴が必須要件であり、毎年約150名、新入生の実に半数以上が参加しています。



□ キャリア形成支援

ロールモデル発見

ネットワーク形成

コミュニティ形成

“Find-Your-Role-Model” Sessions

目指す分野で活躍するロールモデルに出会うために

医学 / 医療の分野においてグローバルな舞台上で活躍する本学卒業生やリーダーの方々と、本学在学学生 / 教職員との交流イベントです。刺激を受け、実例からリーダーシップを学び、よきロールモデルを得て、今後のキャリア形成に活かしていただくことを目的としたセッションシリーズです。



Discussion Café

人種・文化・分野を超えた、幅広い視点とネットワークの獲得のために

本学および国内外の提携校などから、人種、文化的背景、学んでいる専門分野、将来目指すフィールドを異とする様々な学生が一同に介し、複雑な国際保健問題の解決に向けて英語で徹底的に議論する、そして彼らとの人種 / 文化 / 分野を超えた交流を通して将来のグローバルリーダーのネットワークを築く・・・Discussion Caféはそんな機会を提供します。





真のグローバルリーダー育成プログラム

Health Sciences Leadership Program (HSLP)

HSLPは、生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を牽引する人材の育成を目的とした、完全英語履修の複数年にわたるリーダー養成選抜プログラムであり、本学学士課程グローバル人材育成の旗艦的取組です。HSLPでは、高い志をもつメンバー（全学科対象、各学年20～30人程度）が切磋琢磨しながらともに学び、グローバルリーダーに必要とされるスキルの獲得/洗練と、学年/世代を超えたコミュニティの形成を図ります。

□ どんな人材の育成を目指すのか

生命科学研究に従事し世界最先端の研究を行うとともに、当該研究分野におけるリーダー/フロントランナーとしてその発展に貢献する人材

高い専門的背景を持った上で国際保健/医療政策決定機関に従事し、中心的役割を果たす人材

高い専門的背景を持った上で医療産業に従事し、同産業を世界規模で牽引する人材



□ グローバルリーダーに必要とされるスキルの獲得/洗練

- 医学知識および関連社会科学知識とその応用・統合力
- ソフトスキル
 - チームビルディングスキル
 - ソジカルシンキングスキル
- コミュニケーションスキル
- マネジメントスキル
- クリティカルシンキングスキル
- リーダーシップスキル
- クリエイティブシンキングスキル

□ 学年/世代を超えたコミュニティの形成

医学/医療分野のグローバルリーダーへの道のりは、とても長く、孤独で、明確な目標/ビジョンを常に見据えて、長期的視点から日々の研鑽を積む必要があります。HSLPでは、同級生や先輩/後輩、卒業生や在野のリーダー達、HSLP教員からなる、同じ目標に向かって頑張っている有志達によるコミュニティのメンバーとして、お互いに刺激し、支え合い、目標達成に向けて共に成長していきます。このコミュニティこそが、HSLPで学ぶ者にとっての大きな推進力であり、そして最大の財産なのです。

□ カリキュラム

HSLPでの学習は、第1学年後期から学士課程修了まで渡ります。規定された「修了までに獲得すべき資質」を、学習レベルに応じて段階的に獲得していくスパイラルカリキュラムとなっており、特に下級学年では、将来直面するであろう問題を想定したケースを用いてグループで主体的に問題解決にあたる「ケースメソッド」を用います。またその間、「修了までに獲得すべき資質」に含まれる一部のスキル（批判的思考力、デザイン思考スキルなど）についてのワークショップ形式の集中的学習機会も豊富に用意しています。また、HSLP修了のためには海外留学経験（研究実習、臨床実習、公衆衛生大学院など）が必須であり、上級学年では下級学年学生のグループ学習にチューターとして参加し、海外留学を経て得た広い視野と深い考察にもとづく助言などを通して、ロールモデルとして、下級学年学生を刺激し、議論を深めます。



□ HSLP履修生の声



本谷 嶺奈 医学部 医学科 6年

HSLPのようなプログラムは、実に唯一無二だと思います。医療系の専門学部に入部した場合、通常はその後、医療系以外の分野について熟考したり、議論し学ぶことができる環境は大変限られます。しかし、HSLPでは医療をゴールとするのではなく、医療を一つのツールとして用いてあらゆる分野でグローバルに活躍できる学生を育成することを目標にしています。始めのうちは、多方面で活躍するメンバーに圧倒されるかもしれませんが、3年間の必須カリキュラムやメンバーとのディスカッションなどを通じて、自分もより多角的・客観的に、医療のみならず政治・経済などの事例についても吟味できるようになります。また、このプログラムを通じて私はかけがえのない友人にも恵まれました。HSLPは、私が本学に入学してよかったと心から思う主な理由の1つです。



飯田 さくら 歯学部 歯学科 6年

HSLPにはグローバルな視点を持った仲間たちと切磋琢磨することのできる、素晴らしい環境が整えられています。3年次まで毎週行われる授業では、学科を越えて国際医療に関するトピックを議論することを通して批判的思考力などのスキルを磨くことができます。それ以外にも学科、学年を越えた交流の機会が沢山設けられています。そこでHSLPに所属している先輩や同期、後輩がグローバル人材となるためにどのような努力をしているのかを知ることができ、自分自身のキャリアを考えていく上で良い刺激となっています。

学部学生海外研修奨励賞

学部学生に対して海外研修の機会を提供し、豊かな感性と国際性を持つ人材の育成に役立てるため設けられた制度で、対象となるのは海外研修への意欲に満ち、心身ともに健全で、学業優秀と認められる学部学生。世界の大学や医療機関で貴重な経験を積み、様々な発見をし、大きく成長しています。



海外で活躍する卒業生



脇本 浩明
マサチューセッツ総合病院
ハーバード医学校脳神経外科
医学部 医学科
1988年度卒業

私は本学脳神経外科教室で脳腫瘍臨床に従事した後、米国ハーバード医学校の基幹附属病院であるマサチューセッツ総合病院に異動しました。現在は同院脳神経外科学講座内に研究室を持ち、難治性悪性脳腫瘍に対する新規治療法を開発すべく、基礎的及びトランスレーショナルな医学研究を日々推進しています。

本学脳神経外科学教室をはじめ日本国内外からポスドクトラル研究員を採用しています。妻の博子は医科歯科の同期で、本学にて小児循環器医として勤務した後、現在はハーバード医学校遺伝学教室で心臓疾患の研究をしています。また、ハーバードの女性医

師研究者支援委員会の一員として活動中です。

ハーバード関連病院における臨床実習に参加する医学科6年生とは、毎年、ボストン在住の医科歯科大学関係者及び当地で活躍中の医師、歯科医師、研究者との交流会を催しています。

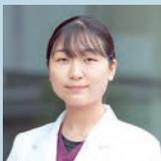


▶留学先

 オーストラリア国立大学
(オーストラリア)

▶氏名・所属

鈴木 爽子 医学部 医学科 5年



オーストラリア国立大学での 研究留学を終えて

私は4年次の5か月間、オーストラリア国立大学にあるThe John Curtin School of Medical Research (JCSMR)という研究所に留学いたしました。現地ではショウジョウバエを用いた遺伝子の研究に参加し、研究デザインや実験手技、解析方法について学んで参りました。JCSMRでは研究グループ間の交流を推進しており、ランチセミナーやソーシャルイベントを通じて他のグループの人と研究について話す機会が多くありました。多様なバックグラウンドの学生たちと話すことで、日本と海外の研究環境の違いについても理解を深めることができました。私が参加していたグループは日本人の先生がリーダーを務めており、その活躍を間近で見られたことも自分自身のキャリアを考えるうえで大変参考になりました。研究活動以外にも、ピクニックやBBQをしてグループ内で親交を深めたことも思い出深いです。このような素晴らしい機会を与えてくださった本学、ならびにご支援くださいましたすべての方々には心より感謝申し上げます。



▶留学先

 ネバダ大学
(アメリカ)

▶氏名・所属

水野 由麻 医学部 医学科 5年



新たな経験の連続 ～ UNRでの研究留学を終えて～

私は4年次のプロジェクトセメスターで、University of Nevada, Renoに5か月間研究留学させていただきました。現地の研究室では、自主的に動くということが何より重視されたため、プロトコルを作るところから自ら考え試行錯誤を繰り返す、大変密度の濃い時間を過ごすことができました。今後のキャリアで研究を続けていく土台となるような学びが得られたと感じています。研究以外にも、現地の病院での医学生に与えられた裁量の大きさ、医学生の意欲の高さに感銘を受けたり、文化(とくに宗教的な背景)の異なる人たちの医学に対する考え方の違いに触れたり、日本にいて「当たり前」と思っていたことを考え直すきっかけとなるような経験がたくさんありました。自分の中で最も大きな変化は、こうした新たな経験をたくさんしたこと、「何か新しいことに挑戦する」こと自体へのハードルが下がり、「とりあえず一歩踏み出してみよう」というマインドを得られたことです。このような素晴らしい機会を与えて下さった本学と支えて下さった方々に深く感謝申し上げます。



▶留学先



セイナヨキ応用科学大学
(フィンランド)

▶氏名・所属

若林 南奈

医学部 保健衛生学科 看護学専攻 2020年度卒業



他者の理解と自分の理解を 繋げる時間を過ごした

私は2年次の2月に、フィンランドのセイナヨキ応用科学大学での14日間の研修に参加させていただきました。大学の講義や施設訪問、案内して下さった様々な方からのお話を通して、保健医療システムを大きな枠組みでとらえつつ、現場でどのように活かされているのか理解しながら実感を得ることができました。また、各場面で日本についても考え、知り、伝える機会があり、自分の背景やこれからの課題を見つめ直す密度の濃い時間を過ごせました。

研修で学んだ知識はもちろん、考えたことやその経験自体が今後の勉強を支えてくれると感じています。素敵な経験を与えてくださった本学並びに、支えてくださった全ての方々へ感謝しております。



▶留学先



ワシントン大学
(アメリカ)

▶氏名・所属

坂野 千紗都

医学部 保健衛生学科 検査技術学専攻 2023年度卒業



高いモチベーションと行動力で 将来を切り拓く

私は3年次終わりの春に、ワシントン大学で看護学生向けの研修プログラムに参加させていただきました。自分の専攻とは異なる視点から医療を見ることは新鮮であり、多くの学びがありました。研究室や医学生向けの実習室、図書館などを見学したり、一部の講義を現地の学生と一緒に受講したりしました。また、教育を受けることのみで満足せず、自ら課題設定をし慈善団体の立ち上げを行うなど、学びを積極的にアウトプットする姿を目の当たりにしました。この経験を通して、モチベーションを高く持ち、世間の変化に敏感になることで自分の活躍の可能性を無限大に広げられることを実感し、どのような場面でも主体的に行動するマインドを得られました。このような貴重なプログラムを提供して下さった先生方やご支援いただいた方々に心より感謝申し上げます。



▶留学先



トロント大学
(カナダ)

▶氏名・所属

大井 拓摩

歯学部 歯学科 5年



単身トロント大学留学での 挑戦と成長を経て

当大学では、画期的な奨学金制度である「海外研修奨励賞」が設けられています。私もその恩恵を受け、4年次の3ヶ月間をカナダのトロント大学分子生物学教室で過ごしました。この留学期間中、私は歯予防のためのプロバイオティクスに関する研究に携わりました。研究室では、2週間に一度の研究経過報告会で英語を使った発表を行いました。教授からの質問には明確に答える必要があり、その経験は貴重なものでした。

また、休日にはトロント大学歯学部の学生や滞在先の寮の学生と交流を深めました。トロント大学は留学生が多く、様々な国籍の人々と友人になることができました。

このように海外で研究生活をすると、家探し、奨学金応募、研究、交流など何をするにも主体的に行動しなければなりません。これは自分を顧みるいい機会となります。そんな中この奨励賞は生活をサポートしてくれます。海外での挑戦に興味をお持ちの新入生は、ぜひこの奨励賞に応募してみてください。



▶留学先



ミシガン大学
(アメリカ)

▶氏名・所属

澤田 優紀

東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科口腔疾患予防学分野 修士2年
歯学部 口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻 2022年度卒業



日本とは全く異なる世界で 歯学と文化を学ぶ

世界との交流が格段に減ってしまい、生活様式も変わったコロナ禍を経て、日本で実習や国家試験を終えてからアメリカに23日間研修に行きました。生徒・教員・研究員など、多くの新しい出会いがあり、毎日が新鮮で驚きの連続でした。診療の流れやユニットの構造・口腔清掃用具、学生の意識や生活スタイル、食文化から宗教まで、見ることや体験することほとんど全てが日本とは異なっていました。

ミシガン大学の歯学部の実習や講義、ボランティア活動に参加し、歯科医や歯科衛生士になる現地の学生達と沢山会話をすることにより、アメリカの歯学部学生の生の声を聞くことができ、英語の勉強にもなりました。コロナの影響もあり日本に行ったことのない人が多く、沢山の人が興味をもっていたので、日本について再確認することもできました。4年間本学で学んだことを頭に入れた上で、ミシガン大学で感じた違いや地球の反対側で同じように歯学を一生懸命勉強している生徒の姿をみて、卒後の将来像やモチベーションの向上につなげようと思います。



▶留学先

 ヨーテボリ大学
(スウェーデン)

▶氏名・所属

中島 春香
東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科口腔基礎工学分野 修士1年
歯学部 口腔保健学科 口腔保健工学専攻 2023年度卒業



スウェーデンで見つけた
歯科技工士の新たな可能性

私は4年次にスウェーデンのヨーテボリ大学へ留学しました。大学では義歯製作における従来法とデジタル技術を用いての方法を比較した実習に参加しました。デジタル化が進む歯科医療では歯科技工士の活躍の場は広く、これから歯科技工士として社会に貢献できる未来の選択肢はたくさんあり、患者さんだけでなく、多様な人々と関われることに気付きました。また、企業や大学病院を訪問し、今後の歯科業界において歯科技工士がどのような役割を果たしていくべきか深く考える時間となりました。講義や実習、現地の学生との触れ合いを通して歯科医療の進展に大きく貢献したいという思いを強く抱くことができ、自分の新たな可能性に目を向けるきっかけも得ることができました。

海外研修で学んだことを活かしてさらに勉学に励みたいと思います。このような大変貴重な機会を与えてくださった本学ならびに支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。



短期海外研修

▶留学先

 ワシントン大学
(アメリカ)

▶氏名・所属

市野 利奈
医学部 保健衛生学科 看護学専攻 4年



これからやるべきこと、自分のキャリアについて深く考えた14日間

2年次の春休みを使って、14日間のワシントン大学研修に参加させて頂いた。ワシントン大学では、現地学生の参加する授業に参加したり、多様なバックグラウンドを持つ看護職者からキャリアや米看護師の役割、医療制度など多くのお話を頂いた。また、ワシントン大学系列の病院内の見学や、看護学部の演習室の見学など、大学を通じた研修だからこそ訪問できる施設が多かった。例年訪問している老健施設はもちろん、Pearl Seattleなどの精神看護に通ずる施設にも訪問することができ、あまり日本では知られていないような問題についてもコアな部分まで考えを深めることができた。研修の中では、授業後に観光地に行ったり買い物をしたり、ホテルステイだったからこそできた他日本人学生との夜のディープディスカッションも思い出の一つである。同行した日本人学生も含め、何歳になっても学びを止めない向上心に満ち溢れた現地の学生、今回お話を聞けた米で働く日本人看護師の皆さんから、自分の学びたい・成りたいと思えるものを見つけそのために多大な努力を惜しまないこと、最初からあきらめないことが重要だと学んだ。今回研修の準備に関わってくれた皆さん、出会い多くの学びを与えてくれた人々にこの場を借りて感謝申し上げます。



□ 2023年度 海外派遣実績数

学部・学科・専攻	総人数	学年別						国別	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
医学部	医学科	95	0	1	3	18	6	67	アメリカ 17、オーストラリア 8、イギリス 6、カナダ 1、ガーナ 2、タイ 33、台湾 22、韓国 3、カンボジア 1、タンザニア 1、ラオス 1
	保健衛生学科 看護学専攻	19	1	2	12	4	-	-	アメリカ 9、フィンランド 9、フィリピン 1
	保健衛生学科 検査技術学専攻	12	0	2	6	4	-	-	アメリカ 2、タイ 4、台湾 6
歯学部	歯学科	36	0	1	5	14	8	8	アメリカ 2、イギリス 5、カナダ 1、スウェーデン 2、タイ 9、インドネシア 8、ベトナム 6、台湾 3
	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	6	0	1	3	2	-	-	アメリカ 2、オーストラリア 1、台湾 3
	口腔保健学科 口腔保健工学専攻	17	0	0	16	1	-	-	台湾 15、イギリス 1、スウェーデン 1

CIRCLE ACTIVITIES

サークル活動

17の文化系サークルと26の体育系サークルに加え、8つの同好会があり、国府台地区、湯島地区にある各施設や学外のフィールドで活発に活動を展開。学部・学科を越えた友情の輪を広げる場にもなっています。

文化系

- English Speaking Society (E.S.S)
- お茶の水管弦楽団 (オーケストラ部)
- 混声合唱団 (コーラス部)
- Modern Jazz Diggers (M.J.D)
- コンピューター部
- SSIA (Students' Society of International Activity)
- Tokyo Medical & Dental Piano Club (ピアノの会)
- TMDU Emergency Medicine Study Sessions organized by students (TESSO)
- 医療ビジネス研究会 (TMDU Strategy Institute)
- iPag (医科歯科プライマリケア研究会)
- アカペラ部 tic tac ♪
- ジャズ研究会 ● 美術部
- 写真部 ● 茶道部
- 棋道部 ● 天文部



ジャズ研究会

同好会

- アジア系文化研究会 ● 数理生物学同好会 ● 競技歌留多同好会 ● 池坊華道部
- スイーツ研究会 ● MISH ● フィギュアスケート同好会 ● CCC (Child Care Circle)

池坊華道部



都心でいけばな、癒しのひととき

私たちは湯島キャンパスに程近い、池坊東京会館で月1-2回のお稽古を実施しています。指導して下さるのは教養部の先生で、先生のご尽力のもと医科歯科にはじめて華道部なるものが誕生しようとしています(現時点では同好会扱いです)。入学式や卒業式で講堂の前に飾らせていただきました。医科歯科では1年生の後期になると専門科目が始まりますが、講義、課題、実習、試験と目まぐるしい日々の中でお花は癒しを提供してくれますし、部員と定期的に顔を合わせて近況報告する時間は何よりも尊いものと感じます。都会の中心で、ほっと息を付ける場所を見つけませんか？



古野 満理佳
歯学部 歯学科 3年

体育系

- 漕艇部
- 剣道部
- 弓道部
- 硬式庭球部
- ソフトテニス部
- 硬式野球部
- 卓球部
- ラグビー部
- ハンドボール部
- ゴルフ部
- 陸上競技部
- ヨット部
- 水泳部
- スキー部
- ダンス部
- サッカー部
- フットサル部
- スキューバダイビング部
- アメリカンフットボール部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- ワンダーフォーゲル部
- バドミントン部



ワンダーフォーゲル部

ハンドボール部



高く翔び、激しく燃える

今年で創部50周年を迎える東京医科歯科大学ハンドボール部には、プレイヤー・マネージャーを含め男女合わせて30名以上の部員が所属しています。そのうち半数以上が大学からハンドボールを始めた初心者ですが、大会での優勝を目指して日々練習に励んでいます。ハンドボールは「空中の格闘技」とも称されるほど激しい競技であると同時に、戦略や連携が求められます。1年生から6年生までが意見を出し合い、チームとして成長し、勝利を目指すことは、チームスポーツならではの魅力です。我々と共にハンドボール部で青春を謳歌しませんか？新たな挑戦と友情が、あなたを待っています！

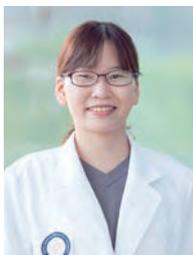


島田 康介
医学部 医学科 4年

STUDENT LIFE

学生のある一日

STUDENT VOICE 01



金知潤
医学部 医学科 6年

5年生から始まった臨床実習では、病棟で入院患者の診察や検査を指導医の先生と行う病棟実習、手術の見学や補助、手技の練習、カンファレンスでの発表などを主に行なっています。先生方はお忙しい中、非常に手厚い指導をしてくださり、4年生までの講義で学習した内容を実践する機会を日々与えられ、より深い理解へと繋がっています。また、実習の中では初期研修医から教授に至るまであらゆるライフステージの方から話を伺うことができ、自分の将来のキャリアプランを気軽に相談することができる環境となっています。臨床医や研究医以外にも起業や国際機関での勤務などさまざまな道が開かれていることを直接先生方から教えていただき、自分も将来について真剣に考えるきっかけとなりました。

医学生という実習や勉強で忙しく、自由時間がないのではと想像するかもしれませんが、実際には診療科によっては実習が半日で終わったり、1日の中で隙間時間があったりと意外と余裕があるものです。各々有意義に時間を使って大学生活を謳歌しています。

ONE DAY SCHEDULE

6:30	起床・朝食・準備
7:30	登校
8:30	実習
12:00	昼食
13:00	実習
16:30	移動・軽食・課題
17:20	アルバイト
21:00	移動
22:00	夕食・勉強・趣味など
0:30	就寝

STUDENT VOICE 02



醍醐 葵
医学部 保健衛生学科
看護学専攻 4年

看護に「実習に追われる日々」というイメージを持つ方も多いのではないのでしょうか？本学では3年後期に領域別臨地実習があります。たしかに、記録物完成のために眠れぬ夜を過ごすこともあります。頼れる学友や先生方・指導者さん、記録や日程が配慮されており、記録に追われるだけでなく、受け持ち患者さんの看護を深く考え、アルバイトや部活動と両立しつつ自分の生活・心身の健康も整えて実習に向かうことができました。今では、実習はこれまでの講義や演習の成果を発揮し、学内とは一味違う看護の魅力を実感できる機会だと言えます。

また本学は、臨床看護師のみならず、研究や行政など幅広いキャリアを見据える機会にも恵まれています。先生方のキャリアや、海外研修、面白い学友との関わりを通して、新たな関心が芽生えました。

4年次からは看護師/保健師コースに分かれ、専門的な実習や、卒業論文、国家試験への準備も始まります。最終学年も充実し、実りある1年になりそうです。

ONE DAY SCHEDULE

6:30	起床・朝食・準備
8:00	登校
8:50	1限「国際保健看護学」
10:30	2限「国際保健看護学」
10:45	昼食
12:25	3限「緩和ケア看護学」
13:30	4限「緩和ケア看護学」
15:10	課題（学内）
15:25	課題（学内）
17:05	課題（学内）
19:00	帰宅・家事
20:00	勉強・自由時間（夕食・入浴）
0:00	就寝

STUDENT VOICE 03



東條 真琴
医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻 4年

検査技術学専攻では、2年生から専門的な勉強が始まります。3年生からは、講義だけでなく実習も増え、後期では、病院での臨地実習があります。臨地実習では、実際の現場で今までの学びがどのように生かされているのか、臨床検査技師の仕事を理解することができます。4年生では各研究室に配属になり、卒業研究を本格的に行います。同時に、就職活動や大学院入試対策も行います。そして国家試験に向けた勉強もあります。

検査技術学専攻では生化学、血液検査学、病理学、微生物学など幅広い専門分野を学習します。少人数であるため、友人との仲が深まるだけでなく、先生方からの丁寧な指導を受けることができます。学会に参加する機会、多種多様なバックグラウンドの研究室において、研究を行えるなど、挑戦することを応援してくれるような環境です。実習、研究、課題、試験勉強は大変な時もありますが、切磋琢磨できる友人とともに充実した学校生活を送れると思います。

ONE DAY SCHEDULE

7:30	起床・準備・登校
9:30	講義/卒業研究
18:30	帰宅
19:30	夕食
20:00	自由時間（勉強、課題、趣味など）
0:00	就寝

大学生活と一口でいっても、大学や学部、学科によって様々です。そこで、本学で充実したキャンパスライフを送っている学生さんたちに協力してもらい、ある一日をリサーチしてみました。どんな学生生活を送っているのか、少しだけのぞいてみましょう。

STUDENT VOICE 04



山下 真澄
歯学部 歯学科 6年

歯学科では、5年生の後期から6年生の秋まで包括臨床実習があり、第一総合診療室で実際に患者さんを受け持ちます。各専門診療科の先生のご指導の下、治療計画から日々の診療、予約管理に至るまで包括的に行います。様々な症例を通して、教科書では学べない知識や技術、患者さんとの接し方などを学び、歯科医師になる自覚と責任を持ちながら日々研鑽に励んでいます。また、この実習では多くの先生方、患者さんにご協力いただいております、貴重な機会をいただけることに感謝しています。

診療後は技工室にて技工物の製作、治療のためのレポート作成に取り組みます。実習を通して一段と仲が深まった同級生と談笑し、時には助け合い、励まし合いながら切磋琢磨しています。

放課後や休日には、部活やアルバイト、習い事など、忙しい学業の中でも楽しく充実した学生生活を送っています。

ONE DAY SCHEDULE

7:30	
8:30	起床・準備・登校
9:00	診療準備
	包括臨床実習 (第一総合診療室での診療)
12:00	昼食
13:00	包括臨床実習 (各科実習：外来見学・診療補助)
16:00	技工物製作、レポート作成
17:00	下校
18:00	自由時間 (アルバイト、料理教室、勉強、友人との交流など)
00:00	就寝

STUDENT VOICE 05



廣住 来実
歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻 3年

2年次からは、オンライン授業や実習を通して専門分野の学習に取り組めます。講義はzoom授業やオンデマンド授業が主軸となっています。また、3年次前期にかけては週に2~3回実習があり、マネキンを使った練習で基礎を身に着け、学生同士が患者役・術者役となって行う相互実習を通して実践的な技術を培います。その他にも幼稚園や小学校での歯磨き指導、高齢者施設や企業での実習などを行う機会も設けられており、社会における歯科衛生士の役割を知ったり将来の選択肢を広げたりすることができます。さらに、私は2年次3月に台湾研修プログラムに参加し、グローバルな視点で歯科を学ぶ機会を得ることもできました。そして、3年次後期から大学病院等で実際の患者さんを担当する臨床実習が始まります。

授業以外の時間はアルバイトや部活動をしている人がほとんどです。忙しい日々ですが、学科の人数が少人数ということもあり学生同士の仲が良く、互いに励まし合いながら充実した毎日を送っています。

ONE DAY SCHEDULE

7:00	起床・準備・移動
8:50	対面授業あるいはzoom授業
12:25	昼休み
13:30	口腔疾患予防学実習
18:00	移動・アルバイト・部活動・自由時間
0:30	就寝

STUDENT VOICE 06



植竹 里佳
歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻 4年

2年次からは専門教育が始まります。様々な補綴装置の製作方法や歯科材料など、歯科技工士として働くにあたって必要な知識や技術を身につけます。また全身疾患や感染予防、解剖学など医療従事者として必要な知識も学ぶことができます。歯科技工士だけではなく様々な分野に触れる機会があるため卒業後の活動の幅が広がります。これらはそれぞれ専門の先生方が、高度な授業を展開してくださるので深い知識を得ることができます。さらに実習では、専攻が少人数ということもあり、一人一人丁寧且つ質の高い指導が受けられます。他にも、英語教育や情報教育にも力を入れたカリキュラムになっているので、これからの社会を見据えた学習をすることができます。

授業後はアルバイトや部活動をしている人がほとんどです。また少人数ということで学生同士の仲が良く、授業の時は互いに協力し合い、休日には全員で遊ぶこともあります。恵まれた環境の中で、学業だけでなく学生生活も充実させることができます。

ONE DAY SCHEDULE

7:00	起床、準備
9:30	登校
10:45	3~4限 歯科技工士と法律
12:30	昼食
13:30	5~8限 卒業研究
17:05	帰宅、アルバイト
0:00	就寝

FACILITIES

施設紹介

図書館

■ 御茶ノ水図書館

御茶ノ水図書館は、M&Dタワーの3階と4階に位置し、医歯学系の専門図書約17万冊の蔵書を有しています。その中には貴重書として、杉田玄白の「解体新書」の初版本、その元になった「ターヘル・アナトミア」、「ファブリカ」(人体構造論)*の初版本などもあります。吹き抜けになっている3階閲覧室には長机とキャレル席を、4階にはBOX席を配し、座席数は181席、学生が自由に使える備え付けのノートPC、持ち込んだPCを接続できる無線LAN、コピー機2台が設置され、レポートの作成やe-learningなど自主的な学習を進められる環境があります。自動貸出機や自動書庫などの設備も整えています。図書だけではなく、医歯学分野の学習・研究には欠かせない電子ジャーナル、データベース、医歯学系以外にも統計、論文の書き方に関する資料については電子書籍で提供しています。これらは、学内ネットワークを使って、教室や演習室からも利用できます。また、三大学連合、明治大学、文京医大図書館コンソーシアムと相互利用の協定を結んでいます。本学の学生は、書籍の閲覧等のサービスを受けることができます。

図書館HP: https://www.01s.ufinity.jp/tmdu_lib/
利用時間: 平日 8:30 ~ 22:00、
土・日・祝日 10:00 ~ 18:30
休館日: 年末年始(12/29~1/3)



閲覧室全景



閲覧コーナー



「ファブリカ」

*ファブリカ(人体構造論):
アンドレアス・ヴェサリウスの著した解剖学書で、1543年に刊行された。近代医学の出発点をなしたと言われ、300点以上の挿絵があり、写実的な解剖図が特徴である。



「解体新書」

■ 国府台図書館

国府台図書館は国府台地区内にあり、教養教育の充実のため、幅広い分野の蔵書と、修学を支援する様々な設備があります。

■ 対話可能な活発空間の設置

医療人として必要不可欠な対話力・表現力を養うためにラーニングcommonsおよびPCを用いた共同学習向けスペースであるコラボレーションエリアがあります。

■ PC環境の充実

PCロッカーを設置し、アクティブラーニングに必要な不可欠なPCを簡単に借りることができます。ロッカーには常時タブレットPC等が用意されており利用者は図書館内であればどこでも移動して検索・調査を行うことができます。

■ セミナールームの設置

少人数授業向けのセミナールームを2階に3室、1階にプレゼン向けの部屋を1室設置しています。教養総合講座等の少人数教育において広く活用されています。

■ 静謐な空間の提供

活発な空間とともに利用者のニーズが高い静謐な自習スペースも提供しています。活発空間との間に特殊な消音ガラスを用いることで両スペースの共存を図っています。



集密書架



セミナールーム

保健管理センター

定期健康診断

湯島地区では全学生に対し、毎年5月に「学生一般定期健康診断」を実施しています。自身の健康管理のみでなく、進学や就職等の証明に必要になります。

感染予防（抗体検査・予防接種）

医学部・歯学部では、感染予防のために下記の抗体検査・予防接種を実施しています。

抗体検査

麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘抗体検査
B型肝炎抗原抗体検査・Tスポット®・TB検査

予防接種

- MRワクチン（麻疹・風疹混合ワクチン）
- おたふくかぜワクチン（流行性耳下腺炎）
- 水痘ワクチン
- B型肝炎ワクチン
- インフルエンザワクチン（任意）

健康相談

体調不良になった場合は、当センターの医師による健康相談が受けられます。必要に応じて専門医への紹介も行っています。また、軽い怪我の処置も行います。休養が必要な方のためにはベッドも用意しています。心身の不安、人間関係、勉学上の悩みなど、様々な相談にはメンタル専門医が応じています。

健康診断証明書の発行

学生一般定期健康診断をもとに留学、進学、就職のための健康診断証明書の発行を行っています。



国府台地区保健管理センター



湯島地区保健管理センター

学生・女性支援センター

充実したキャンパスライフを送るためのトータルケア

本学の学生に対して、キャンパスライフ全般にわたり、学生支援活動の充実を図ること、男女共同参画・ダイバーシティ推進を行うことを目的としています。相談・カウンセリングも実施しています。

センターの業務

- 学生支援 ● 修学支援 ● 就職支援 ● メンタルヘルスに関する支援 ● ハラスメントに関する支援
- セクシャルマイノリティの学生に対する支援 ● キャリア形成の支援 ● ワーク・ライフ・バランス（育児や介護と学業との両立問題など）の支援
- ダイバーシティ・インクルージョンの推進 ● 保育支援 ● 障害のある学生に対する支援

センターの職員 センター長、教員、臨床心理士、事務職員（学生支援事務室）



鍵付き完全個室のベビーケアルーム
（授乳室）mamaro（5号館3階）



SUPPORT SYSTEM

学生支援制度

学生寮

千葉県市川市の国府台地区には、主に遠方から本学に入学される方のために、大学敷地内に学生寄宿舍（男子寮収容定員70名）及び国際学生宿舎（女子寮収容人員50名）を備えています。詳細は以下のとおりです。

	里見寮（男子寮）	国際学生宿舎（女子寮）
募集人員	25名程度（例年実績）	30名程度（例年実績）
設置	1963年（2010年3月全面改修）	1994年6月
設備	鉄筋コンクリート4階建（個室約6畳）	鉄筋コンクリート4階建（個室約6畳）
入居時期	4月1日以降	4月1日以降
入居期間	原則2年以内	原則1年以内
寄宿料	月額 17,800円（光熱水費は別途実費）	月額 5,900円（水道費は別途実費）
その他費用	共通施設光熱水費の実費、 ルームクリーニング代（初回引落時 34,650円） その他消耗品、自治会費	共通施設光熱水費の実費、 ルームクリーニング代（初回引落時 34,650円） その他消耗品、居室の電気・ガス代は各自で業者と契約
居室	ユニットバストイレ、キッチン（IH）、 冷蔵庫（冷凍室有）、エアコン、机付ベッド、椅子、 クローゼット、下駄箱、LANシステム（無料）	ユニットバストイレ、キッチン（ガス）、冷蔵庫（ホテルサイズ）、 エアコン、机、椅子、ベッド、マットレス、クローゼット、 下駄箱、LANシステム（有料）
共同施設	談話室、ランドリー室、共同浴場	多目的室（テレビ付）、共同キッチン、コインランドリー（有料）
選考について	必要書類を期限までに提出	必要書類を期限までに提出



男子寮入口



女子寮ロビー



女子寮入口

経済支援制度

■ 修学支援新制度による入学料免除・授業料免除

日本学生支援機構により、入学料・授業料減免（第一～第四区分）と給付型奨学金（生活費）を併せた手厚い支援が行われるのが本制度の特徴です。修学支援新制度による入学料・授業料免除を希望する学生は、日本学生支援機構 JASSO の給付型奨学金を申し込む必要があります。本制度の対象外である学生（国籍・在留資格に関する要件、または大学等に進学するまでの期間に関する要件を満たさない者）は、大学独自の入学料・授業料免除を申請することができます。

※家計の経済状況に関する要件や学業成績・学修意欲に関する要件が理由で、本制度の対象外の学生は、大学独自の入学料・授業料免除制度には申請できませんので、ご注意ください。

上記以外にも、入学料、授業料徴収猶予制度や地方公共団体、民間団体等の奨学制度もあります。

■ 大学独自の入学料・授業料免除

経済的理由や入学前1年以内の学費負担者の死亡または風水害の被害により、入学料・授業料の納入が困難である場合、学長が相当と認める場合には、選考の上、入学料・授業料が免除されることがあります。

■ 日本学生支援機構奨学金

人物・学業ともに優秀かつ健康で、学資の支弁が困難であると認められた者に対して、奨学金の給付あるいは、第一種奨学金（無利子）または第二種奨学金（有利子）の学資が貸与されます。

受験、入学から卒業までに必要な経費

本学を受験、入学、卒業するまでの経費を概算で示しています。

A 入学前に必要な経費 (2024年度入学者実績)	項目	医学	看護	検査	歯学	衛生	工学
	検定料	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000
入学料	282,000	282,000	282,000	282,000	282,000	282,000	282,000
血液検査	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
TOEFL / ITP 受験料	4,040	11,720	11,720	7,880	11,720	11,720	11,720
実験器具（ピペット）購入費用			28,380				
包括臨床実験・総合学習関連費用					10,000		
学生教育研究災害傷害保険料	4,800	3,370	3,370	4,800	3,370	3,370	3,370
医学生教育研究賠償責任保険料		2,000	2,000	3,000	2,000	2,000	2,000
自治会納付金	6,000	4,000	4,000	6,000	4,000	4,000	4,000
学友会 納付金	入会金	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	会費	30,600	20,400	20,400	30,600	20,400	20,400
	体育祭費	4,200	2,800	2,800	4,200	2,800	2,800
	文化祭費	9,000	6,000	6,000	9,000	6,000	6,000
同窓会費	50,000	45,000	40,000	50,000	13,000	21,000	
合計	415,640	402,290	425,670	432,480	370,290	378,290	

B 入学後、各学年において必要な経費 (合計金額のみ表示しています。目安としてご参照ください。)	学年	医学	看護	検査	歯学	衛生	工学
	1	924,960	968,260	903,260	911,960	900,960	883,960
	2	835,960	691,260	696,161	805,960	772,465	933,690
	3	752,960	663,960	676,840	818,960	684,560	675,560
	4	778,960	677,960	677,560	1,112,960	740,960	694,960
	5	737,960			782,960		
	6	793,260			736,860		
	合計	4,824,060	3,001,440	2,953,821	5,169,660	3,098,945	3,188,170

総計 (A+B)	医学	看護	検査	歯学	衛生	工学
	5,239,700	3,403,730	3,379,491	5,602,140	3,469,235	3,566,460

※金額には授業料年額（642,960円）、教科書代等を含む。また、1年次はパソコン代（184,000円、2023年実績）を含む。

進路・就職

卒業後の進路（2023年度卒業生）

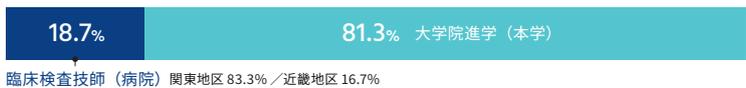
医学科



保健衛生学科 / 看護学専攻



保健衛生学科 / 検査技術学専攻



歯学科



口腔保健学科 / 口腔保健衛生学専攻



口腔保健学科 / 口腔保健工学専攻



※ 小数第2位以下四捨五入のため合計が100%にならないことがあります。

卒業時に取得できる学位・資格

■ 医学科

学位：学士（医学）
資格：医師国家試験受験資格

■ 保健衛生学科 / 看護学専攻

学位：学士（看護学）
資格：看護師国家試験受験資格
保健師国家試験受験資格（選択制）
保健師免許取得者：養護教諭普通免許（二種）

■ 保健衛生学科 / 検査技術学専攻

学位：学士（保健学）
資格：臨床検査技師国家試験受験資格

■ 歯学科

学位：学士（歯学）
資格：歯科医師国家試験受験資格

■ 口腔保健学科 / 口腔保健衛生学専攻

学位：学士（口腔保健学）
資格：歯科衛生士国家試験受験資格

■ 口腔保健学科 / 口腔保健工学専攻

学位：学士（口腔保健学）
資格：歯科技工士国家試験受験資格

卒業生アンケート

東京医科歯科大を卒業して良かったと思う理由（抜粋）

医学部

■ 医学科

● 臨床、教育、研究の全てがハイレベルである。● 優秀な同期の仲間が何よりの財産だと思います。● 学部教育や留学経験は他大学と比較して充実しており、それが臨床にかなりいかせていると思う。● 人脈が豊富で、尊敬できる先輩方に恵まれました。● 医科歯科大学医局と関連病院で教育研修したおかげで今日の自分がある。● 開院の時、病院への患者紹介、同窓会など、横の連携がうまくいった。

■ 保健衛生学科看護学専攻

● 現在も研究活動を共にしている恩師に出会えたから。● 看護師の資格だけでなく他でも取ることが可能だが、幅広い医療を学べたと思う。看護技術は就職してからでも良いが、「考え方」は在学中に、学んだものが大きい。● 第一線の教授や、活躍する仲間と共に学べたことが生きている。● 同窓生に優秀な方が多く、仕事上での関連があったのがよかった。

■ 保健衛生学科検査技術学専攻

● レベルが高い。大学院進学も多く、院進により就職後の常勤試験に有利となった。● 製薬企業に勤めていますが、学生時代の幅広い知識が後々、役に立っています。● 卒後10年経つが、今もなお同級生が頼もしい。大学院生として大学に戻った際でもお世話になった。

歯学部

■ 歯学科

● 歯学に関する最高の教育を受けられた。卒後も優秀な先生たちにいろいろ指導を受け、独り立ちしてからも患者さん本位の正しい治療を続けてこれた。● 教育熱心な先生の指導を受けることができました。また、医学部の先生や学生との指導や交流もよかったと思います。● 母校の名を汚してならないという思いが、自分の仕事や自己研鑽へのモチベーションになっています。● 国内での学術研究においてトップだから。

■ 口腔保健学科口腔保健衛生学専攻

● 大学時代の学びや海外研修、その他の研修で得た経験や人との関係が今の業務やモチベーションに繋がっていると強く感じるため。● 同級生、同窓生の繋がりによって、多種多様な情報が提供されていること。● 指導教官に恵まれ、高度な水準の教育を受けられたから。

■ 口腔保健学科口腔保健工学専攻

● 少人数で手厚い指導を受けられた。高い知名度は技工士として業務をする現在のモチベーションの一つでもある。● 先生や同期との距離が近く、現在も学んだ知識が活かされているため。● 技工に関することだけでなく、幅広く学べたので、就職選択肢が広がったと思ったからです。

入試情報

ADMISSIONS

□ アドミッション・ポリシー

求める学生像

東京医科歯科大学(東京科学大学医歯学系)は、本学の基本理念に共感し、本学で学ぶという強い意志をもった多様な人材を国内各地のみならず世界各国から受け入れたいと考えています。本学の使命は、研究者・医療人のリーダーを育て、広く社会・人類に貢献する人材を育成することです。それを実現するためには、幅広い教養と知識や、医療・生命科学への旺盛な好奇心のもと、問題を発見し、解決していく能力が必要となります。また、本学に入学し培われた経験は、日本国内のみならず、世界に発信していかなければなりません。そのためには、国内外に幅広く目を向け、医療・社会に貢献・還元するという使命感を在学中から意識し、卒業後に実践していく能力が必要です。このように、本学で学ぶために必要な基礎学力と、それをさらに発展させる力、自ら考え学習する能力と、それを生涯にわたって継続する力と意志、年齢相応の成熟度を備え、社会に貢献するために必要な倫理観およびこれから伸びる力を有している人材を求めます。

入学試験の基本方針

本学の入学試験では、学力検査などにより、高等学校において修得すべき知識・技能と、それらを基にした応用力・展開力を評価します。面接および提出書類により、医療に従事する者としての資質および適性、医療・生命科学領域に対する強い関心を持ち、それらの将来的な課題に対し、自ら考え解決しようとする力およびこれまでの主体性をもった取り組み(高等学校等在籍時の自己の活動、国際感覚に優れた活動など)を評価します。

□ 試験の種類

学部学科及び募集人員

東京科学大学医歯学系では、「一般選抜」と「特別選抜」を行います。「一般選抜」は、大学入学共通テストと分離分割方式(前期日程・後期日程)で行われる個別学力検査を実施します。「特別選抜」は、地域特別枠推薦選抜(医学部医学科)、特別選抜Ⅰ(学校推薦型選抜)、特別選抜Ⅰ(国際バカロレア選抜)、特別選抜Ⅱ(帰国生選抜)、私費外国人留学生特別選抜があります。その他に、2年次学士編入学(医学部医学科)試験、2年次編入学(歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻)試験があります。

学部・学科・専攻		募集人員内訳							
		一般選抜 (前期日程)	一般選抜 (後期日程)	地域特別枠 推薦選抜	特別選抜Ⅰ (学校推薦型選抜)	特別選抜Ⅰ (国際バカロレア選抜)	特別選抜Ⅱ (帰国生選抜)	私費外国人留学生 特別選抜	
医学部	医学科	69名	10名	15名	5名	2名	若干名	若干名	
	保健衛生学科	看護学専攻	35名	-	-	20名	若干名	-	若干名
		検査技術学専攻	20名	7名	-	8名	若干名	若干名	若干名
	小計		124名	17名	15名	33名	-	-	-
歯学部	歯学科	33名	10名	-	10名	若干名	若干名	若干名	
	口腔保健学科	口腔保健衛生学専攻	20名	-	-	2名	若干名	-	若干名
		口腔保健工学専攻	8名	-	-	2名	若干名	-	若干名
	小計		61名	10名	-	14名	-	-	-
合計		185名	27名	15名	47名	-	-	-	

(注) 1. 地域特別枠推薦選抜の15名(茨城県5名、長野県5名、埼玉県5名 認可申請予定)は、都道府県の策定する地域医療再生計画に基づく地域の医師確保に係る修学資金を活用した入学定員である。 2. 特別選抜Ⅰ(学校推薦型選抜)の募集人員の中には、医学部医学科を除き、特別選抜Ⅰ(国際バカロレア選抜)の募集人員を含む。合格者又は入学手続者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を一般選抜(前期日程)の募集人員に加える。 3. 一般選抜(前期日程)の募集人員の中には、特別選抜Ⅱ(帰国生選抜)の募集人員を含む。 4. 入学定員の中には、私費外国人留学生特別選抜の募集人員を含む。 5. 入学後に他の学科又は同一学科内の他の専攻へ転籍することはできない。

入試日程

※入試日程等は変更になる可能性があります。詳細は各試験の学生募集要項を参照してください。

試験の種類		入学試験日	合格発表
大学入学共通テスト		2025年1月18日(土) / 19日(日)	
一般選抜	前期日程	【学力検査・小論文試験・実技試験】 2025年2月25日(火) 【面接試験】 2025年2月26日(水)	2025年3月7日(金)
	後期日程	【小論文試験】 2025年3月12日(水) 【面接試験】 2025年3月13日(木)	2025年3月21日(金)
地域特別枠推薦選抜(医学部医学科)		【小論文試験】 2024年11月25日(月) 【面接試験】 2024年11月27日(水)	2024年12月13日(金) ^{※1}
特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	【小論文試験】 2024年11月25日(月) 【面接試験】 2024年11月26日(火)	2024年12月13日(金) ^{※2}
	国際バカロレア選抜	【小論文試験】 2024年11月25日(月) 【面接試験】 2024年11月26日(火) ^{※3}	2024年12月13日(金) ^{※4}
特別選抜Ⅱ	帰国生選抜	【学力検査】 2025年2月25日(火) 【面接試験】 2025年2月26日(水)	2025年3月10日(月)
私費外国人留学生特別選抜 ^{※5}		【学力検査】 2025年2月25日(火) 【面接試験】 2025年3月13日(木)	2025年3月21日(金)

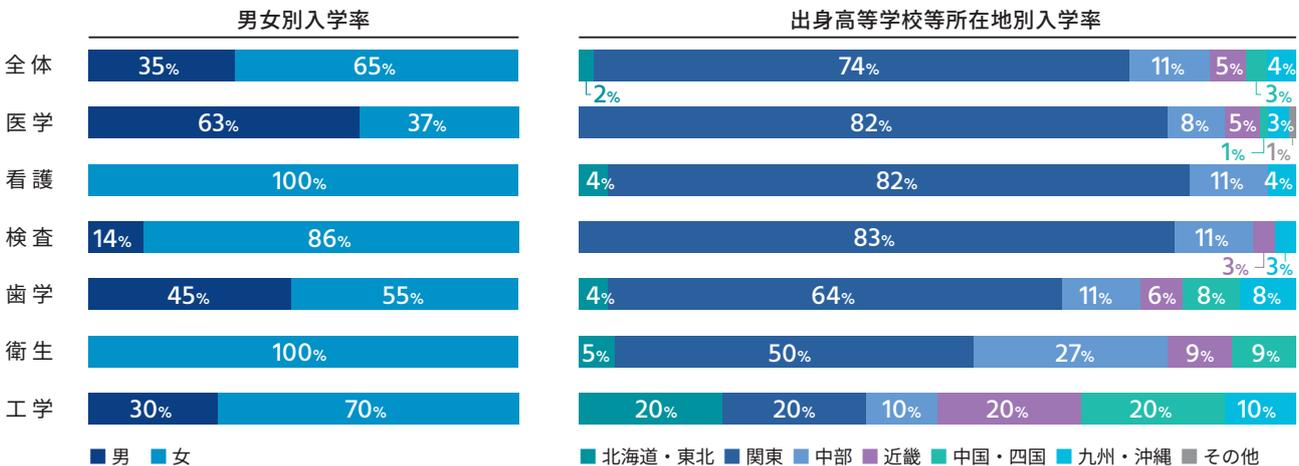
※1. 条件付合格として発表し、大学入学共通テストの成績を確認後、最終結果通知を送付する。 ※2. 医学部医学科、歯学部歯学科については条件付合格として発表し、大学入学共通テストの成績を確認後、最終結果通知を送付する。 ※3. 医学部医学科、保健衛生学科看護学専攻及び検査技術学専攻については志願者多数の場合、2024年11月27日(水)に面接試験を行う場合がある。 ※4. 出願期間に「IB 最終試験の成績証明書」を提出していない者については条件付合格として発表し、後日提出される「IB 最終試験の成績証明書」を確認後、最終結果通知を送付する。 ※5. 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」・学力検査により第1段階選抜を実施し、第1段階選抜合格者に対し面接試験を実施する。

□ 2024年度入学者選抜実施結果

学部・学科・専攻		選抜区分		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数		
医学部	医学科	一般選抜	前期日程	69	296(113)	4.3	264(104)	79(24)	77(24)		
			後期日程	10	173(64)	17.3	31(13)	10(4)	10(4)		
		特別選抜	特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	5	33(22)	6.6	19(11)	5(4)	5(4)	
				国際バカロレア選抜	2	8(3)	4.0	8(3)	1(1)	1(1)	
			特別選抜Ⅱ	帰国生選抜	若干名	2(1)	-	0(0)	0(0)	0(0)	
				地域特別枠推薦	茨城県枠 県内	2	7(3)	3.5	5(3)	2(2)	2(2)
			茨城県枠 全国		3	9(4)	3.0	5(0)	2(0)	2(0)	
			長野県枠		5	9(3)	1.8	9(3)	4(1)	4(1)	
		埼玉県枠	5	19(11)	3.8	12(6)	5(3)	5(3)			
		私費外国人留学生特別選抜	若干名	11(4)	-	7(2)	0(0)	0(0)			
	医学科 計				101	567(228)	5.6	360(145)	108(39)	106(39)	
	保健衛生学科	看護学専攻	一般選抜	前期日程	35	60(58)	1.7	56(54)	42(42)	41(41)	
			特別選抜	特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	20	26(26)	1.3	26(26)	14(14)	14(14)
					国際バカロレア選抜	若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)
				特別選抜Ⅱ	私費外国人留学生特別選抜	若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)
		看護学専攻 計				55	86(84)	1.6	82(80)	56(56)	55(55)
		検査技術学専攻	一般選抜	前期日程	20	89(69)	4.5	82(63)	21(16)	20(15)	
			特別選抜	後期日程	7	53(40)	7.6	28(23)	7(7)	7(7)	
				特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	8	22(22)	2.8	22(22)	8(8)	8(8)
					国際バカロレア選抜	若干名	2(2)	-	2(2)	0(0)	0(0)
特別選抜Ⅱ				帰国生選抜	若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)	
私費外国人留学生特別選抜	若干名			2(1)	-	0(0)	0(0)	0(0)			
検査技術学専攻 計				35	168(134)	4.8	134(110)	36(31)	35(30)		
保健衛生学科 計				90	254(218)	2.8	216(190)	92(87)	90(85)		
歯学部	歯学科	一般選抜	前期日程	33	123(61)	3.7	106(53)	37(19)	35(17)		
			後期日程	10	143(64)	14.3	31(15)	12(6)	10(5)		
		特別選抜	特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	10	22(14)	2.2	19(12)	8(7)	8(7)	
				国際バカロレア選抜	若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)	
			特別選抜Ⅱ	帰国生選抜	若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)	
				私費外国人留学生特別選抜	若干名	4(3)	-	4(3)	0(0)	0(0)	
	歯学科 計				53	292(142)	5.5	160(83)	57(32)	53(29)	
	口腔保健学科	口腔保健衛生学専攻	一般選抜	前期日程	20	60(55)	3.0	52(50)	25(25)	20(20)	
			特別選抜	特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	2	12(12)	6.0	9(9)	2(2)	2(2)
					国際バカロレア選抜	若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)
				特別選抜Ⅱ	私費外国人留学生特別選抜	若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)
		口腔保健衛生学専攻 計				22	72(67)	3.3	61(59)	27(27)	22(22)
		口腔保健工学専攻	一般選抜	前期日程	8	18(9)	2.3	15(8)	9(6)	8(5)	
			特別選抜	特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	2	3(3)	1.5	3(3)	2(2)	2(2)
国際バカロレア選抜					若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)	
特別選抜Ⅱ	私費外国人留学生特別選抜			若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)		
口腔保健工学専攻 計				10	21(12)	2.1	18(11)	11(8)	10(7)		
口腔保健学科 計				32	93(79)	2.9	79(70)	38(35)	32(29)		
1年次 総合計				276	1,206(667)	4.4	815(488)	295(193)	281(182)		
医学部	医学科		2年次学士編入学 *	5	64(38)	12.8	64(38)	5(3)	5(3)		
歯学部	口腔保健学科	口腔保健工学専攻	2年次編入学 **	5	6(5)	1.2	6(5)	3(2)	2(1)		
編入学 総合計				10	70(43)	7.0	70(43)	8(5)	7(4)		

※()の数字は、女子を内数で示す。 ※合格者数には、追加合格者も含む *修業年限6年課程の2年次へ編入学 **修業年限4年課程の2年次へ編入学

男女別 & 所在地別入学率



※小数点以下四捨五入のため合計が100%にならないことがあります。

資料請求・イベント

募集要項等のダウンロード方法

本学のホームページ (<https://www.tmd.ac.jp/>) にアクセス、または右側のQRコードを読み取る → トップページ「入学案内」 → 「学部入学案内」 → 「入試制度」より、各入試名をクリック → 「募集要項 PDFダウンロード」よりダウンロードして閲覧、印刷してください。入学者選抜要項は「入試制度」の「一般選抜」をクリックした先にてダウンロードできます。



※特別選抜Ⅰ（学校推薦型選抜、国際バカロレア選抜）、特別選抜Ⅱ（帰国生選抜）、地域特別推薦選抜、私費外国人留学生特別選抜学生募集要項は7月下旬、一般選抜学生募集要項は11月下旬に公開予定です。
※募集要項は紙媒体では作成していませんが、一般選抜学生募集要項のみテレメールによる「印刷・発送サービス」をご利用いただけます。
※全ての選抜において、Web出願を導入しております。

紙媒体資料（入学案内等）の請求方法

本学のホームページ (<https://www.tmd.ac.jp/>) にアクセス → トップページ「入学案内」 → 「学部入学案内」 → 「資料請求」をクリックし、ご希望の方法により資料請求してください。

携帯電話・スマートフォンで請求する
テレメールまたはモバっちょのサイトから
請求してください。



先輩が入学を決めた理由

「テレメール全国一斉進学調査」は進路選びのための活動や、入学先の大学を決めた理由を後輩たちに伝えるために、毎年、全国で一斉に実施される「株式会社フロムページ」によるアンケートです。これまでの「テレメール全国一斉進学調査」で先輩たちから寄せられた、入学を決めた理由を紹介しています。本学のホームページ (<https://www.tmd.ac.jp/>) にアクセス → トップページ「入学案内」 → 「学部入学案内」 → 「入学を決めた理由」をクリックしご覧ください。



イベント情報

本学のホームページ (<https://www.tmd.ac.jp/>) にアクセス → トップページ「入学案内」 → 「学部入学案内」 → 「イベント」をクリックし、最新情報をご確認ください。



学園祭

お茶の水祭

2024年
10月19日(土)、20日(日)
湯島地区

工大祭

2024年
11月3日(日)、4日(月)
大岡山キャンパス

※上記は予定となりますので、ご参加にあたっては、必ずホームページで最新情報をご確認ください。

国府台地区

医学部・歯学部学生の教養教育の拠点として、最初の学舎がおかれている国府台地区。
東京都に隣接する千葉県市川市にあり、湯島・駿河台地区にも約50分でアクセスできます。

沿革と今

緑豊かなキャンパスで全学生がともに学び、サークル活動を楽しむ

国府台地区は、江戸川を挟んで東京に隣接する千葉県市川市、下総台地の西端にあたる高台に位置します。国府台の地名は、大化の改新によってできた新政府により、この高台下総の国府がおかれたことに由来します。この地域が昔から交通の要所であったためです。室町時代には現在の里見公園北側に国府台城が作られ、江戸時代になると、国府台一帯は、曹洞宗の寺院の総支配権を持つ総寧寺の広大な寺域となりました。明治になって国立大学の候補地になりましたが計画は立ち消えとなり、その後、軍の施設がおかれるようになります。戦後、その跡地が文教地区となってよみがえり、現在の姿になりました。

教養部の前身は旧制大学の予科ですが、その後、紆余曲折を経て、教養部として大学の分院のあったこの国府台に設置されました。以来、国府台地区は東京医科歯科大学の教養教育の拠点となるとともに、体育館、弓道場、武道館、グラウンドがおかれ、学生の課外活動の中心ともなっています。

約6万㎡の緑豊かなキャンパスには、法皇塚古墳があります。大学キャンパス内に古墳のある大学も珍しい

のですが、これもこの地域が歴史的に重要な地域だったことを示しています。また、豊かな感性を身につけてもらうために、キャンパス内には絵画や彫刻作品を展示しています。これらは東京藝術大学の卒業制作作品を借り上げたものです。このような環境で、学生は大いに学び、サークル活動等を通じてお互いの交流を深めながら、充実した毎日の中で将来への夢を育みます。

Kounodai Campus 国府台地区



1 国際学生宿舎



東京医科歯科大学教養部奨励賞 展示作品 (東京藝術大学 卒業制作作品)



「起源」



「鳴くこと」



「cyclops」



「時の記憶」



2 国際交流会館



3 グラウンド



4 弓道場



5 体育館



6 テニスコート



7 武道館



8 法皇塚古墳



9 シャン・ドゥ・コーズリー
(福利厚生棟)



10 学生寄宿舍(里見寮)



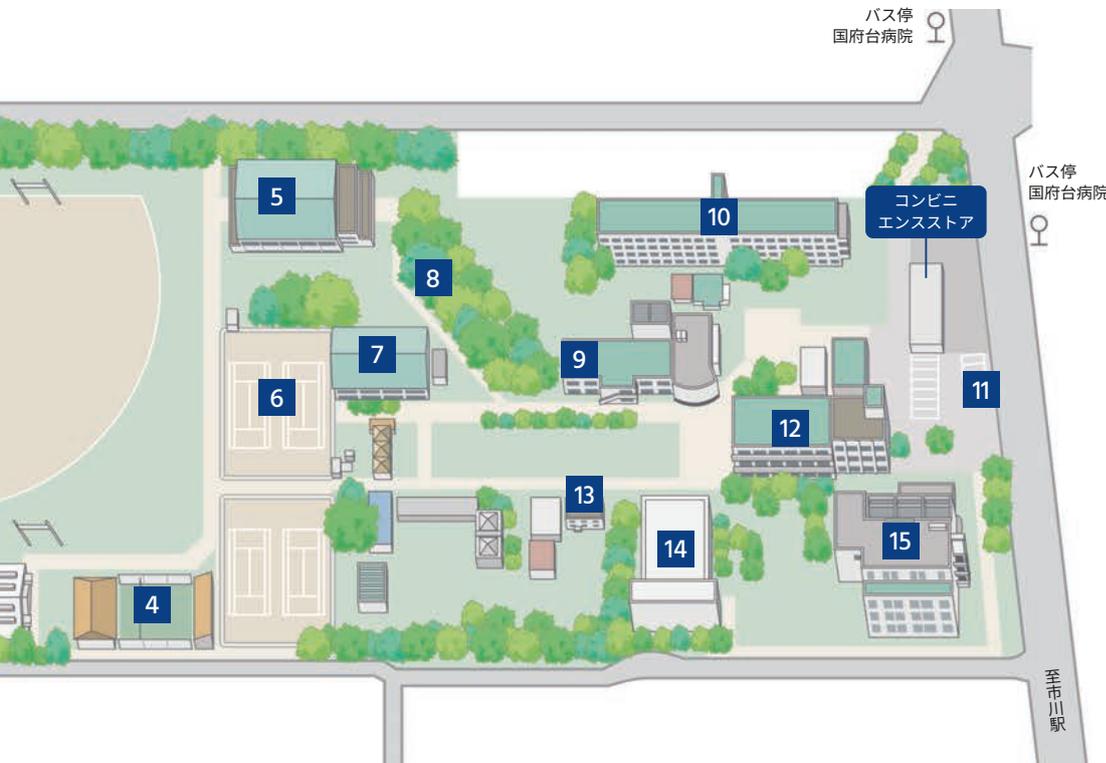
11 正門



12 管理研究棟



13 合宿研修所

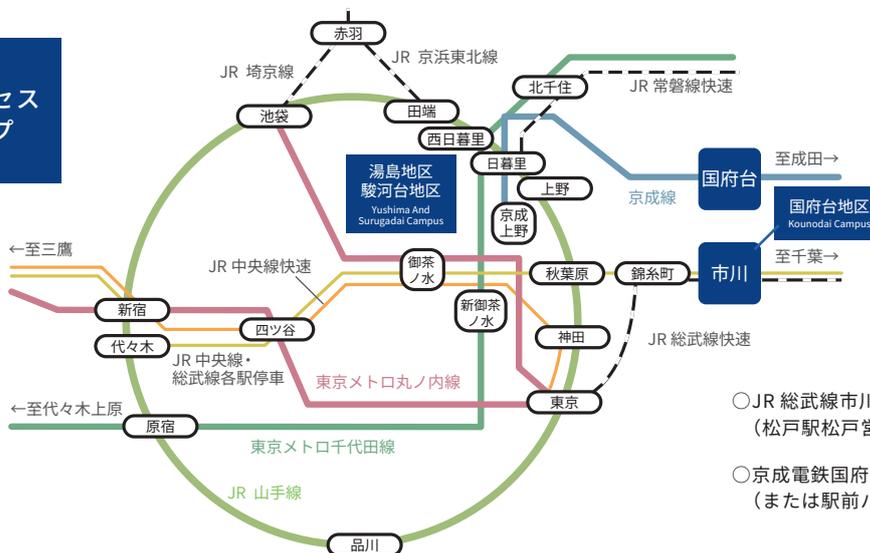


14 国府台図書館



15 ヒポクラテスホール
(校舎棟)

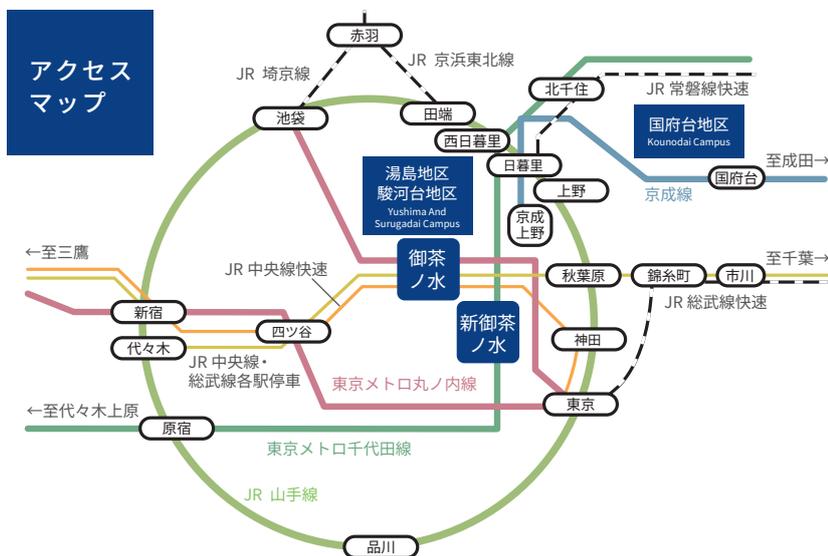
アクセス
マップ



- JR 総武線市川駅より京成バス1番乗り場
(松戸駅松戸営業所行) 国府台病院下車...徒歩2分
- 京成電鉄国府台駅より...徒歩15分
(または駅前バス停より上記バスに乗り)

湯島地区・駿河台地区

東京都心の歴史ある地域に広がる湯島・駿河台地区。
 研究棟や大学病院が建ち並ぶキャンパスで、
 高度な知識と技術を持つ医療人を育成するための専門教育が行われます。



- JR 総武線・中央線御茶ノ水駅
御茶ノ水橋口より...徒歩 2分
- 東京メトロ丸ノ内線御茶ノ水駅下車すぐ
- 東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅
B1 出口より...徒歩 2分

Surugadai Campus

駿河台地区



理工学系キャンパス

大岡山キャンパス

- 東急大井町線・目黒線大岡山駅
徒歩 1分

すずかけ台キャンパス

- 東急田園都市線すずかけ台駅
徒歩 5分

田町キャンパス

- JR 山手線・京浜東北線田町駅
徒歩 2分



1 21号館



2 22号館



3 M&D タワー



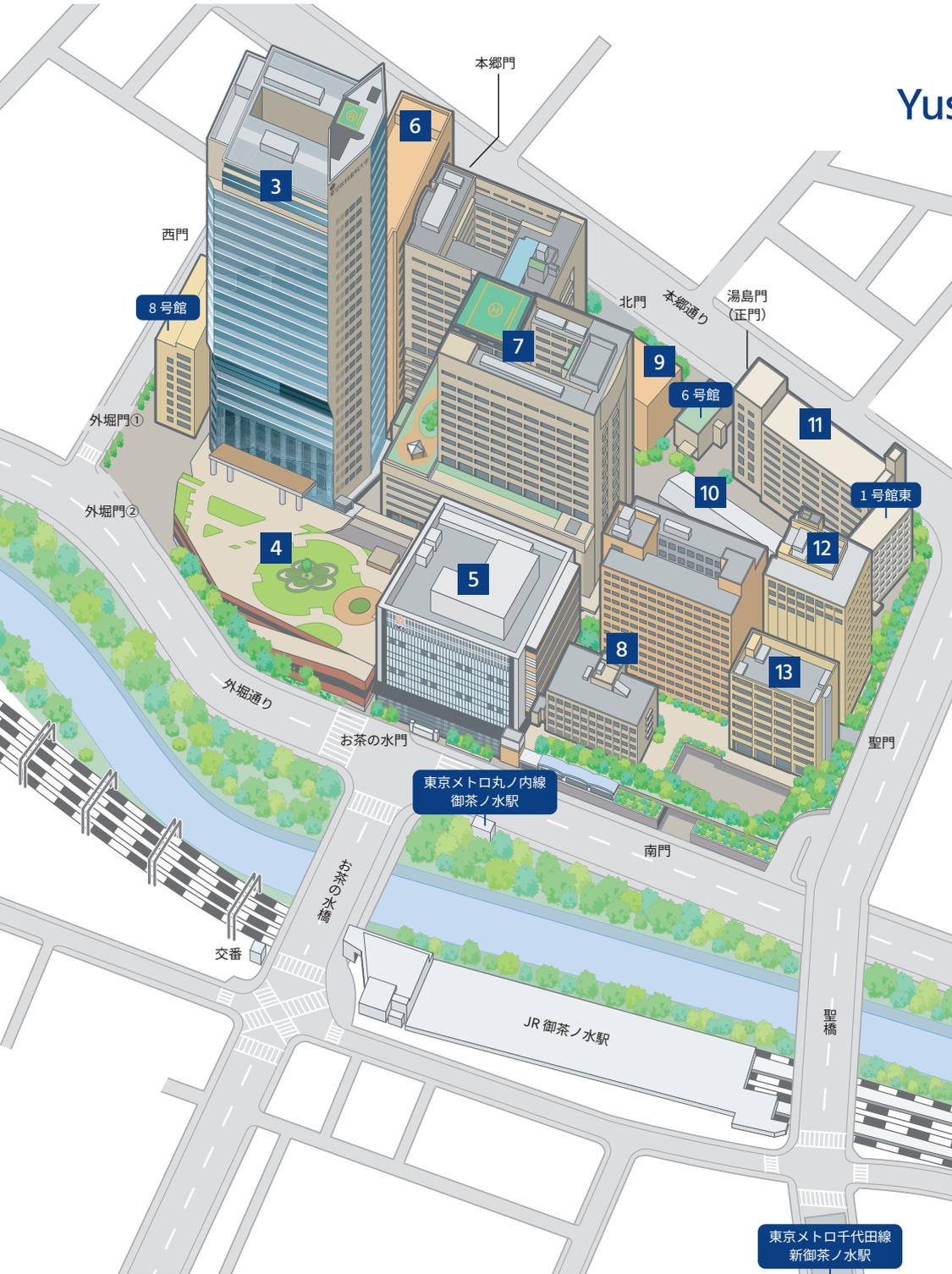
4 知と癒しの庭



5 C 棟

Yushima Campus

湯島地区



6 3号館



7 A棟・B棟



8 D棟

キャンパス概要
湯島地区・駿河台地区



9 5号館



10 2号館



11 1号館西



12 7号館



13 10号館



〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45
東京科学大学入試課(医歯学系)
TEL: 03-5803-5083
WEB: <https://www.isct.ac.jp>